

鹿児島高専だより

第 60 号

平成21年 3 月

〈特集〉学生支援GP



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

目 次

校長室から

平成20年度の課外活動、高専祭、
校内美化を振り返って…………… 1

特集「新たな地域連携型クラブ活動 支援プログラム」について

学生支援の現状…………… 2

教務だより

創造力育成のための地域連携…………… 8
平成20年度 海外語学研修報告…………… 9
夏季補習と保護者懇談会……………12
工場見学旅行を終えて……………13
最先端技術の見学……………13
工場見学旅行に参加して……………14
工場見学旅行……………14
工場見学旅行……………15
学業成績の評価並びに課程修了の認定等
に関する規則及びその運用内規の一部
改正について（周知）……………16

学生だより

クラブ活動指導の今後のあり方について……………17
学生会活動について……………19
体育祭を終えて……………20
今年の文化祭について……………21
ロボコン～これからのメカ研に向けて～……………22
平成20年度リーダー研修について……………23
校内美化運動について……………24
交通だより……………25
初優勝！ 全国高専大会……………26
アイデア対決・全国高等専門学校ロボット
コンテスト2008……………27

志学寮だより

寮の1日……………28
一年間を振り返って……………28
1年間を振り返って……………29
一年を振り返って……………29
一年を振り返って……………30
今年の反省……………30

専攻科だより

教育GP「技術士会と連携した新たな実践
的技術者教育」の紹介……………31
機械・電子システム工学専攻修了生に
贈る言葉……………32
電情シ専攻修了生へ……………32
土木工学専攻修了生に贈る言葉……………33

国際交流だより

「カセサート大学との交流2008」……………34

JABEEだより

「JABEE認定継続審査を受けて」……………35

学生何でも相談室だより

学生相談研修会に学ぶ……………36

図書館から

図書館への絵画の寄贈……………37

卒 業

卒業 送る言葉……………38
高専での5年間を振り返って……………39
出会ったすべてに感謝……………39
卒業にあたって……………40
5年間の高専生活……………40
卒業にあたって……………41
専攻科を修了にするにあたって……………41
専攻科を修了するにあたって……………42
専攻科を修了するにあたって……………42
卒業研究テーマ一覧表……………43
卒業生の就職・進学一覧及び修了生の
就職・進学一覧……………49

教職員の動向

退職のご挨拶……………52
離任のご挨拶……………54
平成20年度表彰者……………55

留学生だより

平成20年度留学生活動報告(2)……………56

同窓生だより

在校生のみなさんへ……………57
感謝の気持ちをもつ……………57
航空機の整備士となって……………58

Que sera, sera（ケセラセラ）……………58

同窓会に参加しよう……………59

後援会だより

全国高専体育大会と
高専ロボコン2008全国大会……………60
後援会理事に携わって……………60
後援会主催行事に参加して……………61
5年間をふり返って……………61
学校へ行ってみませんか……………62

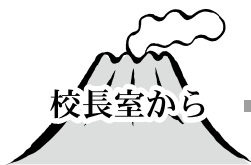
平成21年度行事予定表

平成21年度行事予定表……………63

【表紙の説明】

左上：学生支援GP主催 陸上競技教室
左下：学生支援GP主催 サッカー教室
右上：学生支援GP主催 ソフトテニス講習会
右下：学生支援GP主催 バドミントン教室





平成20年度の課外活動、高専祭、 校内美化を振り返って

校 長 赤坂 裕

課外活動

平成20年度、九州・沖縄地区高専体育大会は、会場が北九州、佐世保、久留米、熊本に分散したため、私は全部の会場を回ることではできませんでしたが、幾つかの会場で本校の学生を応援しました。いつもながら競技に打ち込んでいる学生諸君を応援していると、こちらも元気づけられます。

全国大会は北海道が会場で、硬式テニスは団体戦とダブルスで優勝、個人戦で3位、サッカーは準優勝、陸上競技は1600メートルリレーで準優勝、ソフトテニスは男子団体戦で3位というすばらしい成績でした。硬式テニスは31回目になりますが、本校は過去30回で、個人戦も含め準優勝以上が一度もありませんでした。幾つかの高専に上手い選手が何人かいましたが、団体戦は少なくとも4～5名の選手が揃わないと戦えません。団体戦優勝が即ち高専の優勝なのです。本校の団体優勝が決まってチームが集合した時、部長は一言も話せませんでした。しかし思いは全部員に伝わっていました。テニス部はこれまで頂点を目指すという目標がありましたが、これからは違います。全国優勝20回のサッカー部のように、優勝できるチーム力を維持していくのは大変なことです。

今年初めて、私は福島で開催された全国プログラミングコンテストの応援に行きました。プロコンには競技部門と課題部門があります。今回の競技部門は、主催者側のプログラムミスで勝敗の判定ができないという結果になってしまいました。課題部門では、学生は審査員の前

でパソコンを動かしながら自分たちのプログラムを説明するので、プレゼンテーション能力が要求されます。

ロボコンでは、本校の「篤姫と機械な仲間達」が九州沖縄地区大会でアイデア賞と特別賞を、国技館の全国大会でも同じくアイデア賞と特別賞を獲得しました。本校のロボットは、公平に見ても全国の5指には入る出来映えで、「鹿児島高専は毎年いいロボットを作る」という審査員の講評が誇りに思えました。

高専祭

第46回の高専祭は平成20年11月1日、2日に開催されました。応援合戦は観客に本番までの厳しい練習を想像させずにはおかないレベルであり、櫓（やぐら）絵も例年通りの見事な出来栄でした。私は、本校の応援合戦と櫓絵は全国一だと思います。他の高専の体育祭を見たわけではないのですが、見なくても本校のようにやれるはずがないと思うのです。しかし残念だったのは、ハメをはずす時と締まる時の切り替えができていなかったことです。高専祭はたしかに学生の祭典です。一見ハメをはずすように見える行為も学生諸君にとってはパフォーマンスの一つかもしれませんが、校長が台に上がるようなときには、それまで騒いでいても、団長の一声で静かにするといったメリハリが欲しいのです。それができるようになれば、本校の学生諸君は一段レベルアップしたといえるでしょう。

校内美化

校舎改修が着々と進んでいます。改修され、設備がよくなっても、大事に使わなければ汚れたり痛んだりします。粗末に使うようでは整備する意义がありません。それなら質素なまま大事に使う方が余程ましです。私はよく、学内を回ったり、キャンパスを歩いたりしていますが、もう少し教室やキャンパスの美化に心がけることが大事だと感じています。学生委員会が中心になって校内美化の導入を計画し実施していますが、十分に浸透しているとはいえません。高専祭の前には後援会の方々に草払いをやってもらっています。学内でも、学生や教職員が校内美化への意識を高め、日常的に美化に取り組んでいきたいものです。



特 集

「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」について

学生支援の現状

学生主事 三角 利之
学生主事補 北園 裕一

1. はじめに

現在、本校では文部科学省の平成19～20年度大学改革推進事業の一つである「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」（通称、学生支援GPと称する）として、「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」の取組を実施している。この「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」の取組は、平成19年度の文部科学省の学生支援GPの公募に、本校から申請し、採択されたプログラムである。なお、学生支援GPの申請数は、全国の大学・短大・高専から272件あり、本校のプログラムを含めて70校のプログラムが選定された。

本校のプログラムは、学生の全人教育の観点から重要な役割を担っているクラブ活動を、地域と連携して積極的に支援するものであり、特に、地域の学校が抱えているクラブ活動指導の問題点を、地域と連携して解決しようとする試みである。また、このプログラムは、課外教育活動（クラブ活動）の充実発展および全人教育のシステム構築を目指したものであり、全国の大学・短大・高専の課外教育活動（クラブ活動）のあり方のモデルケースとして期待されるものである。ここでは、本プログラムの2年間の取組状況とその成果、課題等を分析検討し、今後の本取組の在り方や方向性について報告する。

2. プログラム概要

クラブ活動は、学生の人間の素養の涵養をはかり、リーダーシップ、協調性、自主性などを育成する上で、極めて重要な役割を担っている。現在、本校では体育系クラブとして23の部、4の同好会、文化系クラブとして11の部、9の同好会があり、全学生の約73%がこれらのクラブに所属し活発に活動している。本校では、クラブ活動の教育的重要性に鑑み、全教員がクラブ活動の顧問として、積極的にその指導にあたっている。しかし、教育現場における人的、物的、財政的等の要因により、クラブ活動の指導教員が、その指導内容、安全な活動の実施などについて十分対応できていないのが現状である。

そこで、本プログラムは、このようなクラブ活動の支

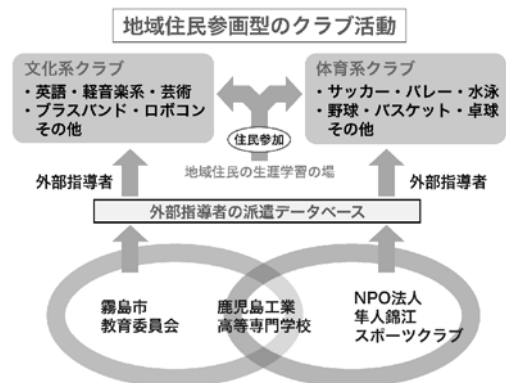


図1 新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム

援に関する問題点を解決するために、地域と連携したクラブ活動支援を提案し、実践していく取組である。具体的には、図1に示すように、本校と密接な関係にある「霧島市教育委員会」、総合型地域スポーツクラブ「NPO法人隼人錦江スポーツクラブ」と連携し、地域に潜在する有能な人材を学外指導者として登用し、学生の活気あるクラブ活動を積極的に支援しようとするものである。

さらに、クラブ活動を地域住民の生涯学習の場としても機能させ、地域住民が学生とともにクラブ活動に参加することによって、世代間の交流や地域住民との交流を促し、クラブ活動を通じて学生の人間性の涵養を図る地域連携型の共同教育を実施する取組である。

3. プログラム実施状況

本プログラムは、平成19年10月から取組準備を始め、同年11月から本格的な取組を実施している。主な取組の内容は、次の通りである。

(1) 学外指導者発掘システムの構築

本校、霧島市教育委員会、NPO法人隼人錦江スポーツクラブの三者が連携して、地域に潜在する有能な指導者の情報を調査・収集し、データベース化する取組を実施している。主に、霧島市を中心としたスポーツ・文化系団体から58種目、224名の学外指導者を登録している。またこの人材データベースは、地域の学校のクラブ活動、生涯学習活動および生涯スポーツ活動等に、有効に活用できるように、霧島市教育委員会およびNPO法人隼人錦江スポーツクラブと共有化している。

(2) 学外指導者の登用

各クラブの学外指導者のニーズ調査と作成した人材データベースを基に、平成20年11月現在、17クラブにおいて23名の学外指導者を登用し、クラブ活動を積極的に支援している。その状況を表1に示す。また、本校23では「学外指導者指導要領」を定め、学外指導者が行う指導内容および事故防止の備え、事故発生時の

表1 学外指導者登用状況（H20.11現在）

	種 別	人数		種 別	人数
1	バスケット部	2	10	小林拳部	1
2	卓球部	1	11	硬式野球部	2
3	陸上競技部	2	12	ブラスバンド部	1
4	弓道部	1	13	バドミントン部	2
5	水泳部	1	14	テニス部	2
6	ソフトテニス部	2	15	ハンドボール部	1
7	合気道部	1	16	英語部	1
8	極真空手部	1	17	剣道部	1
9	サッカー部	1		合 計	23

対応等に関する事項を明確にし、学外指導者が安心して指導出来るようにした。併せて、指導教員向けに「学外指導者への対応マニュアル」も作成した。このマニュアルには、学外指導者の役割、学生引率に関する事、緊急連絡体制等について明示されており、これにより、本校教職員の共通認識のもと、指導教員が学外指導者に対しより適切な対応をとる事ができるようになった。

(3) 地域住民参画型クラブ活動の実施

地域住民参画型クラブ活動として、著名な選手や指導者を講師として招聘し、スポーツ教室を開催した。このスポーツ教室には、本校の学生、地域の小・中・高校生、指導者、地域住民等も参加した。平成19年度は、バスケットボール教室、ソフトテニス教室、陸上教室、サッカー教室、バドミントン教室を計15回開催し、総計1634名の参加者があった。また、平成20年度は（平成20年12月現在）、バスケットボール教室、ソフトテニス教室、陸上教室、水泳競技指導者講習会を計8回開催し、総計1344名の参加者があった。これらの教室では、技術向上のための講習会のみならず、本校学生と中学生や地域住民との様々な交流が行われた。どの教室も非常に好評であり、地域住民のスポーツの振興にも大いに貢献した。なお、平成21年3月までに、英語教室やバスケットボール教室、サッカー教室も開催を予定している。さらに、文化系の教室として、外国人指導者による英語教室や、吹奏楽部とメカトロニクス研究部の共催による演奏会も開催している。

(4) その他

体育系・文化系クラブに関する環境整備を行った。また、他の先進的なクラブ活動支援の情報収集、本取組に関するアンケート調査および分析・評価、これらの諸活動を総括したフォーラムおよび評価委員会を開催した。



写真1 陸上競技教室 活動風景



写真2 英語教室 活動風景

4. 本取組における効果

本プログラムの効果を探るため、まず全学生及び全指導教員へ対し、平成19年9月に、クラブ活動に関する事前意識調査を質問紙法により実施した（以後、事前意識調査とする）。

また、前述の事前意識調査から本取組後の意識の変容等を探るため、平成20年3月に学外指導者を登用している該当クラブの学生250名、指導教員26名及び学外指導者15名へ対し（以後、中間意識調査とする）、さらに平成20年12月にも該当クラブの学生291名、指導教員31名及び学外指導者19名へ対し（以後、最終意識調査とする）、学外指導者登用に関する効果調査を質問紙法により実施した。上記の3つの調査結果分析より明らかになった効果について項目ごとに述べることとする。

(1) 学生のクラブ活動への意欲及びクラブの活性化に関する効果

学生を対象に実施したクラブ活動に対する事前意識調査において、『クラブ活動へ意欲的に取り組んでいるか』という質問をしたところ、「とても思う」と回答した学生の割合が36%であったのに対し、最終意識調査における『学外指導者が来るようになりクラブ活動への意欲は高まったか』という質問では「とても思う」と回答した学生の割合は43%へと向上した（図2）。

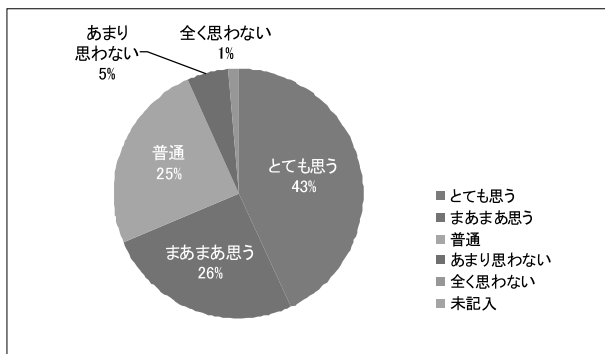


図2 クラブ活動への意欲は高まったか（学生）
～最終意識調査～

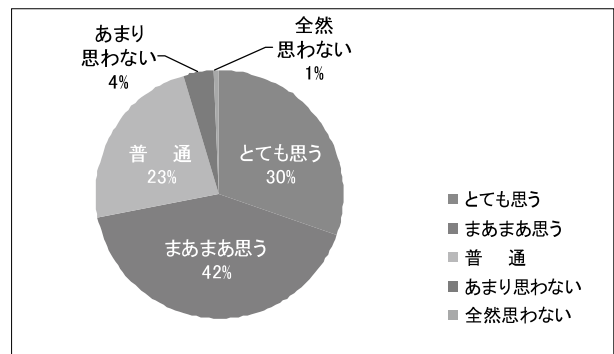


図4 技術・体力面の向上が見られたか（学生）
～中間意識調査～

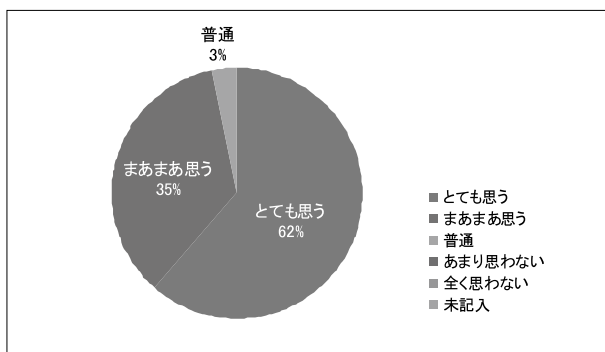


図3 クラブ活動への意欲は高まったか（教員）
～最終意識調査～

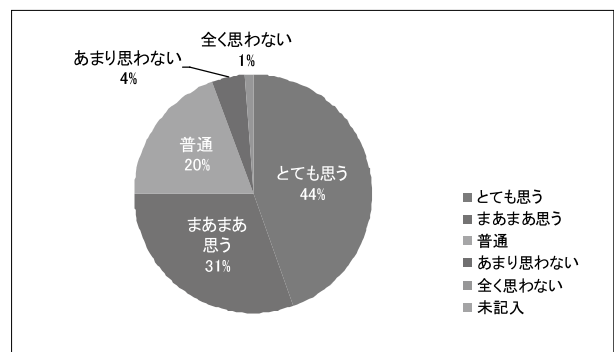


図5 技術・体力面の向上が見られたか（学生）
～最終意識調査～

また、最終意識調査において、指導教員へ『学外指導者を登用したことで学生のクラブ活動への意欲は高まったと思うか』という問いに対し、「とても思う」が62%、「まあまあ思う」が35%と非常に高い割合を示した（図3）。これらの結果より、学外指導者登用により、学生のクラブ活動への意欲はとても向上したことが分かる。

次に、最終意識調査において、学生へ『学外指導者登用はあなたの所属するクラブ活動の活性化につながったと思うか』という質問をしたところ、「とても思う」と回答した割合が50%、「まあまあ思う」と回答した学生も25%と高い割合を示した。同じく最終意識調査において指導教員へ『学外指導者登用はクラブ活動活性化へつながったと思うか』という質問をした。「とても思う」が65%、「まあまあ思う」は29%と8割以上の指導教員が学外指導者登用はクラブ活動の活性化に大きく寄与していると考えていることが分かる。

これらの結果より、学外指導者を登用したことにより学生のクラブ活動への意欲は大きく向上し、そのことがクラブ活動全体の活性化に繋がっていると推察される。

(2) 学生の技術・体力面における効果

学生を対象とした中間意識調査において、『学外指導者登用により技術・体力面の向上が見られたか』という問いに対し、「とても思う」と回答した学生の割合は30%であったが（図4）、最終意識調査においては同質

間に関して「とても思う」と回答した学生の割合は44%まで向上した（図5）。

また、学外指導者へ対する中間意識調査においても『学生の技術・体力面の向上が見られたか』という質問では、「とても思う」と回答した学外指導者は15%であったのに対し、最終意識調査では「とても思う」と回答した学外指導者は32%、「まあまあ思う」と回答した学外指導者も52%と高い数値を示した。

これらの結果より、継続的に学外指導者から指導を受けるようになり、学生の技術・体力面の向上が大きく図られていることが分かる。

このことは、学生の事前意識調査から見られた「専門的な技術指導が受けたい」という学生の強い要望に応える形となり、併せて、指導教員の事前意識調査から見られた「専門的な指導ができない」という不安を解消することへと繋がっていると思われる。

(3) クラブ活動における安全面への効果

学生への事前意識調査において、『クラブ活動では安全に活動できているか』という質問をした。「とても思う」と回答した割合は34%、「まあまあ思う」と回答した割合も37%と、比較的高い割合の学生が安全に活動できていると感じていたことが分かる。

この結果を踏まえ中間意識調査及び最終意識調査を実施したわけであるが、学生への『学外指導者は安全面に

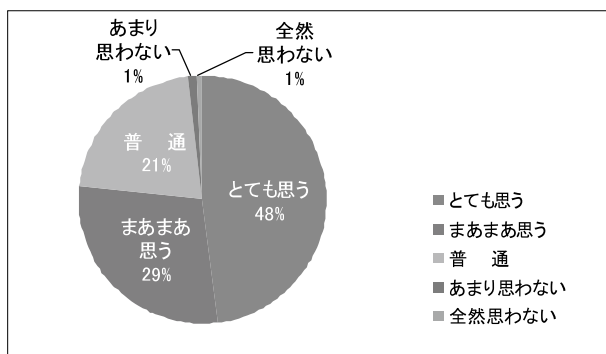


図6 学外指導者は安全面に配慮しているか（学生）
～中間意識調査～

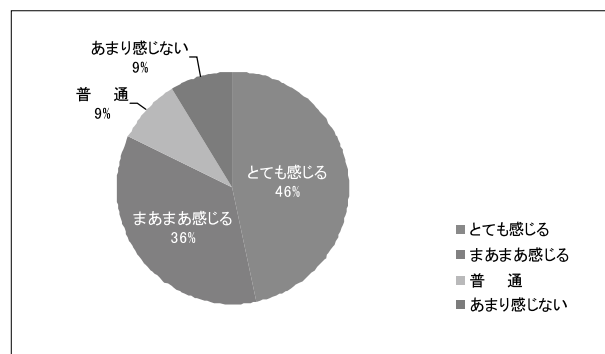


図8 クラブ活動指導での安全面に関して、心理的負担を感じているか（教員）
～事前意識調査～

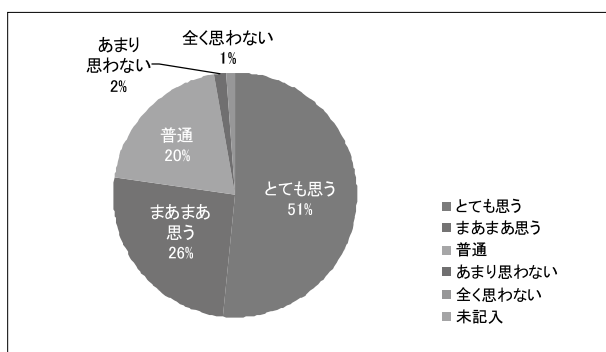


図7 学外指導者は安全面に配慮しているか（学生）
～最終意識調査～

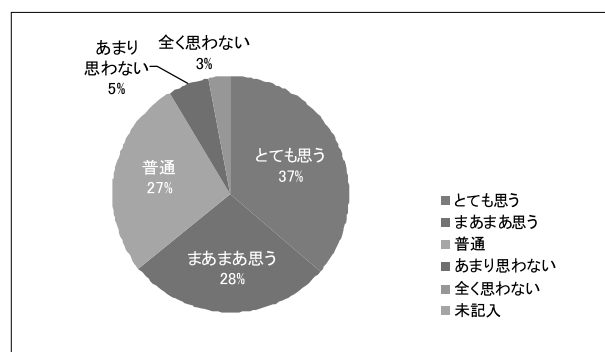


図9 クラブ活動を通して規則正しい生活が送れるようになったか（学生）
～最終意識調査～

配慮しているか』という設問に対し「とても思う」と回答した学生の割合は、中間意識調査においては48%（図6）、最終意識調査に至っては51%（図7）と非常に高い割合を示した。これらより学外指導者の指導は学生にとって安全面にとっても配慮した指導を行っていると言える。

一方、指導教員への事前意識調査で、『クラブ活動指導での安全面に関して、心理的負担を感じているか』という設問に対し、「とても感じる」と回答した割合は46%、「まあまあ感じる」と回答した割合も36%と非常に高い数値を示した（図8）。このことより、8割以上の指導教員はクラブ活動指導の中で、安全面に関して大きな心理的負担を感じていたことが分かる。

次に、指導教員に対する中間意識調査及び最終意識調査において、『学外指導者登用によりクラブ活動における安全性の向上が図られたと思うか』という設問をしたところ、「とても思う」と回答した指導教員の割合は中間意識調査の36%から最終意識調査の55%へと大きく向上した。このことより、多くの指導教員は学外指導者を登用することでクラブ活動の安全性が向上していると感じていることが分かる。

これらの結果より、学外指導者登用は学生のクラブ活動における安全性の向上に多に効果があり、安全面の確保はもとより、指導教員が抱えていたクラブ活動にお

ける安全面に対する心理的負担を軽減することへと繋がっていることが推察できる。

(4) 学生の生活態度等に関する効果

学生に対し、『クラブ活動を通して規則正しい生活が送れるようになったか』という質問を最終意識調査で行った。「とても思う」と回答した割合は37%となり、「まあまあ思う」と回答した割合も28%と6割以上の学生がクラブ活動を通して規則正しい生活を送れるようになってきていると感じていることが分かる（図9）。

同様の質問を最終意識調査において指導教員及び学外指導者にも行った。指導教員の回答を見ると、「とても思う」と回答した割合は16%となり、「まあまあ思う」と回答した割合も46%と6割以上の指導教員が、学外指導者にいたっては「とても思う」と回答した割合が16%、「まあまあ思う」と回答した割合も58%と、7割以上の学外指導者が、学生はクラブ活動を通して規則正しい生活を送れるようになってきていると感じていることが分かる。

さらに、学生の挨拶について『クラブ活動を通して日頃から挨拶ができるようになったか』という設問を、学生、指導教員及び学外指導者に対し、最終意識調査において質問した。まず学生の回答結果を見ると、「とても思う」と回答した割合は39%となり、「まあまあ思う」と回答した割合も30%と、約7割の学生がクラブ活

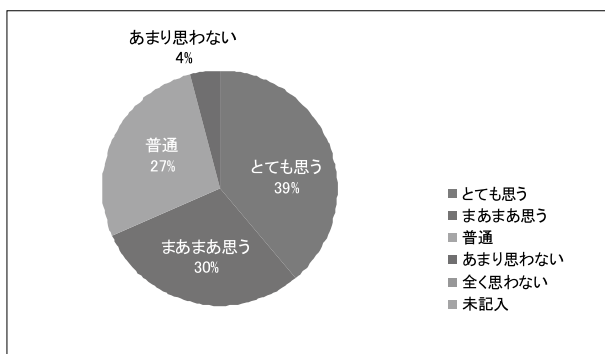


図10 クラブ活動を通して日頃から挨拶ができるようになったか（学生） ～最終意識調査～

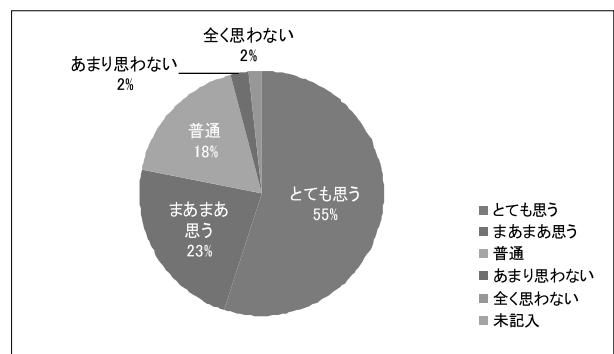


図12 今後も学外指導者から指導を受けたいと思うか（学生） ～最終意識調査～

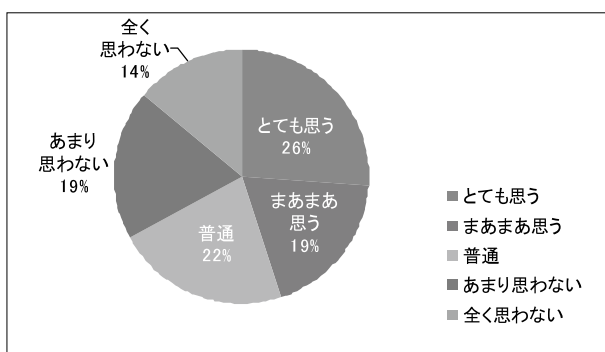


図11 あなたの所属するクラブに学外指導者が必要か（学生） ～事前意識調査～

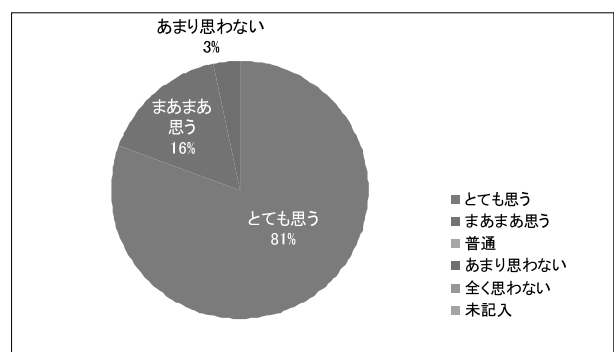


図13 今後も学外指導者から指導を受けたいと思うか（教員） ～最終意識調査～

動を通じて挨拶の習慣が良くなっていると感じていることが分かる（図10）。

次に指導教員の回答結果を見てみると「とても思う」と回答した割合は13%となり、「まあまあ思う」と回答した割合も55%であった。そして学外指導者の回答結果を見ると、「とても思う」と回答した割合は26%となり、「まあまあ思う」と回答した割合も53%とどちらも比較的高い割合を示した。

このことより、指導教員及び学外指導者、さらには学生自身も、クラブ活動を通して学生は挨拶ができるようになってきていると感じていることが分かる。

(5) 学外指導者登用に関する意識の変容

学生に対する事前意識調査で、『あなたの所属するクラブに学外指導者が必要か』という設問の回答結果を図11に示す。図11から「とても思う」と回答した割合は26%、「まあまあ思う」と回答した割合も19%と約4割5分の学生が学外指導者を必要としていたことが分かる。

これに対し、学生に対する最終意識調査において『今後も学外指導者から指導を受けたいと思うか』という設問の回答結果を図12に示す。図12から「とても思う」と回答した割合は55%、「まあまあ思う」と回答した割合も23%と約8割近くの学生が今後も学外指導者を必要としていることが分かる。

さらに、最終意識調査において、学生へ『学外指導者の登用はクラブ活動指導において有効だと思うか』という質問をしたところ、「とても思う」と回答した割合は60%と非常に高い数値を示し、「まあまあ思う」と回答した割合も23%であった。

一方、最終意識調査において指導教員へ『今後も学外指導者から指導を受けたいと思うか』という質問をしたところ、「とても思う」と回答した割合は81%、「まあまあ思う」と回答した割合も16%と、9割以上の教員が今後も学外指導者を希望していることが分かり（図13）、『学外指導者の登用はクラブ活動指導において有効だと思うか』という質問に対しては、「とても思う」と回答した割合は65%と非常に高い数値を示し、「まあまあ思う」と回答した割合も29%と、こちらも非常に高い割合を示した。

これらの結果より、実際に学外指導者を登用することで学外指導者登用の有効性を高く感じ、さらに多くの学生及び指導教員が、今後も学外指導者を必要としていることが分かる。

(6) クラブ活動指導上の課題解決への効果

これまで、本プログラムにおける学生に及ぼした効果を中心に述べてきたが、クラブ活動指導上の課題解決への効果として、指導教員に及ぼした効果についても述べてみたい。指導教員に対する事前意識調査において、

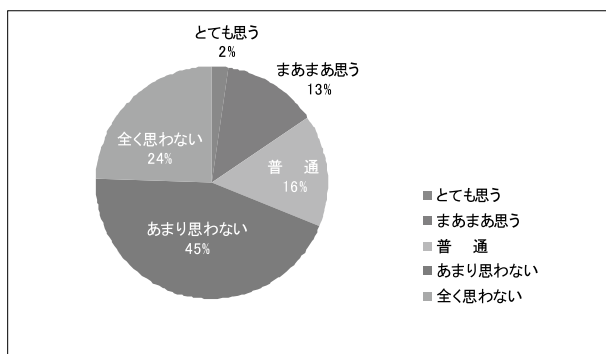


図14 クラブ活動指導に十分対応できていると思うか（教員）～事前意識調査～

『教員の職務が、多様化・多忙化しているが、クラブ活動指導に十分対応できていると思うか』という質問をしたところ、図14のような回答結果となった。「とても思う」と回答した指導教員は僅か2%しかおらず、「まあまあ思う」と回答した指導教員も13%と低い数値を示した。この結果より、学外指導者登用以前ではクラブ活動指導に十分対応できていなかった状況が把握できる。次に、指導教員への中間意識調査及び最終意識調査において『学外指導者登用により、クラブ活動指導に十分対応できるようになったと思うか』という質問を行った。中間意識調査の結果では、「とても思う」と回答した割合は44%となり、「まあまあ思う」の回答割合も32%であった。最終意識調査では「とても思う」と回答した割合は45%となり、「まあまあ思う」と回答した割合も29%であった（図15）。

次に指導教員へ中間意識調査及び最終意識調査において『学外指導者の登用により、クラブ活動指導の負担は軽減されたと思うか』という質問を行った。中間意識調査の回答結果を見ると、「とても思う」の割合は32%となり、「まあまあ思う」の割合も32%であった。最終意識調査では「とても思う」の割合は55%と向上し、「まあまあ思う」の割合も19%であった。

これらの結果より、指導教員は学外指導者を登用することでクラブ活動指導に十分対応できるようになり、併せてクラブ活動指導の負担が軽減されていることが分かる。このことは、教員自身の研究活動のさらなる充実及び教育活動の活性化へと繋がるものと思われる。

5. 終わりに

本取組に関して、学生、指導教員、学外指導者を対象とした事前意識調査と、学外指導者登用の中間及び最終意識調査結果を分析し、学外指導者登用により、次のような効果が得られていることがわかった。

- (1) 学外指導者による効果的なクラブ活動指導により、学生のクラブ活動への意欲が大きく向上し、そのことがクラブ活動の活性化へと繋がっている。
- (2) 専門知識を有する学外指導者の指導により、学生の

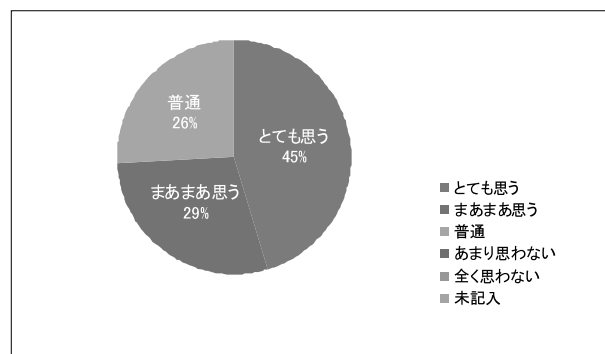


図15 学外指導者登用により、クラブ活動指導に十分対応できるようになったか（教員）～最終意識調査～

技術・体力・精神面などの向上が見られる。

- (3) 学外指導者による専門的な指導により、クラブ活動の安全性の向上が見られる。このことは指導教員の安全面に関する心理的負担の解消へと繋がっている。
- (4) クラブ活動を通じて、規則正しい生活習慣が身に付くことや挨拶ができるようになったこと等、人間性の涵養にも大きく繋がっている。
- (5) クラブ指導教員と学外指導者との連携によりクラブ活動に対して十分な対応が可能となり、指導教員のクラブ指導負担が軽減されている。

これまで学校では、教員中心のクラブ活動指導が行われ、クラブ活動を通しての全人教育（情操教育）を実践してきた。しかし、独立行政法人化等による諸事情に伴い、教員だけによるクラブ活動指導は現実的に難しい状況である。そのため、学校教育の枠組みの中だけでクラブ活動を実施するという考えから、社会教育における生涯学習、生涯スポーツとしての課外教育活動という考えに移行すべき時代にさしかかっている。これを実現していく上で、地域と連携しクラブ活動を支援していくことは不可欠であり、特に、地域に潜在する有能な指導者を活用し、学生のクラブ活動や生涯学習を支援するシステム構築は重要であると思われる。さらに、地域と連携したクラブ活動を実施していくためには、受益者負担・自己管理・自己責任の原則を取り入れていく必要がある。したがって、本取組を通して、学生・保護者・地域住民等へこの考えに基づいたクラブ活動の在り方について理解を得られるよう啓蒙していかなければならない。

最後に、学生の自主的活動であるクラブ活動を活性化させることは、学生の効果的な全人教育に加えて、元気のある学校、活力ある学校作りに繋がるものである。2年間取組んできたこの効果的なクラブ活動支援を、今後も継続させ、充実、発展させることが重要である。そして、心豊かで人間的に調和のとれた健全な技術者を育成し、社会に送り出すことができればと思います。この取組について、学生、保護者、教職員の皆様にご理解と、ご協力をお願い致します。

創造力育成のための地域連携

教務主事 河野 良弘

地球温暖化等の環境問題や食糧問題などの地球規模の課題解決に向けて、新しい科学技術の研究や創造力の育成が、現在求められています。考えることは創造の源泉であり、ものづくり感覚は体験から養われ、技術者の素養として重要なものであります。本校では自分が作りたいイメージを描き、設計し、作るという工学の原点に立ち返り、独創性や創造性を養成するためのPBL（問題解決型学習）教育を推進しています。低学年からもの作りや実験実習の経験ができるという高専制度をいかして、創造力の育成に努めています。



創造力の定義について、脳科学者の茂木健一郎氏は「創造力は体験と意欲の掛け算である。」と表現しています。これまで体験したノウハウをもとに、まだ体験したことのないことに挑戦し、未知なるものとの出会いから感動は生まれます。また更なる感動を求めて、体験したことのないことに挑戦する意欲が芽生えることとなります。この体験と意欲が積み上げられれば、創造力の数式はすばらしいものを生み出すこととなります。意欲のないところに創造力は芽生えない。創造力のないところに感動はない。すなわち創造力の源は意欲と感動であることとなります。

「感動することをやめた人は、生きていないことと同じことである」、これは相対性理論を発見したアインシュタインの言葉であります。人生でのいろんな出会いで、一つ一つに感動を覚え、さらに意欲的に体験を積み重ねることにより、人生は豊かになることを示してくれています。創造力の育成は、技術力と人間力の向上のみならず、学生一人一人の人生にほかなりません。学生には、人生作りのために創造力の数式を生かしてもらいたいと思っています。

ところで、ある会合での話ですが、「鹿児島高専は、産業界・地域社会などとの幅広い連携により、すばらしい成果を出しておられますが、あまり他人には知られていませんね。」との指摘を受けました。今、地域の産業振興のビジョンを踏まえ、地域と連携した教育内容・教育方法の開発と共に、企業技術者の再教育の必要性が高まっています。また、学生が産学共同研究活動に卒業研究を通じて参画することによって、高度な先端工業技術の習得と創造的な技術能力の育成が図れることとなります。このような社会的ニーズから、本校は多くの地域連携型の事業に取り組んでいます。

そこで、平成20年度の地域連携型の事業について、こ

れからPRしたいと思います。

1) 平成20年度地域資源活用型研究開発事業（経済産業省）

「きのこ生産を核とした焼酎粕乾燥固形物の他用途再生技術の確立」を研究テーマに平成19年度から2年間、地域資源活用型研究開発事業が実施されています。これは焼酎粕乾燥固形物を利用した高付加価値きのこの安定生産技術を確認すると共に、きのこの生産過程で発生する使用済み菌床の飼料化技術を開発し、焼酎粕内の有用成分を最大限に活用した地域資源循環システムの実用化を目指すものであります。（責任者：土木工学科准教授 山内正仁）

2) 平成20年度中小企業ものづくり人材育成事業（経済産業省）

平成18年度から3年間、鹿児島県内の中小企業で働く若手技術者を対象に、ものづくりに関する知識および技術向上を目的とした高専等活用中小企業人材育成事業を実施しています。これは、高専の設備やノウハウを活用し、高専等の職員と地域のベテラン技術者の協力の下、地域の中小企業のニーズに応じた講座と実習を一体的に行うカリキュラムを開発・実施し、中小企業の若手技術者を支援する事業であります。現在、「実践的な農水工連携支援自動化機器システム設計のための専門術者の育成プログラム」を実施中であります。（責任者：情報工学科教授 芝浩二郎地域共同テクノセンター長）

3) 平成20年度鹿児島県電子産業産学官共同研究開発事業（鹿児島県）

鹿児島高専を中核として、鹿児島高専発ベンチャー企業の（株）隼人テクノ、地場中小企業および工業技術センターが「高機能・小型ワシントン椰子枝払い機の研究開発」のコンソーシアムに参加し、平成19年度から2年間の予定で本事業が採択されました。本技術シーズを活かした開発により、造園業者が満足するマシンを実現し、高機能・小型化を実現した「ワシントン椰子枝払い機」の販売およびリースするための製品化を目指しています。（責任者：電子制御工学科教授 植村真一郎）

4) 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（大学改革推進事業：文部科学省）

文部科学省の補助事業である「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に、本校が「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」を応募し、平成19年度から2年間の予定で本事業が採択されました。これは地域に潜在する有能な人材を外部指導者として登用し、学生の活気あるクラブ活動を積極的に支援するための学生支援システムを構築するものであります。さらに、クラブ活動を地域住民の生涯学習の場としても機能させ、世代間の交流や地域住民との交流を促し、クラブ活動を通じて学生の人間性の涵養を図る地域連携型の共同教育を実施しています。（責任者：機械工学科教授 三角利

之学生主事)

5) 質の高い大学教育推進プログラム (大学改革推進事業: 文部科学省)

文部科学省の補助事業である「質の高い大学教育推進プログラム」に、本校が「技術士会と連携した新たな実践的技術者教育」を応募し、平成20年度から2年間の予定で本事業が採択されました。これは、専攻科課程において進めてきた本校と鹿児島県技術士会との連携協定に基づく共同教育を、準学士課程の教育にも拡張し、本校教員と技術士との連携により、(i) 学生に対する実践的技術者教育の充実、(ii) 技術士の有する実務経験を活かした教育内容の改善を図るものであります。(責任者: 土木工学科教授 岡林巧専攻科長)

そのほかの地域連携として、次のようなものが挙げられます。

1) 錦江湾テクノパーククラブ

国分・隼人テクノポリスを中心とする南九州地域の企業における技術向上や、本校との積極的な産学共同の推進を図るため、平成10年3月に設立された本校を中核とした産学官交流組織であります。本クラブは年4回の例会を開催すると共に、本校との共同研究などを実施したりして、地域企業の活性化に寄与しています。

2) NPO法人隼人錦江スポーツクラブ

地域住民へのスポーツ支援を目的としたNPO法人隼人錦江スポーツクラブは、本校が主体となり、霧島市教育委員会と設立したクラブであります。霧島市及び近隣住民に対して健康・スポーツに関する活動を行い、老若男女健康で豊かな生活を送ることのできる地域作りに寄与しています。

3) 鹿児島高専発ベンチャー企業「(株) 隼人テクノ」

平成15年4月には、学生ベンチャービジネスプランコンテストで最優秀賞を受賞した「ヤシの枝払いロボット」の実用化へ向けて、(株) トヨタ車体研究所と産学連携してロボットを開発しました。地域社会への貢献を目指して、ベンチャー企業「(有) 隼人テクノ」を平成17年5月18日に設立し、地域の環境保全に貢献しています。

これからの技術者教育には、社会と共に次世代技術者を育成する共同教育が必要不可欠となってきています。具体的にはカナダや欧米にみられる1年程度の長期学外研修を取り込んだ教育体系に進化することが、今後高専教育において求められることになると思われます。座学教育科目の厳選と学外研修インターンシップを含めた高専独自のカリキュラムへと、今後改善していく必要があります。低学年からものづくりや実験実習の経験ができるという高専制度をいかして、創造力の育成に今後も努めていきたいと思ひます。

平成20年度 海外語学研修報告

教務主事補 松田 忠大

1. はじめに

本校の海外語学研修は、今回で第4回目を迎えた。「グローバルに活躍する技術者」という本校の学習・教育目標を達成させるための試みとして、平成17年度より本科2年生の希望者を主な対象者として海外語学研修を企画・実施している。この研修の目的は、低学年の早い時期に海外で生活を体験させることにより、学生に外国語によるコミュニケーションの重要性を認識させ、今後の英語学習への意欲を向上させること(動機付け)、そして、異文化理解を深めさせることである。

昨年の高専だよりにおいても述べたが、本校の語学研修の特色としては、研修先を外国の高等学校とすることが挙げられる。このような研修内容とすることで、単なるホームステイや語学学校での研修では確保が困難な、同年代の者同士が交流するための時間も十分に確保されることになり、海外の友達とのコミュニケーションをとるために、今後の英語学習への意欲の高まりが期待されるからである。

実際、この研修に参加した学生のレポートを読むと、自身の英会話能力が十分ではないことを現実に体験し、その結果、英語学習の重要性を再認識しているようである。このような刺激を与えることが、まさに、この研修の最大の狙いである。

例年、出発前に事前研修を実施し、カナダ文化に関する学習と、英語科の先生のご協力をいただき、英会話の基礎的な学習を実施している。今年度は、少しでもお互いの意思疎通が取れることを願って、事前研修として、外国人講師による英会話教室も2日間にわたって実施した。

2. 研修の概要

今年度の研修は、9月16日(火)～9月25日(木)の10日間(現地滞在8日間)で実施され、情報工学科2年生担任の野澤宏大准教授と海外語学研修担当教務主事補の筆者の2名の教員の引率の下、準学士課程2年生22名(内、女子学生2名)が参加した。研修先は、例年通りカナダ・バンクーバーにあるNotre Dame Regional Secondary Schoolで、学生たちは現地のホストファミリー宅にホームステイをしながら、同校に通い、英語漬けの毎日を送った。なお、今年度のこの研修の詳細な日程については、後掲の日程表を参照していただきたい。

(1) バンクーバーへの道のり

9月16日(火)、参加者は9時前に鹿児島空港に集合し、同空港では保護者列席のもと、学校側からは河野教務主事、英語科のあべ松伸仁教授が出席して出発式が行われ

た。

出発式終了後、羽田空港行きの航空機にて東京へ向かった。羽田到着後は、成田空港までリムジンバスで移動し、成田空港到着後、出国手続きを済ませ、18:05発日本航空18便バンクーバー国際空港行きの航空機に乗り込み、一路、カナダを目指した。成田からバンクーバーまではおよそ9時間のフライトである。毎年同じ光景ではあるが、学生たちは、興奮と緊張のためか、ほとんど睡眠をとることなく過ごしていた。



【出発式における教務主事挨拶】

バンクーバー国際空港には、現地時間で9月16日（火）11:00ごろ（日本とバンクーバーとの時差は、日本を基準にして-17時間）に到着した。到着後直ちに、入国審査を受け、手荷物を受け取り、ターミナルに待機していた現地旅行会社のバスに乗り込み、バンクーバー市内観光に出発した。限られた時間のため、バンクーバー市内（ダウンタウン・中華街）を車窓から見学し、スタンレーパークに立ち寄って、ダウンタウンにある中華レストランで昼食をとった。

昼食後は、研修先のNotre Dameに向かった。Notre Dameには、既に学生のホストファミリーが迎えに来ており、学生たちはそれぞれのホストファミリーと対面し、挨拶を交わし、緊張した面持ちで、それぞれの家庭へと散らばっていった。



【スタンレーパークにて】

(2) 研修の様子

翌9月17日（水）から、Notre Dameでの研修が始まった。初日の朝、本校の学生たちは、それぞれのホストファミリーに送られて学校に到着、早速、Welcome Receptionに臨んだ。本校学生のBuddyとなる生徒たちの出席のもと、Notre Dameの校長であるデロリアス氏とNotre Dameの生徒会長の歓迎の挨拶に続き、本校を代表して野澤准教授が挨拶を行った。その後、学科ごとに日本の文化について英語で発表した。日本のアニメの話題になるとノートルダムの生徒たちも良く知っているようで、歓声が沸き起こっていた。プレゼンテーションの準備は、夏休みに入ってから行ったため、十分な準備をして、発表に望んでくれるかどうか、不安があったが、各学科ともよくまとめられた発表を行ってくれ、研修担当者としては胸をなでおろした。



【プレゼンテーションの様子】

Welcome Receptionが終了すると、それぞれの学生のBuddyが発表され、Buddyの生徒が受講する授業を受けるため、早速、教室へと向かい、およそ1週間の研修がスタートした。

本校の学生が授業を受講している間、引率教員は、学生の様子を見るために、各教室を巡回した。初めての英語のみでの授業である。教員の話すスピードについていけなかったというのが学生たちの素直な感想である。授業科目は、国語（英語）、歴史、数学や物理、生物などの科目などの日本でも馴染みの科目があったが、教育の方法も日本とは異なっており、受講する生徒たちの発言が活発に行われているのが印象的であった。

肝心のBuddyとのコミュニケーションはどうかというと、これも例年のことであるが、初めのうちは、なかなかお互いのコミュニケーションが取れないでいた。しかし、さすがに同年代の若者である。国籍や人種は異なっている、興味・関心のあることは共通のようである。アニメの話題、ファッションの話題などをきっかけに、恐るべきスピードで打ち解けていくことが感じられた。週末には、Buddyと一緒にダウンタウンに買い物に出か

ける姿も見られ、単なる語学研修では見られないような光景も次第に増えてきた。



【スポーツ交流の様子】

(3) 研修の最終日

Notre Dameでの研修は、9月23日（水）の午前中に終わった。同日の午後には、Farewell Partyが催された。本校の学生には、記念品（Tシャツとプレスレット）が手渡された。その後、ケーキを食べながら、お互いにメールアドレスの交換をしたり、写真を撮ったりして、別れを惜しむ様子が多く見られた。



【Farewell Partyの様子】

3. おわりに

この研修の様子は、毎年、この高専だよりにて報告してきた。筆者が担当者として、この研修に関わるのは、おそらく今回が最後となる。4年前、教務主事補を拝命し、その業務の一環として、教務主事より、この研修の企画・実施を任された。外国語の教員ではない筆者がこの研修を企画・実施できるかどうかの不安もあったが、無事に4回目の研修を終えることができたことに、とにかく安堵した。

これまで、本校から100名を超える学生がカナダ・バンクーバーの地での研修を体験した。初年度は、企画の時期が遅かったこともあり、12名という少人数でのスタートであったが、その後は、毎年20名を超える学生に参

加してもらうことができるようになった。これも、保護者の皆様のご理解の賜物であると感謝している。特に、近年、原油価格の高騰に伴う航空運賃の値上げの問題が生じ、研修にかかる費用が大幅に増加したにもかかわらず、多くの学生が参加してくれたことは、研修の企画担当者としては望外の喜びでもあった。

昨今のグローバル化の流れは、ますます加速をしている。技術の分野でも国家の垣根を超えた競争が激化しているのが現状である。本校の学習・教育目標に掲げられているように、本校の学生は、将来、「グローバルに活躍する」技術者にならなければならない。できれば、卒業生の全員に世界で活躍する一流の技術者になって欲しい。しかし、技術者といっても、その置かれる状況は様々であるから、全員にそれを望むのは無理であろう。しかし、日本にいてもグローバルに活躍することは可能である。Think Globally, act locally. という言葉がある。これは、地球規模でものごとを考え、それぞれの地域で行動するということを意味している。世界の人々に受け入れられる製品を生み出すために、ものづくり技術者にとっては重要なことであると考え。地球全体のことを考えるためには、諸外国の人々の生活、文化を理解する必要がある。そのためには、相応の外国語の能力も必要されることになるだろう。もっとも、技術者であってもなくても、外国の人々と自由にコミュニケーションを取れるということは、人生を豊かにしてくれるものでもある。

点数をとるためだけに、あるいは、進級するためだけに、本校で外国語を学んでいるという考えでは虚しさが否めない。そのような考えは捨てて、世界の人々とコミュニケーションをとるためのツールの一つとして、将来必ず使えるようになるのだという意識をもって、外国語の学習に取り組んでもらいたい。外国語であっても、言葉であることには変わらない。筆者は、意欲さえあれば、必ず身につくものであると信じている。

この語学研修が、学生のそのような意欲を刺激するものとして、今後もますます充実されていくことを願いたい。

以上

夏季補習と保護者懇談会

教務主事補 野澤 宏大

◎夏季補習

教務委員会では、9月24日（水）から29日（月）までの5日間（日曜は除く）、1・2年生の成績不振の学生を対象とした、英語・数学の夏季課外補習を実施しました。

受講者の選抜手順は、

- ① 前学期末成績締め切り段階で、数学・英語の成績から候補者を選抜（クラス担任の意見も考慮）（候補者：1年生38名、2年生46名）
- ② 各家庭に補習の案内を郵送し、参加の返答があった学生を受講者とする（受講者：1年生30名、2年生27名）というものです。

補習の参加費は3000円、通学できない学生に関しては、夏休み期間中の部活動合宿と同様に、寮及び寮食堂を利用できることとしました（合宿費用は別途必要）。

補習の時間割は表1に示す通り、午前中が教員による英語・数学の講義、午後が専攻科生ティーチングアシスタント（TA）による演習というものでした。

表1 夏季補習時間割

	教員による講義		TAによる演習	
	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限
1年生	英語	数学	英語	英語
2年生	数学	英語	数学	数学

初日こそ参加者は多かったものの、中には途中から参加しなくなる学生も見られました。特に、午後の専攻科生TAによる演習は出席率が悪くなる傾向があります。このことは、表2に示す5日間を通しての出席率にも表れており、特に2年生の午後の出席率がよくありません。一方、全ての日程を休まず参加した学生は、1年生4名、2年生2名でした。

表2 夏季補習の出席率

	出席率[%]		
	全体	午前・講義	午後・演習
1年生	67.6	78.7	56.4
2年生	61.4	85.4	37.2

次年度以降も本補習を継続する場合、実施方法、対象学生、並びに対象科目（他の一般科目・専門科目も含めるなど）を、検討し直す必要があります。

◎保護者懇談会

10月25日（土）、403名の保護者の参加の下（朝の全体会時点での集計）、平成20年度保護者懇談会を実施しました。あいにく校舎改修工事中のため、保護者の方々にとっては構内の位置関係がわかりにくかったとは思いますが、特に大きな問題はありませんでした。

当日の日程はほぼ例年通りで、第1体育館において全体会（講演会）を実施後、各教室でのクラス懇談会、クラス担任との個別懇談という内容でした。講演会には、講師として、学校法人隈元学園 星ヶ峯幼稚園・保育園園長の中村洋志氏をお招きし、

「次代を創るのは、今の若者たち

～いつの時代も後継者はいる～」

の演題でご講演いただきました。

全体会は、時間的に長引いたようですが、日程上は特に支障を来すことはなく、すんなりとクラス懇談会・個別懇談に移行できました。

学年・学科により差異はありますが、ここ数年の特徴として、個別懇談を希望する保護者の数が少ない傾向にあるようです（もちろん、個別懇談を希望する保護者の人数が多く、遅くまで時間を要したクラスもありますが）。私は情報工学科2年の担任でもありますが、2年情報の個別懇談の希望者は10名弱でした。ちなみに、他の2年生のクラスも、これと同様だったと記憶しております。おかげ様で、個別懇談を行った保護者の方々とじっくりお話しする機会を得ることが出来たのですが、反面、少し寂しい気もします。個別懇談自体は、クラス担任との時間調整さえつければ、いつでも実施可能です。保護者の皆さまには、来年度はご遠慮なく個別懇談を希望していただければ幸いです。ただし、来年度、私は担任ではありませんので、いささか言い放し気味である点だけが、誠に気がかりです。

最後になりましたが、保護者懇談会開催にあたりましては、鹿児島後援会の皆さま方に大変お世話になりました。ここにお礼申しあげます。



保護者懇談会

工場見学旅行を終えて

機械工学科 4 年 元山 喬太

今回の工場見学旅行で、私たち機械工学科は例年通り、九州地区の各工場および生産現場を見学させていただきました。普段は入ることの出来ない工場の中というのは、工学に興味のある人間ならば、少なからず興奮するもので、私もそのうちの一人でした。見学させていただいた各工場は、一貫作業による完全工場内生産を行っているところや、CAD/CAMによる構造設計を専門に行っているところ、生産機械（生産ライン）の設計、構築を行っているところ等、様々で、一般的な工場のイメージとは一味違った興味深いものばかりでした。その中でも特に面白かったところは三菱重工 長崎造船所とJR西日本 博多総合車両所でした。

三菱重工 長崎造船所は言わずもがな、全国でも最大規模の造船所であり、豪華客船ダイヤモンド・プリンセスや戦艦武蔵を作ったところとして有名ですが、現在は造船と並び、プラントやタービンの製作も行っています。今回の見学はタービン工場だったのですが、まずその規模の大きさに圧倒されました。タービンは一つあたり10m程の大きさがあり、軸を加工する旋盤やフライス盤ひとつひとつも一軒家程の大きさで、それらが加工を行っている様子はまさに重工業といった感じでした。しかし、加工のスケールは大きくとも、行っていること自体は実習で学んだ加工そのものであり、自分たちの学んでいることを少しは実感できたような気がします。

JR西日本 博多総合車両所は山陽新幹線の車両基地であり、新幹線の定期検査や保安全管理等を行っているところです。新幹線は走行距離により一定の間隔で検査を受け、車体と台車のそれぞれを部品交換および修理、再塗装することで安全を保っているとのことでした。車両所内には0系から最新型のN700系まで、ほぼ全ての系の車両が並んでおり、新幹線に馴染みの無い自分にはとても新鮮に感じました。また、ここでは車輪の再研削と組み立てがライン化されており、磨耗した大量の車輪を速やかに再使用するための工夫には感心しました。

自分は就職希望のため、今回の旅行で目にしたものはこれからの進路を決める上で貴重な経験になったと思います。今はとりあえず、来年もこの旅行に参加することのないよう、がんばりたいところです。

最先端技術の見学

電気電子工学科 4 年 井手上一広

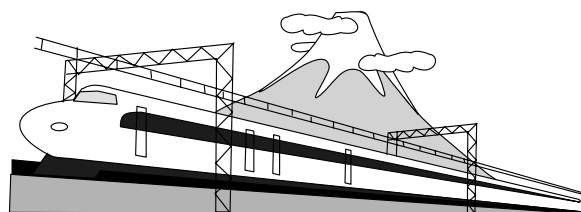
自分達、4年電気は7つの場所を見学した。

トヨタ自動車、分子研、光産業創成大学、浜松ホトニクス、NTT、皇居、情報通信研究機構（NICT）の7つである。

これらの見学場所のほとんどで共通していることがあった。光とレーザーである。これ無くして未来の技術はないと言わんばかりに。最終日などにはレーザー装置が発する音にも慣れたものだ。

だが、これらの場所で行われている内容はそれぞれ異なるものだった。皇居は技術云々の見学ではなかったので除くが、トヨタではレーザーを用いた溶接等の技術。分子研では分子がその姿を変化させる科学反応の詳細や分子間の相互作用の本質を明らかに。光産業創成大学では日本の光産業の未来を開拓する企業人を育て、浜松ホトニクスではフェムト秒という極短時間領域をターゲットとし、肉眼では決して見えない微細な生命の構造などを理解する。NTTは量子もつれによる通信の暗号化。NICTでは情報通信技術の研究開発を基礎から応用まで、様々だ。皇居見学では、普段見ることができない内側を見学できた。日本史の講義で習うように、江戸城跡には歴史を感じられるものが多々あった。その一方で皇居敷地内にはガソリンスタンドのように、特別必要性を感じられないようなものもあった。

上記のように見学内容としては充実したものとなったが、その分個人の行動時間というものが少なくなったのもまた事実である。そのせいで不満を持つ人もやはりでてしまう。それで衝突してしまう事もあった。学校の行事である以上、勉強第一というのは頭では分かっているものの19歳という遊び盛りということで、他学科と比較して不満が出てしまうのも仕方ないことだと思う。それでも不満だけを旅行の思い出にして欲しくない。このクラスでの旅行というのはこの先二度とないだろう。だからこそ後々思い出した時に、楽しかったと感じて欲しい。また願わくば実りある旅行であったとみんなに思っていて欲しい。



工場見学旅行に参加して

電子制御工学科 4 年 久保 俊輔

…到着。今年二回目、そして人生二回目の羽田空港だ。
…どうでもいいか。

天気は曇り、寒いとは聞いていたけどここまでとは。
…うーん、テンションが上がリません！

と、こんな感じでスタートした工場見学だったが、今回のプランは 1・2・3 日目がクラス全体での工場見学。4・5 日目は自主研修という学生にやさしいものだった。…島名先生ありがとうございます！

さて、本題の見学させていただいた場所は、1 日目が東芝科学館、東京電力品川火力発電所。2 日目は富士通川崎工場、JAL 機体整備工場。そして、3 日目が富士重工業（株）群馬製作所（つまるところ、自動車のスバルの工場だ）、プラス（株）高崎工場（つまるところ、機とイスを造っている工場だ）だった。

個人的にはあるが、自分は特に富士通と富士重工業が印象に強く残っている。

というのも、富士通に関しては夏にもインターンシップでお世話になっているのだ。…最初に書いた二回目とはそういう意味だったりする。…ま、どうでもいいか。

ここでは夏にお世話になった方に再会したり、富士通の製品に驚いたり、レジ打ちをしたり…ととても楽しかったです。すごい個人的ですね、スママセン。

富士重工業については、車ができる仕組みを、プレスするところから車体チェックするところまですべて見せていただいたので、ただ単に感動しました。車ってそうなんだ（° Ⅱ°）

…本題終わり。



…本当のところ、工場の見学よりも夜や自主研修が楽しかったし、楽しかった。というのは自分だけじゃない。…はずだよな（° Ⅱ° ；≡；° Ⅱ°）

実際、各々原宿や秋葉原に買い物に行ったり、部屋でみんなで遊んだり、それぞれ充実した過ごし方をしていたようだった。

ちなみに自分は中華街、国立新美術館、下北沢、秋葉原、東大、原宿では噂の H&M に、果ては静岡まで行ってジェットコースターに乗るなどとても楽しい思いをさせていただきました。…誰も聞いてないって？知ってるよ（´ー`）

と、今回の工場見学旅行は自分にとってとても充実し、また勉強になるものになりました。きっとクラスのみんなもそう感じているはずですよ。

さて、これから自分たちはいよいよ進路が問われる時期に入っていきます。そのため今回の工場見学で学んだことや、感じたことを忘れず、自分の進む道をしっかりと決め、また残り少なくなった高専生活を充実したものにしていきたいです。

最後にこの場を借りて、お世話になった先生方、また、保護者の皆様にお礼を申し上げます。

工場見学旅行

情報工学科 4 年 下赤 太亮

とにかく凄かった。何を見ても、聴いても「すげー。」。当然といえば当然。見た事も聞いた事もない物ばかりだったし、興味を引くものばかりだったので。多分クラスのほとんど全員がそう感じたんじゃないかと思います。

さて、今回の工場見学では NTT サイバーコミュニケーション、朝日新聞社、富士通（川崎工場）、東京電力、新日本製鐵（君津製鐵所）と有名な会社を見学させていただきました。

見学したどこの工場・会社にも見られたのが、エコに対する取り組みと無駄のない（効率のいい）業務システム。例えば、広い工場の敷地で使われない部分に木を植えて緑化に取り組んでたり、無駄のないシステムに関して言えば、基本的にコンピュータに制御を任せて、業務を 4、5 人の少数で行っていたり、工業用水の再利用・循環率が 90% 以上だったり。無駄のないシステムは興味深いものもあって「しっかり考えられてるなぁ」と感心しました。どこの会社でも何らかの形でエコに取り組んでいたのは印象に残りました。ま、印象に残っただけで面白いかかそういうのは全然感じなかったんですが。

面白かったのは技術とかシステムソリューションとかそういうやつ。先進技術とか先進ソリューションとかを扱ってた NTT サイバーコミュニケーションと富士通は特に面白かったです。どう面白かったかは説明しません。説明すると長くなるし自分の心にしまっておくことにします。でもそういった先進技術やシステムが意外と身近なところで使われてたりしてるのを知って驚きま

した。

そういえば富士通で興味深い話を聞きました。富士通は最近になって高専生を採るようになったんですが、その理由に職場での高専生の評判がいいからなんだそうです。高専生の特徴として「おしゃべりが下手」「頼まれた仕事を愚直にこなす」「考えながら作業することができる」の3つがあって、特に#は他の大学生とかには見られない特徴だそうです。富士通ではこれらの特徴を持つ高専生が好まれるらしく、もっと高専生の採用を増やしたいと思ってると言っていました。言われてみればそうだなと思う所もあります。自分は口下手ですし、締め切り前日に頼まれたこの感想文も今黙々と打ち込んでます。もちろん下書きとかしてないので、どういう構成にして何書くとかか考えながら打ち込んでます。そう言われて少し自分に自信が持てたのと、もっと勉強とか頑張ろうという意欲がでました。それだけでも「工場見学行けて良かった。」と思いました。

工場見学旅行

土木工学科4年 萩原 頼徳

11月10日午前10時、僕たち土木工学科4年生は、高専生活の一大イベントのため、鹿児島空港を出発。しだいに街が小さくなっていく。そう僕は飛び立ったのだ、まだ見ぬ大阪を目指して！

鹿児島から約1時間で一昨年開港したばかりの神戸空港に到着した。空港からバスに乗り換え、鹿児島から同行していただいた添乗員の森下さんと大阪弁のバスガイド前田美奈子さんに案内され第一番目の見学場所である神戸製鋼加古川製鉄所へと向かった。工場内に入り先ず印象に残ったのが、工場周辺に対する環境面での配慮である。鉄粉を工場の外に出さないようにするためネットが工場を取り囲むように張られていたこと。また、ネットに並行してたくさんの樹木が植えられ、別名「緑の製鉄所」と表現されるぐらい緑に囲まれた工場であった。今の時代、環境面での対策が大事だと感じた。工場内では、熱く真赤になった鉄板を薄く圧延しているところなど見ることができ、また工場内の規模の大きさに圧倒された。

次に、明石海峡大橋へ行った。橋の大きさは想像以上で、これまで授業で学んだ橋の構造を間近にし、さらに橋の構造について理解を深めることができ感動した。

2日目はUSJへ行き丸一日かけてアトラクションを楽しんだり、各自マスコットや土産を買ったりいい思い出をつくることができた。

3日目は、横河ブリッジを訪れた。横河ブリッジは、鹿児島高専の先輩も勤めている会社で、個人的に一番楽しみにしていた見学場所である。全体説明では、授業で使ったこともあるCADを用いた設計の説明を受けた。その後、2班に分かれて工場内を見学した。見学コースでは、実際に橋桁の作製作業を見ることができ貴重な体験をした。

4日目は、京阪電鉄で京都へ行き金閣寺や、清水寺などを巡り日本の伝統・歴史を学ぶことができた。(京阪天満橋ではハプニングもあったが、担任の名誉のために4Cの秘密にしておこう。)

今回、私たちは、関西を中心に工場見学を行い多くの貴重な体験ができた。その体験の中には神戸製鋼、横河ブリッジの見学はもちろんだが、他の科よりも恵まれた自由時間を利用して自分たちで見学場所を決め行動することができた。新世界や道頓堀といった目的場所へ行くために安い移動方法を考えたり、アメリカ村で外人に連れて行かれて無理やり服を買わされたり、鹿児島では出来ないJR、私鉄の乗り換えを体験することができた。また、自由時間の中、関西地区で興味のある会社を個人的に訪問することができ有意義な時間を過ごせたと思う。今回の旅行を終えて、この頃、自分たちには就職・進学が目前に迫ってきている事を実感させられる。この1週間程の旅行で体験した様々なことを思い出に終わらせることなく将来に役立てていきたいと思う。そして最後にいろいろなトラブルもあったけど無事に終えることができたことを森下さんや前田美奈子さん、さらに旅行に関わったすべての人に感謝したいと思う。



学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則及び その運用内規の一部改正について（周知）

教務主事 河野 良弘

これまで学業成績の評価については、「出席時数が所定の授業時数の3分の2以上の科目についてのみ行う。出席時数の計算において、忌引き及び公欠による欠課は出席とみなさない。」となっていました。ところが、忌引き及び公欠は出席時数の計算で、社会通念上出席扱いにしても良いとの意見もありました。公欠等の取り扱いについて、九州沖縄地区高専において調査を行った結果、ほとんどの高専は忌引き及び公欠を出席したものと取り扱っていました。

そこで、平成18年度から教務委員会で審議した結果、平成21年度から、学業成績の評価については、「出席時数が所定の授業時数の5分の4以上の科目についてのみ行う。出席時数の計算において、忌引き及び公欠による欠席は、欠課時数に算入しない。」と改正されました。

これにより、忌引き及び公欠による欠席は、出席時数の計算で出席扱いと見なされることとなります。しかしながら、ほとんどの高専と同様に、科目の欠課時数が所定の授業時数の5分の1を超えると、その科目は未履修となるので、学生は授業に必ず出席することが求められます。また、公欠等で休んだ場合における授業内容は、自学自習する必要がありますので、分からないところは科目担当者に聞いて、必ず理解するように指導していききたいと思います。

なお、病気等を理由とした長期欠席により、出席時数が満たされない科目については、救済処置として教務委員会における審議を経て、担当教員がその評価を行うことができるように対処いたします。

学生には、3”ず”（遅刻せず、欠課せず、眠らず）の精神で、知識獲得のために授業に全力投球で取り組むように、周知喚起いたしました。保護者の皆様も、ご子息が学校を休まないようにご指導くださいますようお願いいたします。

参 考

校長の承認を得た次の各号の事由による欠課は、公欠とする。

- (1) 鹿児島工業高等専門学校学則第24条の規定による欠課
- (2) 授業中の負傷による治療のための欠課
- (3) 交通機関の事故による欠課
- (4) 教育課程、就職試験等に関する試験を受験するための欠課
- (5) 文化活動、体育活動として学校又は地方公共団体を代表して参加するための欠課
 - ① 高専体育大会、国民体育大会、高体連及び高野連主催の大会及びその関連大会
 - ② 文化系クラブも上に準じて、年間に2回の公欠が認められる
 - ③ その他学生主事及び校長が公欠と認めたもの
- (6) 学会で研究発表し又は連名者が研究発表する学会に参加するための欠課

クラブ活動指導の 今後のあり方について

学生主事 三角 利之

本校の学生は、中学校を卒業した少年期から、大学生に相当する青年期までの、最も心身の成長が著しい年代を本校で過ごすことになる。この期間に受けた教育や経験が、学生のその後の人生の基盤を形成するといっても過言ではない。社会性、協調性を備えた技術者、基本的な生活習慣を備えた技術者等、人間性豊かな技術者を育てることが重要である。技術者としての準備段階でもある学生生活では、社会の厳しさにも耐えることができる、生きる力を育成していかなければならない。このためには技術教育と同様に成長期にある学生に、心身の鍛錬を行い、人間性の涵養を図る教育を行うことが極めて重要である。特に本校のような工学系の学校では、技術教育と人間性教育とがうまく調和された形で教育がなされることが、学校の教育理念を実現するのに不可欠な条件である。このような目的を達成するための手段として、クラブ活動の教育的意義は非常に大きく、協調性・自律性・忍耐力・自主性・リーダー性などが養われることが期待される。



1. クラブ活動の現状と問題点

現在、本校には体育系クラブとして23の部と4の同好会、文化系クラブとして11の部と8の同好会が活動している。平成19年11月に実施したクラブ活動に関する意識調査の結果によると、全学生の内、文化系クラブに所属している学生が17%、体育系クラブに属している学生が48%、文化系・体育系クラブの両方に所属している学生が8%であり、全学生のうち73%が何らかのクラブに所属している。また、活動状況については、積極的な活動をしていると感じている学生が31%、まあまあ活動している学生が19%、普通に活動している学生が16%であり、全体の66%がある程度の活動をしている状況にある。

また本校では、全ての部と同好会に全教員を指導教員として配置し、全学的にクラブ活動を支援している。学生支援GPのクラブ活動に関する教員への意識アンケート調査結果によると、クラブ活動は人間性の涵養を図る上で、重要な役割を担っていると思っている教員が90%を占めており、ほとんどの教員がクラブ活動の教育的重要性を認識している。一方、クラブ指導教員の指導状況については、31%が意欲的に取り組んでいると回答し、あまり意欲的に取り組んでいない、あるいはほと

んど取り組んでいないと回答した教員は31%あった。このように、クラブ活動の教育的重要性は認識していないながら、クラブ活動の指導には十分に対応できていない現状については、次のような問題点が挙げられる。

- (1) クラブ活動は土・日曜日等の勤務時間外にも行われることが多く、その指導は教員のボランティアに依存している。
- (2) 指導教員の職務の多忙化・多様化により、教員の負担が増大しており、クラブ活動指導の時間が制限されてきている。
- (3) 指導教員がその分野の専門ではない場合が多く、適切な指導が困難である。
- (4) クラブ活動での事故発生に対する指導教員の心理的負担がかなり増大している。

2. 今後のクラブ活動指導のあり方

2. 1 学外指導者の登用

クラブ活動指導については、前述したようにクラブ活動の指導教員が、その指導内容や安全な活動の実施について、十分な対応ができていないのが現状である。そこでこのような問題点を解決し、学生が充実したクラブ活動が行えるように、地域の有する教育力を最大限活用する方策を学生支援GPで取り組んでいるところである。具体的には、地域に潜在する有能な人材を学外指導者として有効に活用し、クラブ活動を積極的に支援していくことを推進していきたい。学外指導者を登用することにより、学生の競技力向上、活動内容の充実、学校全体の活性化はもとより、クラブ活動における安全性の確保、教員の負担軽減など、大きな効果が得られるものと考えられる。なお、学外指導者の登用については、いくつか解決しなければならない課題がある。この課題を以下に挙げる。

(1) 指導謝金の確保

クラブ活動の安全性の確保や教員の負担軽減等のために、学外指導者を登用する方策を実施していくには、この指導謝金をどのように捻出するかが大きな課題である。この解決法の一つとしては、本校と密接な関係にある「NPO法人隼人錦江スポーツクラブ」と連携し、本校学生がスポーツクラブに入会して会費を払うことにより、スポーツクラブに登録された指導者を、クラブ活動の指導に派遣していただく方法が考えられる。また、受益者負担の考え方も取り入れ、学校・後援会・部員の3者で指導謝金等を負担することも一つの方策と思われる。いずれにせよ学生の負担をできるだけ少なくする方策を検討する必要がある。

(2) 学外指導者が安心して指導ができる体制の確立

もう一つは、学外指導者のクラブ活動中における事故に対する対応や保障の問題をしっかりとサポートし、学外指導者が安心して指導ができる体制を確立することが

重要である。このことについては、現在、本校クラブ指導教員が、共通認識の下、学外指導者に対応すべき事項を示した「学外指導者への対応マニュアル」、および、学外指導者が行う指導及び発生した事故への対応について、「鹿児島工業高等専門学校クラブ学外指導者指導要領」を作成し、対応しているところである。また、学外指導者がクラブ活動の指導中に負傷した場合の保障については、機構の入っている損害保険では対応できないため、任意保険に入っていたりなどの対策が必要である。

2. 2 活動安全マニュアルの整備

現在、各クラブの部長・副部長を対象に、クラブ活動中の安全管理に関する説明会を実施し、常に安全な活動が行われるように指導しているところである。また、事故の発生を未然に防ぐとともに、事故発生時に適切な対応ができるように、今後、以下のような対応が必要である。

- (1) 各クラブにおいて、学生自身における事前安全点検、準備運動の徹底、活動内容の指示、応急処置、緊急連絡方法等を記載したクラブ活動安全マニュアルを作成する。特に、事故発生時の応急処置の方法、連絡体制については、それを記載したものを活動場所に掲示することが望まれる。
- (2) 校務等により、指導教員がクラブ活動に立ち会えない場合には、その所在を学生に知らせ、確実に連絡が取れるようにする。
- (3) クラブ指導教員及び学生（部長・副部長等）ともに、定期的に、救命救急講習を受講し、AEDの利用方法を含めた救急救命に関する知識・技術を修得する。

2. 3 保険について

学生のクラブ活動中の事故について、機構の入っている損害保険や独立行政法人日本スポーツセンターの災害共済給付金で対応できるが、この保険だけで十分かどうかについては、考えておく必要がある。なお、指導教員及び学生の双方とも、可能な限り、任意の保険（教員にあっては指導者保険、学生にあっては傷害保険等）に加入しておくことが望まれる。

2. 4 引率について

対外試合等に学生を引率する場合には、公用車または公共の交通機関を利用する。自家用車で引率した場合に発生した事故等については、教員個人の責任となることに注意しなければならない。

2. 5 その他検討すべき事項

その他検討すべき事項として、以下の点等が挙げられ

る。

- (1) 学校管理の元に安全に指導できる適正な部や同好会の種類、あるいは数等の見直し。
- (2) 部の昇格や降格あるいは廃部などの手続きを明確化するための規約等の整備。
- (3) 部室が整備されていないクラブもあるので、安全性の確保と活動の活性化支援という観点から、部室の整備。
- (4) クラブ活動の指導教員の配置のあり方。

3. おわりに

本校が独立行政法人化されたことに伴い、教員の職務の多忙化や安全性確保に対する心理的負担の増大などから、従来のように学校教育の一環としてクラブ活動を実施するには、様々な面で障害が生じている。また最近、学生がアルバイト等に関心を向け、クラブ活動離れが懸念される。クラブ活動の教育的重要性を考えると、特に低学年生のクラブ活動への参加を推奨していく必要がある。このようなクラブ活動に関する問題点や課題を踏まえ、クラブ活動安全マニュアルの整備や、専門的な知識と技術を有する学外指導者の積極的な登用を推進し、クラブ活動を支援していきたいと考えている。クラブ活動安全マニュアルの整備により、たとえ指導教員が現場に立ち会っていなくても、安全・安心な活動ができ、学生が緊急事態に即応できるような体制が確立できればと思う。また、学外指導者の登用は、学生に高いレベルの技術習得の機会を与え、活動参加へのモチベーションを高めることができると同時に、教員の負担軽減が可能となる。特に、本校は「NPO法人隼人錦江スポーツクラブ」や霧島市教育委員会との連携が密接であるので、多くの体育系クラブのみならず文化系クラブにおいても、高度な技術を有する学外指導者を得ることが可能と考えられる。

最後に、このような方策を実現するためには、経済的な問題も含めていろいろな障壁を克服しなければならない。このためには、学生、保護者、教員が、クラブ活動の教育的重要性やその効果について理解し、一致協力して、クラブ活動を支援していくことが重要である。

学生会活動について

機械工学科4年 西 拓弥

この原稿を書いている今、平成20年度学生会長に選ばれてから早くも一年が経とうとしています。思い返せば、とても短い一年だったように思います。学生会長という大役を任せられ、何をすればいいのか何も分からないまま必死になって仕事をこなしてきました。そのため、この一年で行った学生会活動を思い出せと言われても、なかなか思い出せないくらいです。今回はこれまでにしてきた学生会活動の中からいくつかご紹介したいと思います。

まず、高専の学生にとって高専祭の次に楽しいイベントと言っても過言ではない、クラスマッチの企画運営があります。これは、学生へのアンケートにより行う競技を決め、クラス対抗で争います。3位まで入賞したチームには焼肉券やお菓子などの賞品があります。クラスマッチにここまでお金をかけるのも高専のほかにはないと思います。

次に、花壇に花を植えたり構内を清掃したりする、構内美化活動があります。季節の変わり目や、卒業式や入学式前に花壇に花を植えています。花壇に花を植えることで、心にも花が咲きます。(笑)

構内美化活動の延長として、年に2回隼人駅の清掃も行っています。日ごろからお世話になっている隼人駅に感謝の意も込めていて、駅長さんからもご好評をいただいております。

そのほかにも、朝の挨拶運動や交通安全運動、その他学校行事の運営を行っています。つまり、学校のほとんどのことをしています。

このようにいろいろ活動を行って、いろいろと大変なこともあり、辛いと思うことも多々ありますが、不幸だと思ったことはありません。逆に、学生のときから苦労を重ねることができてラッキーだと思います。この経験が社会に出て、いつか役に立つときがくると思うからです。さらに学生会活動は、普通に高専生活を送っているだけでは経験することができないことがたくさんあり、高専での味気ない毎日に味付けしてくれるものだと思います。

最後に、この一年を振り返ってみると毎日が充実していて、とても密度の濃いものでした。しかし、自ら発案して何かを行うことができなかったように思います。それが心残りで、この一年間の反省点でもあります。

この反省を活かして、次期学生会長には自由に、そしてアクティブに活躍してほしいと思います。また、学生会役員も積極的に活動してほしいと思います。



クラスマッチの様子



隼人駅清掃の様子

体育祭を終えて

体育祭実行委員長
電気電子工学科4年 福永 文太

体育祭とかマジ余裕だった！！と言いたいところだけど、閉会式の挨拶をちゃんとしてないということで、頑張っただけなのにちゃんと書きます。

ついに4年生としての大仕事をやりとげた・・・つもり。

僕は1年生の頃から学校が嫌いでやめたいと何度も思っていた。そんな僕が柄にもなく3年生のときから体育祭実行委員として仕事をしてきて、常に頭の片隅には体育祭のことがあって、遊ぶときもテストのときも夏休みも冬休みも体育祭に縛られている感じだった。正直しんどくて、相当なストレスになっていた。まこちめんどくせもんじゃ！！でも、先輩たちも乗り越えてきた壁だし、男が1度やると決めて、引き受けたことだから最後までやりとげようという気持ちで頑張った。

それでもどんなに頑張っても必ずどこからか批判の声が聞こえてきて、何度も挫けそうになった。そして逃げ出したくなって、中途半端になって周りの人に迷惑をかけて・・・段取り悪いし、話下手だし、臨機応変じゃないし、反省点ばかりでダメな実行委員長だったと思う。当日会場にいた人たちは今年の体育祭成功だと感じてくれたのだろうか、みんな楽しめたのだろうか・・・みんなが楽しめていれば成功だと思うのだが、自分では中途半端で成功とは言えない体育祭だったと思う。先輩たちが作りあげてきた体育祭はもっと素晴らしいものだった気がする。先輩たちの偉大さを改めて実感した。

こんなわがままな体育祭実行委員長で本当に迷惑をかけた。それでも支えてくれて、ついて来てくれた実行委員や先生方、みんなには本当に感謝している。

いつの間にか自分も周りも後輩の上に立ち、偉そうにしている。体育祭当日、あんなに可愛い気のある1年生の頃から見ていた友達が中心になり、かつてないほど頑張っているのを見てやっと4年生になった実感がわいた気がした。自分も含め、みんなおっきくなったなと思った。なんか少しだけ寂しい気がした。

そこで後輩に伝えたいのは、体育祭は4年生で最後なので悔いのないように。僕は実行委員長という肩書きがなんだかムズ痒くて、できるだけ実行委員長らしくないようにしようとして、でもちゃんとしなないといけなくてなんだか中途半端な感じだった。やるならやるで、しっかりとしたビジョンを持って頑張った方がいいと思う。時間がたつのは早くて、いつの間にか大人になってしまうので精一杯今を楽しんで！！完全燃焼を目指して頑張

って。

体育祭疲れた・・・終わった！！今は開放感でいっぱい、串良に帰りたい。



今年の文化祭について

文化祭実行委員長
情報工学科4年 蔵元悠太郎

どうも、こんにちは。今年度の文化祭実行委員長を務めました蔵元悠太郎です、今年も無事に文化祭を終えることができてよかったです。これも他の実行委員の方や、先生方のご協力があったからだと思います。本当にありがとうございました。

文化祭と体育祭、つまり高専祭は、高専の一年の中でもとても大きなイベントです。このイベントのために学生生活を送っている人もいるぐらいです。

そんな大きなイベントである高専祭の初日、つまり文化祭の実行委員長を自分がやることになって、最初はとても戸惑いました。はたして自分が文化祭を成功できるのだろうか・・・？もし、失敗したら、どう責任を取ればいいのだろうか・・・？とても不安でした。ほとんど学生が中心になって考え、動き、作りあげていく文化祭。だから、毎年自由な発想で楽しい文化祭になります。しかし、自由な分だけ、どういった文化祭になるか分かりません。もし、ハメを外した学生が暴れだしたりしたら・・・そんな風に考えたりするとキリがありませんでした。

「節度と常識をわきまえつつ、自由な発想で楽しい文化祭をつくりあげていく」

これが自分なりの文化祭の目標でした。

目標を立てた自分が最初にしたことは、文化祭実行委員のメンバーを決めることでした。しかし、ここでビックリしたことが、ほとんどのメンバーが昨年からのメンバーで、新しく実行委員になった人もやる気に溢れていました。「このメンバーなら、絶対に成功する！！」そう思いました。

しかし、いざ文化祭前になるととても大変な事ばかりでした。学校が改修工事をする事になり、階段教室が使えなくなったり、ステージの場所を移さないといけなくなったりと大変でした。しかも、自分は情報の学生として応援団の幹部をしていたので練習を休むことができずに、その分だけ文化祭の仕事をないがしろにしてしまって他の実行委員の人達に迷惑をかけました。しかし、その時に動いてくれたのが副実行委員長の二人でした。彼らはふがいない自分とは違い、素晴らしい手際の良さでどんどん仕事をこなしてくれました。また、他の各部門長の人達も昨年の経験をもとにどんどん仕事を進めてくれました。彼らが頑張ってくれたからこそ今年の文化祭は成功したと言っても過言ではありません。本当にありがとうございました！！

そして、無事に文化祭がスタートしました。自分達が考えた企画や、みんなで設営したステージなど、全て自

分達が作った文化祭だと思うと何かこみ上げてくるものがありました。来場して下さった方々や高専の学生、全ての人達にとって楽しい文化祭であったかどうかは分かりません。ただ、自分にとって全てのアイデアを結集させて、実行委員の力を最大限にまで出し切った文化祭だと思います。「今年の文化祭はいつもより楽しかった！！」「今年の文化祭はいつもとなんか違った！！」そう思ってくると本当に満足です。最初の方で書きましたが、高専生にとって、高専祭は特別なものです。そんな高専祭を自分が作り上げられたこと、関わられたことを自分は誇りに思います。また、自分のこの文章を読んで、高専祭に興味を持って来年の高専祭に足を運んでくれるととてもありがたいです。

来年の高専祭も自分達は一生懸命準備しますので、ぜひ来場して下さい。期待を裏切らないように頑張ります。長文でしたが読んで頂き、ありがとうございました。



露店営業



英語劇 シンデレラ

ロボコン ～これからのメカ研に向けて～

機械工学科4年 堤 功之祐

今年のメカ研の戦績は九州準優勝及び全国アイデア賞と満足のいくものであったが、それとは別に今後改善しなければならない点もいくつか見つかった。

特に一つ挙げるとすれば、一番はアイデアの内容である。鹿児島のアイデアはルールの解釈に厳密（しかも解釈がネガティブ）すぎて毎年開発が混乱する。今年のAチームも山越え部分のアイデアが最初のルールを遵守しすぎたために、後でルールが変わってより高速な（と同時に最初のルールではグレーゾーンだった）アイデアが認められた際、対応できなかった。それでも後輩達はほかの部分で補おうとしてくれたので何とか決勝戦までこぎつけたものの、やはり限界に近い構造だったのか負けてしまった。ちなみにこのとき優勝した所は最初から新ルール方式で、つまり最初の段階ではグレーゾーンのまま開発していたことになる。

毎年競技内容が変わるNHKロボコンはルールを決める人間よりもルールを理解していないと勝ち残れない。毎年やろうとして、なかなか成功しない難しい項目だが、後輩達にはぜひとも、NHKよりも正確にルールを見定める先見性を持ってほしい。マシンの製作能力はトップレベルにあるので、そこさえ克服できればまさに鬼に金棒である。



Aチームの「黒豚大行進」
練習中のひとコマ。高速移動している雰囲気伝わる一枚。



Bチームの「篤姫と機械な仲間たち」
時流に乗ったデザインで全国大会においてアイデア賞と
安川電機の特別賞をW受賞した。



平成20年度リーダー研修について

学生主事補 北 蘭 裕一

平成21年1月17日（土）に、学生会が主催するリーダー研修を開催いたします。今年度のリーダー研修は、昨年までの内容とは異なり、クラブ活動の活性化を大きな目的として掲げ、内容を検討しました。この背景には、本校が取り組んでおります学生支援G Pによるクラブ活動支援のさらなる充実があります。この学生支援G Pの取り組みとタイアップし、さらなるクラブ活動の充実を図るため、それぞれのクラブにおける部長・副部長等のリーダーの資質向上を狙いとしております。下記の日程表のとおり、元鹿児島実業野球部監督の久保先生の貴重な講話も取り入れており、学生のクラブ活動への意欲向上にも繋がるものと思われます。また、後半には、鹿児島大学教育学部の西種子田教授による、実技を伴う応急処置に関する講習会も行います。クラブ活動中におけるケガ等に対する知識・技術の習得も図れるものと思われます。これを機に本校のクラブ活動が益々活性化し、これまで以上に元気のある鹿児島高専になることを願っています。

＜ リーダー研修日程表 ＞

時間	内容
8:50～9:00	開会式
9:00～10:00	基調講話 ～ 久保克之先生 ～ (元鹿児島実業野球部監督)
10:00～10:15	質疑応答
10:15～10:30	休憩
10:30～12:00	グループ討論
12:00～13:00	昼休憩
13:00～15:00	応急処置講習会 ～西種子田弘芳先生～ (鹿児島大学教育学部教授)
15:00～15:15	休憩
15:15～16:30	全体討議
16:30～16:40	閉会式

校内美化運動について

学生主事補 濱川 恭央

1 はじめに

昨年度の担当主事補より美化の方針とその内容を引き継ぎ、校内美化運動は、「校内美化を学生の教育の一環として取り入れ、学生会を中心として計画・実施していく」ことで本年度も進めてまいりました。

特に校内美化活動（週に1回の清掃）は、その清掃状況を各クラスの環境委員がチェック、学生会へ報告という形をとり、学生会はそのゴミ分別状況をゴミステーションで確認、環境委員のチェックシート提出状況の確認など、今後も学生自身の環境を、学生たち自身の手で、きれいにしていくという考えをもつよう、そしてこれからもこの仕組みが長く続けていけるようにやってまいりました。

2 本年度の美化活動の取組み

美化活動として、本年度は以下の活動を実施しました。

- 1) 学生の通学ルートを考慮した足拭きマットの設置
- 2) ゴミ分別資料の配布
- 3) 校内美化活動とチェックシート
- 4) 教職員も含めた校内一斉清掃
- 5) 隼人駅ボランティア清掃
- 6) 後援会の花盛りプロジェクト

3 美化活動の効果

- 1) 足拭きマットの場所変更により、土砂（ゴミ）を持ち込まない工夫ができました。
- 2) ゴミ資料配布により、分別方法を周知させ、しっかりゴミを出せるようにできました。
- 3) 学生自身の自己チェックにより、清掃が教育の一環として機能し始めました。
- 4) 後援会、保護者の協力により、学校を皆できれいにし、花などを植えることによる、美意識の向上が図れました。

4 現状の校内美化の問題点

- 1) 前期は、学生による自主清掃チェックは、13クラス／25クラス（半数）の提出であり、一般学生へ浸透していなかった。
- 2) 美化活動中は、一生懸命清掃している学生と、そうでない学生に差がでてまいりました。
- 3) 清掃するクラスも限られていました。
- 4) 美化活動中に帰宅する低学年学生をみかけました。
- 5) ゴミの分別がなされていないごみが出されている。など、さまざまな問題点が出てまいりました。

5 対策

○ 担任による指導

- ・問題点1、2、3に対し、自主清掃チェック結果を担当個別にメールし、学生への指導を依頼しました。
- ・問題点4に対し、美化活動中に帰宅する低学年の学生指導を依頼しました。

結果、美化活動中の帰宅学生がいなくなりました。

○ 学生委員会と学生会での指導

- ・問題点5に対し、ゴミステーションでの学生委員会と学生会の分別チェックにより、ゴミ袋に所属、ゴミの分別がきちりと守られるようになりました。

○ 美化活動指導を実施

- ・問題点3に対し、11月に学生委員会（教員）にて各教室の美化活動成果を放課後、昼休みにチェックしていただき、担任へそのクラスの美化状況を報告いただきました。
- ・担任から指導のおかげもあり、2回目以降の清掃チェックでは、ほとんどのクラスの美化活動に改善が見られました。

6 今後

これまで個々の問題には、出来るだけ早く対策を考え実施、上記のように解決してまいりました。

しかし学校を見渡すと、きれいな箇所、きれいな教室も多々ありますが、それほど綺麗ではない箇所、ゴミが落ちている教室、廊下もあります。

美化活動自体は、学生会を中心に十分に機能しておりますが、一般学生への浸透はまだまです。

さらに、美化を推進するにはどうしたらよいか？

今後この学校を綺麗に保つため、個々に無理のない、長期にわたり、続けていける仕組みを構築するにはどうしたらよいか？などを検討する「校内美化プロジェクト」を立ち上げました。

今後このプロジェクトの中で、美化活動の方針等を作成し、校内美化を推進してまいります。

今後とも学生・教職員・保護者・学校関係者の皆様のご協力、よろしくお願いいたします。



交通だより

交通担当学生主事補 島名 賢児

昨年にくらべて霧島市での交通事故は減っているようですが、依然として高い発生件数を維持しているようです。平成19年4月から交通担当をしています。本校の学生が死亡事故に関係していないことに安堵しています。ただ、今年度も数件、本校の学生が交通事故の加害者および被害者になっているケースが発生しています。今年度も残り約2ヶ月ですので、十分気をつけてください。

さて、4月から登下校時の通学状況を見てみると、相変わらず半ヘルでバイクに乗ってくる学生が見られます。また、通学時はフルフェイスやジェットヘルを被っていますが、休日には半ヘルでバイクに乗っている学生が見られます。やはり「事故」を自分には縁遠いものと考えているようです。通学時は校則で決められているヘルメットを被ることはもちろんのことですが、休日についても自分を守るため、自分の一生を台無しにしないためにフルフェイスのヘルメットやケガを最小限に防いでくれる服装を身につけるようにしてください。また、朝の通学指導では、ヘルメットのアゴ紐をしていない学生が多く見られ、さらに、ただでさえ脱げやすい半ヘルでアゴ紐も締めていない学生も見られます。特に原付のスクーターの学生に多く、自転車の延長のように気軽に乗れるということもあってか、自己の安全に対する意識が低いように思われます。また、自転車の二人乗りをしている学生も見られます。後ろに人が乗ることによりバランスはとりにくくなり、転倒の原因にもなりますし、歩行者との衝突にもつながり、加害者にもなる可能性がありますので、二人乗りは絶対にしないようにしてください。

次に、依然として本校駐輪場および単人駅駐輪場での自転車の盗難が発生しています。盗難に遭った自転車は、標準でついている鍵だけで施錠しているものばかりです。以前から周知していますが、必ず鍵は二重にかけてください。ただ、残念ながら本校の学生が盗んでいたケースもあり、その学生は停学処分を受けています。停学処分を一度でも受けると進路にも影響し、自分の将来に大きな損失となることが予想されます。「つい出来心で」では済まされないことであり、本人にとって非常に重いものとなり、大きな落とし穴となることをしっかり認識し、慎重な行動を心がけるべきです。

最後に、現在、学生会を中心に校内美化活動に力を入れています。駐輪場については、駐輪マナーが悪いと昨年書きましたが、空き缶やペットボトルの放置、ゴミのポイ捨てなどが見られます。学外からの来校者が最初に通る正門からすぐのところ駐輪場はあります。一般科

目棟の前の道路はもちろんですが、正門から入ってすぐに左折すると駐輪場が見えてきますので、その駐輪場にゴミが散らかっていると本校学生の品位が問われます。直接的には関係ないと思いがちですが、そういったことの積み重ねで学外の方々から評価も低下し、さらには企業の方々の評価も低下すれば、自分たちが就職する際に影響してきます。現在、多くの企業に不況の波が襲い、本校学生の求人にも影響してくることが予想されます。しかし、モラルの低下が言われている今、皆が日頃の基本的な姿勢・態度をしっかりとすることを意識していけば、それが本校の評価にもつながってくると思います。身の回りをきれいにすることが、様々なことに良い効果をもたらすことを意識して、日頃の学校生活を送ってください。



交通安全講習会

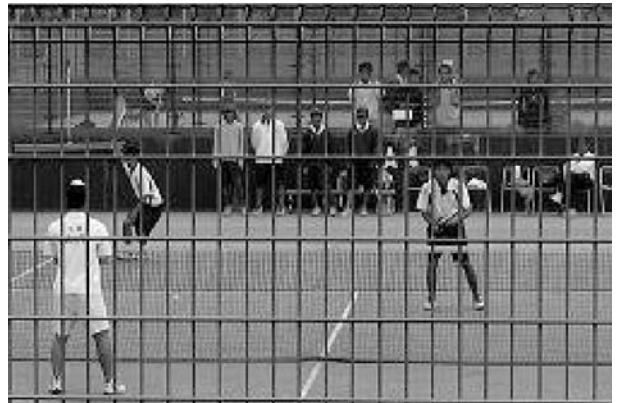


初優勝！ 全国高専大会

テニス部 電気電子工学科5年 内門 知博

私たち硬式テニス部は、九州沖縄地区高専大会において団体、個人シングルス、個人ダブルスのすべての種目を優勝し、全国高専大会の出場権を得ることが出来ました。今年は、全国高専大会で優勝することを目標にしていたので、九州沖縄地区高専大会が終わった後も、前期末試験が近かったのですが毎日練習に励み全国高専大会に備えました。全国高専大会は8月22日から25日の日程で北海道旭川市の花咲スポーツ公園で行われました。旭川は真夏の鹿児島よりだいぶ気温が低く、最高気温20℃、最低気温10℃と少し寒いくらいでしたが、スポーツをするには最適の気候でした。初日（22日）の団体戦は、2回戦、弓削商船高専に2-1で勝利し、準決勝の旭川高専にも同じ2-1で勝利しました。翌日（23日）の団体戦の決勝は、鈴鹿高専と3セットマッチゲームを戦い、ダブルスとシングルの勝利で優勝することができました。また、個人ダブルスで出場していた田上・内門組が決勝戦で弓削商船高専の窪田・窪田組を破ってみごと優勝し、個人シングルスで出場した田上君が3位に入賞しました。

今年の全国高専大会は、団体初優勝、個人ダブルス初優勝、個人シングルス3位という素晴らしい成績を残すことができました。来年は、5年生の僕は出場することはできませんが、九州沖縄地区高専大会4連覇、全国高専大会2連覇を目指して、後輩のみんなに頑張ってもらいと思います。



全国高専体育大会 北海道旭川



全国高専体育大会 北海道旭川



個人ダブルスで優勝した田上・内門組と
応援に来られた校長先生

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2008

学生係長 脇園 好光

九州沖縄地区大会でアイデア賞と 特別賞受賞

平成20年10月19日（日）に大分県のべっふアリーナで開催された「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2008九州沖縄地区大会」で、鹿児島Bチーム（篤姫と機械な仲間たち）がアイデア賞と特別賞を受賞し、全国大会出場を果たしました。

今回の課題は、「生命大進化」をテーマに、まず、多足歩行ロボットが4mの障害レースを行い、その後、変身ゾーンで20秒間のパフォーマンスを行い、最後に、2足歩行ロボットによる3.5mの歩行レースでタイムを競い合う競技です。

本校の結果は、鹿児島Aチームが決勝で惜しくも敗れて準優勝、鹿児島Bチームは、籠から篤姫が登場するパフォーマンスでアイデア賞と特別賞を受賞し、全国大会での活躍が期待されます。



「黒豚大行進」

全国大会でもアイデア賞と 特別賞を受賞

平成20年11月23日（日）に両国国技館で開催された「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2008全国大会」で、本校の「篤姫と機械な仲間たち」は見事なパフォーマンスを披露し、会場を大いに沸かせました。

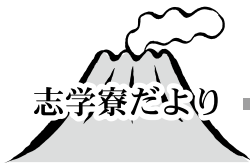
篤姫の登場シーンと歩行シーンでは大きな歓声が上がっており、九州沖縄地区大会に続きアイデア賞と特別賞を受賞しました。



「篤姫と機械な仲間たち」



全国大会出場メンバー



寮の1日

寮務主事 白坂 繁

●保護者の皆様へ 昨年に引き続き、寮の様子が分からないとの声をききますので、今回は寮の1年生の1日の様子を紹介します。

*

【07:00 起床】

寮内放送で音楽が流れる。曲は寮長の好みで変わるらしい。朝からハードメタルはこたえるが、慣れとは恐ろしいもので、それでも寝てしまう。(冬場は、これで朝点呼不在の違反点が溜まり寮に残れなくなる人も多いので注意しましょう。)

校庭出て点呼とラジオ体操。その後、部屋に戻るが何人かは寮食堂に直行する。朝食はパンかご飯の選択。その後登校。(冬場は、そのまま布団にもぐりこみ寝込んでしまう寮生も多い。遅刻残業で違反点がつきます。)

【12:25 昼食】

授業が終わると同時に半数の寮生はダッシュで寮食堂に向かう。1ヶ月分のメニューを覚えている寮生もいるが、大半の寮生は並んでから今日はAランチにするかBランチにするかを考えるのを楽しみにしている。

【15:30 開寮】

6時間目終了ぐらいで寮が開く。ほとんどの寮生は部活動に参加。風呂は16時から20時前まで入れるが、一番風呂を目指す常連もいる。

夕食は19時まで。これもA、B2種類が選べる。部活が遅くなると選択できないうえにスタ飯になる。(寮言葉で、早食いのこと。「スタ」が付くと急いでの意味になる。スタ風呂、スタ寝等。語源不明。)

食事に関しては、バイキングがあったり、季節メニューがあったり、「おたのしみメニュー」という正体不明の食事があったりで評判はいい。試験期間中は夜食という事で菓子パンが別に出る。

【19:55 中間点呼】

風呂でゆっくりしていると点呼に引っかかる。

【20:00-23:00 自習】

21時20分から22時前までは、中休みしてもよい時間だが、それ以外は完全自習。当直の先生の巡回がある。寝ていたり、遊んでいたりすると注意される。

中休み時間に、自習室や談話室等の清掃当番が回ってくることもある。

【23:00 最終点呼】

点呼後、24時前までは、就寝準備の時間となっているが、部活で疲れ果てている寮生以外は、最も活動している時間。特に前期の1年生は「修学旅行」状態といわ



れている。

補食室にも行列ができる。ラーメンと焼きそばが人気だが、冬場はやはりラーメン。ごみ箱をみると、こんなにいろんな種類のラーメンがあるのかと驚かされる。電磁調理器具のため、銅の鍋ではラーメンが作れなくて途方にくれる1年生も4月の頃はいる。

更に、合間をぬって洗濯もする。洗濯機もたくさんあるが、いかんせん、寮生が多すぎて中々使えない。しかも使い方が荒いので、よく故障する。たぶん1台5年は持たない。

(4年、5年になるとさすがに大人で、就職のための情報を探したり、進学のための勉強をしたりしている寮生が多い。)

【24:00 消灯】

1日が終わりとまた始まる。

一年間を振り返って・・・

寮長 機械工学科4年 丸山 輝

月日が経つのは早いもので寮長になろうと決意してから、ちょうど一年が過ぎました。

一年前にこんなに大変な日々が続くとは、全く思っていませんでした。

特に4月から6月、この時期が一番大変でした。

新一年生の入寮式やオリエンテーション、リーダー研修に歓迎マッチ、寮生総会などまだ寮長という仕事に慣れていない自分に、たくさんの仕事が出てきたのでとても忙しくドタバタとした3ヶ月でした。しかしこの3ヶ月で、自分でもびっくりするほど鍛え上げられました。

また、僕は寮生会という最高の仲間を得ることが出来ました。

文句を言いながらも班長決めやいろいろと忙しい時は、僕の仕事を引き受けてくれた副寮長。

寮生総会や定例会等、様々な行事で司会やサポートしてくれた統括委員長。

寮生マッチや寮生パーティーの計画のみならず、持ち前のキャラで盛り上げてくれた文化委員長。

何かとサボりがちだが、献立会の出席や栄養士さんとの話し合いなど仕事はきっちりしていた生活委員長。

いつも寝ぼけた顔だけど、志学や噴煙など締め切りには厳しかった報道委員長。

あまり仕事はなかったけど、寮生のお金をしっかりと管理してくれた会計委員長。

よく点呼当番をすっばかすが、ペナルティ清掃とゴミの分別においては絶大な力を発揮してくれた衛生委員

長。

凄まじい力で女子寮を泰平した、女子棟長。

昨年同様、個性的なキャラばかりの補佐1～6。

また委員長を中心に頑張ってくれた、各副委員長や各委員補佐。

残念ながら、全員で終われなかったけども・・・

一緒に寮生会として過ごした日々を僕は忘れません。
一年間ありがとう！！

来年も寮生会として、頑張ってください。



寮生講話

1年間を振り返って

副寮長 情報工学科4年 上野 恭平

副寮長として過ごしてきたこの1年を振り返ってみようと思う。

まず、4月は1年生が入寮してきた。最初はみんな戸惑っているように思えたが友達が増えてくるにつれ寮生活を楽しんで送れるようになっていったと思う。

1年生にとってすぐにやってきた試練は「あいさつ運動」だった。毎朝大声であいさつをする寮の伝統行事だ。今年の1年生はまあまああいさつをしっかりとっていたのではないかな？と思う。

次に寮マッチがあった。1年生から5年生そして寮外生も参加しとても白熱した戦いが繰り広げられていた。

1年生も先輩たちに負けじと、とてもよいチームワークで頑張っていたのが印象的だった。

夏休みが明け高専生活の目玉でもある高専祭が近づいてくるにつれ、学校全体が熱気に包まれていった。しかし、土足で寮に入る寮生が増えてしまった。

応援団の練習で汚れた足で入ったり、靴のまま入ったりする寮生が目立ったと思う。

そこは来年から一人一人考え責任をもって行動してほしいと思う。

その他にも、七夕パーティー、学寮避難訓練など様々

な行事等があり今年の寮生会ではスムーズに進行できていたと思う。

あとは寮生みんなが心待ちにしている寮生パーティーを残すのみとなっている。(この高専だよりが発行される頃には終わっていると思うが)寮生会として残り少なくなったがみんな協力しよりよい寮にしていきたいと思う。

またその寮生パーティーの時には来年の寮長選挙がおこなわれる。この2年間寮長をみてきたが、寮長は責任がありとても大変だと思うが来年度寮長になる人には頑張してほしい。

またほかの寮生会がしっかりサポートしてやってほしいと思う。

最後になったが、今年1年副寮長としての仕事をこなせ、そして寮生活を楽しめたのは寮長のマル、統括のさとり、そしてほかの寮生会のみんな、そしていまでは寮を出て行った元寮生会のみんなのおかげだと思う。

その全ての人に「ありがとう」と伝えたい。

一年を振り返って

統括委員長 電子制御工学科4年 清山 悟

今思えば長いようで短い一年が終わろうとしています。高専の4年は色々と行事を進めていく中心的存在なので本当に忙しくあっというまに一年が過ぎていきます。ですが、とても充実し楽しい一年でした。

統括委員長の仕事は寮生会をまとめることです。つまり学寮の行事を各委員長が準備し進行していくので、それをサポートするというものなのですが、今年の寮生会の委員長たちはとてもしっかりしていたので、統括委員長の出番はあまりなかったように思います。

また、今年の寮生会は2年生から4年生までいるのですが、みな仲が良く学寮の行事を楽しんで取り組んでいたのが印象的でした。このような寮生会の統括委員長になれてとても誇らしく思います。もうすぐ今年の寮生会も終わると思うと名残惜しいものがあります。

今回は統括委員長として一年を振り返ってという題もあり印象に残った学寮行事を幾つか取り上げたいと思います。

1、入寮式 オリエンテーション

統括委員長としての寮生活は新入生のオリエンテーションの準備から始まります。

寮生活を送る上での最低限のマナーだけは守ってもらえるようにオリエンテーションをしました。その点で今年の一年生はあまり大きな問題も起こさずしっかり寮生活を送れていたのもとても良いことだと思います。

した。

2、学寮リーダー研修

今年のリーダー研修は開寮4日目と早い時期にあり準備がきつかったのですが、寮務委員の先生達と協力し無事開催できました。

リーダー研修は班長たちを集め、今後の寮について議題をディスカッションするものです。

どの議会も活発に意見がでていたようで、みな互いに寮について自分の意見を交換でき良い刺激になったと思います。

また、同時に自分たちがこの寮生達の代表ということを改めて自覚させられました。

3、挨拶運動

今年の一年生の大部分の寮生たちが挨拶をできていたのが印象的でした。

一年生にはここで学んだことをいかし、さらに挨拶をしてくれるようになったら良いと思います。

4、まとめ

やはり一年を振り返り改めて寮について思うことは寮は良い学び舎ということです。

集団生活の中でたくさんの事を学べます。また一生付き合っていけるような友人関係も築けると思います。後輩達には是非このような鹿児島高専志学寮の良い伝統を引き継いでいってもらいたいと思います。

一年を振り返って

生活委員長 電子制御工学科4年 田中 洋平

この一年を振り返ると寮生会としての仕事、四年生としての活動などであつという間に過ぎ去っていった一年間だと思います。

自分は寮生会で生活委員長の役職についておりこの役職の主な仕事は自転車登録の管理や寮食堂関係のことであり寮生会としては比較的仕事の少ない役職です。

自転車登録は寮内に自転車を置くためと退寮していった寮生の放置自転車を撤去するために毎年四月に新しく学年ごとに分けて登録するというものです。

500人いる寮生の自転車をブレーキ、ライト、反射板などのチェックをするものなので寮生会全員で三日間にわたり協力をしていただきこなすことができました。

そして寮食堂関係でした大きな仕事といえば、食費の値上げです。

今年に入りますます物価の高騰が続く寮食堂も今の値段では現状を維持するのに厳しくなってきたので一食あたり10円アップできないか、ということでした。

まず自分が寮生に現状の値段の内訳と10円アップに

賛成か反対かのアンケートを記載したプリントをつくりました。

そしてそれを集計したところ4対1の割合で賛成が多かったので寮務に結果を提出し、値上げということになりました。

これが今年自分のした仕事です。

これを書いていてとても仕事の少ない役職だとは思いますが生活委員自体人数が三人からいろいろあって自分一人になってしまったのでやはり妥当だと思いました。

もう少しでこの役も終わりですが寮生会での活動はとても勉強になったと感じました。

今年の反省

会計委員長 電気電子工学科4年 松本 健太

今年やったことと言えば、何か寮であるたびに銀行にお金を引き出しに行き、預けてお釣りと領収書をもらう会計の仕事ぐらいでした。あとは、週1回の点呼当番をやっていただけでした。

去年からやっていた寮生会ですが去年は仕事を覚えることから始めて、いろいろとやっていたとても長く感じましたが、いざ、自分達の代となってみると、一日一日がとても早く過ぎて行き、もう引き継ぎの季節かと思うほどでした。ですが、寮生会に入ってから、友達が増えたと、寮生会のみんなはとても面白かったので、いつも楽しく過ごせました。ただ、今年は寮生会に入っていて、退寮する人が多かったためその面では少し大変な一年となっていました。

今年一年では、寮を良い方向に変えられたという実感はあまり無いですが、それは、後輩たちをお願いしていたと思います。後は、いよいよ寮生パーティーと来年度の寮長選挙を残すだけとなりました。まだ、誰になるかはわかりませんが、寮長になった人を中心として組織した新寮生会に、僕たちがしっかりと引き継ぎをして、来年、再来年とずっと良い寮生会が続くようになっていってくれるよう願って最後頑張りたいと思います。

教育GP「技術士会と連携した 新たな実践的技術者教育」の紹介

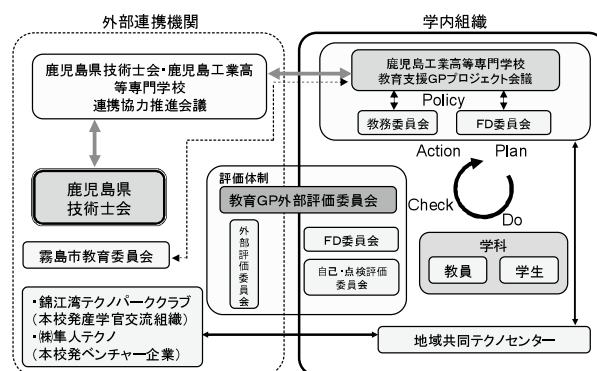
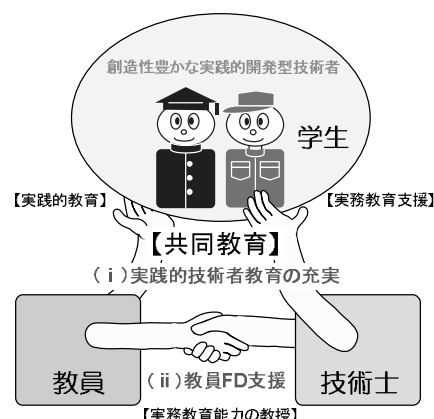
専攻科長 岡林 巧

本校では、その教育理念および教育目標の下で、準学士課程における低学年のうちから専門教育を充実させるとともに、実験・実習を重視した実践的技術者教育のためのカリキュラムを編成し、学生が創造性豊かな実践的開発型技術者になるための教育に努めています。実践的技術者教育を充実させる目的で、これまで、高等専門学校間、大学地域コンソーシアム鹿児島、および産業界・地域社会などとの幅広い連携を強化し、本校の教育組織内だけでの教育にとどまらず、産業界・地域社会との共同教育実現のための基盤整備を実施してきました。これらの連携の中で、特筆すべき点は、全国の高等専門学校の中での初めての取組として、「鹿児島県技術士会」との連携協力に関する協定を締結したことであります。平成19年度からは、この連携協力協定に基づき、専攻科の専門共通科目である「環境創造工学特別講義」を同技術士会との連携の下で実施しています。この授業では、県技術士会から派遣された技術士が、各専門分野に関する最新の動向やタイムリーなトピックスについて教授するオムニバス方式の講義が行われ、専攻科学生の実践的な素養の伸張などの成果が顕著になりつつあります。

一方、「準学士課程」の教育課程についても、実践的技術者教育充実の観点から、カリキュラムの見直しを行い、平成18年度から新教育課程が実施されています。この新教育課程では、専門科目のこれまでの実験・実習に加えて、ものづくりを中心とした創造実習等のPBL科目が新設されました。これまで、この授業科目において、環境保全のためのヤシの枝払いロボットの開発をはじめ、自治体と協力した公園設計などまちづくりへの参画、循環型社会を目指した廃棄物利用の研究開発などをテーマとした実践的技術者教育について一定の成果があげられています。しかし、実践的技術者教育を更に推進し、充実させていくためには、このようなカリキュラムの実施とともに、本校のカリキュラム全般にわたって、豊富な実務経験を有する人材による、実務的な観点からの教育支援が不可欠であります。

そこで、本取組は、本校と技術士会との連携に基づく共同教育を、専攻科課程のみならず、準学士課程の教育にも拡張し、本校教員と技術士との連携により、(ii) 学

生に対する実践的技術者教育の充実を図り、さらに、新たな取組として、(ii) 技術士の有する実務経験を活かし、本校専任教員の実践的技術者教育に関する教授能力の向上を図ることで、本校の技術教育の到達目標である「創造性豊かな実践的開発型技術者の育成」を推進するものであります。



本校が推進する「教育GP」の共同教育のイメージ図と連携組織図

機械・電子システム工学専攻 修了生に贈る言葉

機械・電子システム工学専攻長 田畑 隆英

機械・電子システム工学専攻を修了し、技術者として巣立っていく皆さん、修了おめでとうございます。そして、保護者各位におかれては、喜びもいかにばかりかと存じ、改めてお祝い申し上げます。

さて、専攻科課程を修了し、学士および修習技術者としての資格も取得し、実践的技術者としての素養は十分身についたことと思います。今後一層の勉学と実務経験を積み、自信をもって、各自がおかれた立場で全力を尽くして奮闘して下さい。修了生の皆さんが巣立っていく社会情勢は、現在、決して楽観視できるものとは言えません。しかし、鹿児島高専専攻科で学んだことを糧として、活躍し、社会に貢献してもらいたいと思います。そして、なにより何事に対しても実践してみることが大切です。

そのためにも、ぜひ、「体も健康、心も健康」であり続けて下さい。健康を害したとき、会社はとても冷たいものであり、健全な生活を送るためにも、まずは、元気でなければなりません。そして、心も健康でなければなりません。社会に出れば、時にはとても強いストレスにさらされることがあるものです。是非、仕事とプライベートでの気持ちの切り替えを意識して行うことと、なにがしかの心のよりどころを見つけることに心掛けて下さい。

ここで、現在の効率重視で多忙な世の中でも、決して忘れて欲しくないことがあります。それは、「相手の立場になって考えてみること」および「感謝の気持ち」であろうと思います。例えば、製品を設計する際には、使用する人のこと、メンテナンスする人のこと、そして、廃棄された後の処分をする人のことを考えれば、よりよい製品ができるものと思います。また、今の自分があるのは、保護者をはじめとする周りの人たちに育ててもらったおかげだということを忘れないで下さい。ぜひ、感謝する気持ちを忘れずに、大いに活躍し、社会に貢献してもらいたいと思います。「こんな製品をつくりました。見て下さい。」と来校してくれる日を楽しみにしています。最後に、「切実さが高まりを産む。」を餞に贈る言葉としたいと思います。

電情シ専攻修了生へ

電気情報システム工学専攻長 中村 格

修了生のみなさん、修了おめでとうございます。

早いもので、今回、電情シ専攻第8期生が巣立って行くことになります。毎年「光陰矢の如し」の言葉通りであると実感させられます。

電情シ専攻第1期生から第8期生までの進路について、進学・就職の括りで見えますと図1の通りとなります。年度ごとにばらつきはありますが、全体では進学と就職の比率は1:4となります。今後大学院への進学者が増加していくものと予想され、推薦による選抜や専攻科修了生を対象とした特別な選抜を実施する大学院が増加しています。これは、これまでの専攻科修了生の進学先での活躍が著しく、専攻科修了生への期待が大きいことの現れであると思います。

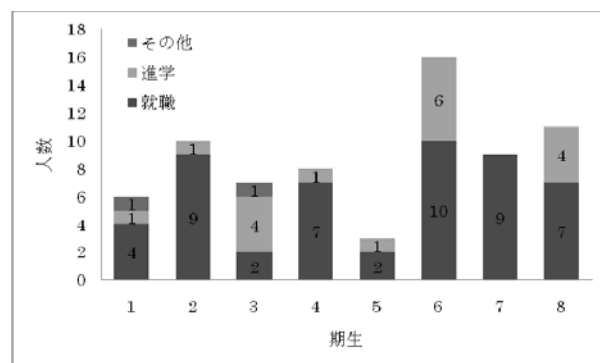


図1 電情シ専攻修了者の進路

さて、3月17日修了式が挙行され、みなさんの人生の一頁に「新しい道へと進む重要な出来事」として刻むこととなります。そこで、今後のみなさんの活躍を期待しつつ、みなさんの誕生日の出来事を月日順にあげて「おめでとう」の文章とします。

- NHK教育テレビ開局 (1959)
- インドで世界初の航空郵便 (1911)
- ベースボールの呼称が「野球」に決定 (1895)
- 村田兆治 (ロッチ) 200勝 (1989)
- パリ凱旋門完成 (1836)
- 上野公園に日本初の噴水 (1877)
- メートル原器制定 (1872)
- バスコ・ヌネス・デ・バルボアが太平洋発見 (1513)
- 江戸城本丸完成 (1622)
- 関門橋開通 (1973)

今日は何の日?? (函館インフォメーション・ネットワーク (株)) <http://today.hakodate.or.jp/>を参考にしました。記して謝意を表します。

土木工学専攻修了生に贈る言葉

土木工学専攻長 内田 一平

2年間の専攻科課程、さらに本科4年からの4年間の環境創造工学プログラムをすべて修了し、土木工学専攻から技術士補として巣立っていく諸君に、心からお祝いを申し上げます。また、これまで本校土木工学科ならびに土木工学専攻に大切なお子様の教育を委ねていただいた保護者の皆様には、お祝い申し上げるとともに厚く御礼申し上げます。

この度、晴れて専攻科を修了する諸君は、私にとって初の専攻長任期と同じ期間の在学とのこともあり、諸君を振り回し、振り回されながらも、一緒に成長をしてきた2年間だったと思います。このような時期を諸君とともに過ごせたことに感謝いたします。そして、この場をお借りして、人として技術者としてより多くの経験を積み、成長した諸君に再会できることを期待しつつ、いつもの調子で少々毒づきながらも教員として一人一人に最後の言葉を送りたいと思います。

射手園君、集中力と記憶力において高い能力を示し、その能力を発揮し幾多の試験を突破、免許取得をする努力家でした。今後も更なる結果を期待します。その反面、たまに自信家の側面も見受けられました。君同様の能力を有する学生の多く在籍する東北大大学院で切磋琢磨しながら、原田先生の下、より高度な技術を学び、さらに大きく飛翔することを願います。

竹ノ内君、君の存在感・おおらかな性格は、土木の現場監督者資質としてよいものを持っていると思います。きっと慕われる監督者になると確信しています。人の上に立つ仕事は、時として精神的にも肉体的にも無理が必要な時もあるかと思いますが、眼のこともありますので、あまり無理をせず、(株)NIPPO Co. にて国民のための道(路)と自分の人生の道を築き続けてほしいと願います。

徳重君、温厚で周囲に気を配りながら行動ができる性格、部活動などで見せた新しい事柄へのチャレンジ精神、地道な努力により導き出される結果を体験したことは、他工学を専門とする技術者の多い(株)KDDIコミュニケーションズにおいて、土木工学を基礎とし他分野の技術を吸収・融合させ、新しい風を吹き込むことができることと期待しています。

村田君、本当は内に秘める強い熱意をもっているのに思いを表に現さず、引っ込み思案にみられることが稀にありました。このことは美德でもあり、欠点にもなりうる事柄ですが、若い時は失敗を恐れず、その熱意を前面に出して色々なことにチャレンジしてもらいたいと思います。その経験が君の財産となるはずです。JR九州職員として九州圏の発展に貢献することを願います。

最後になりますが、土木工学専攻の運営・学生に対する教育活動にご協力いただいた教職員と関係者の方々に、また、何より修了生諸君自身とその保護者の皆様に、土木工学科教職員を代表致しまして御礼申し上げます。



卒業式



専攻科棟（奥の4階建）と
地域共同テクノセンター（手前）

「カセサート大学との交流2008」

国際交流委員 西留 清

平成14年度に国際交流を締結したカセサート大学（タイ国立大学）との交流も今年で7年目となります。タイの首都であるバンコク市内には3つの有名な国立大学があります。チュラルンコン大学、タマサート大学そしてカセサート大学です。この3つの有名な国立大学に入学するために、地方の子供達は中学時代からバンコク市内に在学するとも言われています。このうちの一つであるカセサートはタイ語で農業と言う意味です。タイ国内ではカセサート大学の農学部が最も有名で、京都大学をはじめとして日本の約50の大学（高専は本校のみ）と国際交流を締結しています。しかし、カセサート大学は工学部が最も大きく、14学科あります。全校学生は約4万人ぐらいです。

本校がカセサート大学と国際交流を締結してからこれまでの交流は、平成17年10月にカセサート大学工学部のナルモン講師を本校の高専祭の文化講演に招きました。ナルモン講師は日本の大学院（修士・博士課程）を修了しているため日本語が堪能で、主に日本の学生とタイの学生の違いについて講演してくれました。平成17年3月には本校サッカー部の学生約20名がカセサート大学工学部サッカー部との親善試合をカセサート大学の競技場で行いました。本校サッカー部が圧倒的に強かったです。平成18年3月には本校剣道部の学生約10名がカセサート大学（他にチェンマイ大学とチュラルンコン大学）の剣道部との親善試合をカセサート大学で行いました。これも本校剣道部の学生が圧倒的に強かったです。平成19年3月は本校学生会の学生約10名がカセサート大学のソフトボールチーム（カセサート大学のチームにはインターナショナルの選手3名がいました）と親善試合をカセサート大学ソフトボール会場で行いました。本校がさよなら負けでした。いずれも親善試合後に交流を行い、片言のタイ語・英語・日本語でも充分な学生間の交流が行えたものと思います。

平成20年3月にも2名の学生（1名はカセサート大学でのインターンシップで4週間滞在）がカセサート大学を訪問して、授業等を受けました。カセサート大学でのインターンシップ（4週間滞在）は他にも平成17年8月に2名、平成20年8月に2名の専攻科1年生が行きました。インターンシップ生はカセサート大学内にある国際交流センター（外国人学生寮）に4週間滞在していました。多くの国の学生とも交流が行えたとのことでした。

これらの交流は平成17年～19年度にカセサート大学国際交流委員長であった本校の引地教員が中心となって実施されました。また、引地教員は平成18年と19年の夏、カセサート大学の付属小学校の児童を対象としたロ

ボット講座も実施しました。平成20年にはカセサート大学の学部生を対象としたロボット講座も実施しております。教職員間の交流は、一部で共同研究が実施されている程度です。

今後の課題としては、カセサート大学の学生・教職員が本校を訪問してくれることです。しかし、費用（タイでの一般労働者の日当約500円）の問題等で実現が難しいです。本校側も多くの学部・学科をもっているカセサート大学との教職員間交流が活発化することを期待します。



カセサート大学附属小学校でのロボット講座



カセサート大学寮生とのスナップ写真

「JABEE認定継続審査を受けて」

教育プログラム改善委員会委員長
特命統括員（JABEE担当） 原田 治行

本校は、今年度JABEE認定継続審査を受審しました。審査結果が確定するのは5月上旬の予定です。本稿ではJABEEについての説明と審査の経過について報告します。

JABEE（日本技術者教育認定機構：Japan Accreditation Board for Engineering Education）とは、技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。大学や高専等の高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定します。高専の場合は、本科4、5年と専攻科1、2年の4年間の技術者教育プログラムが審査の対象となります。JABEEに認定されると、教育プログラムに対して認定証が授与され、官報に公示されます。また学生は卒業と同時に修習技術者の資格を得ることができ技術士国家試験の一次試験が免除されます。産業界の認識はまだ十分とは言えませんが質の高い技術者基礎教育を受けたことが客観的に証明されるので、やがては就職などあらゆる局面で有利になると考えられます。JABEEは国際的にも認められており、米国、カナダ、英国、オーストラリア、ニュージーランド、香港、南アフリカ連邦等で行われている同種の認定と同等であることが保証されています。したがって、日本の会社から海外に派遣されたり、外資系企業に就職する場合に有利になります。

JABEEは技術者教育プログラムを6つの基準すなわち：①学習・教育目標の設定と公開、②学習・教育の量、③教育手段、④教育環境、⑤学習・教育目標の達成、⑥教育改善に基づいて合計28の項目の審査を行い、総合的に認定基準を満たしているかどうかの判定を行います。教育内容はもとより、教育設備、財源までも人材教育にかかわる全ての内容が対象となります。

本校の技術者教育プログラム「環境創造工学」は、平成15年度にJABEEの新規審査を受審しました。そして、平成17年度の間審査を経て、平成19年度までJABEEから認定されました。この間、JABEE基準に合わせて積極的に教育改善に取り組み、授業シラバスの改善・充実、授業評価アンケートの実施の教員へのフィードバックによる授業改善計画書の作成や鹿児島県技術士会との共同教育の実施などを行ってきました。

平成20年度以降もプログラムの認定を継続するために、今年度に認定継続審査を受けました。この認定継続審査では、中間審査での指摘事項に対してどのような改善が行われたか、また新規審査で認定された基準のレベルが5年間維持・改善されたかが審査されました。

審査内容や方法は、5年前の新規審査と同様であり、事前にJABEEの審査基準に照らして本校の教育プログラムが認定基準を満たしていることを自己点検書（本文

編と裏付け資料編）にまとめて事前に提出して審査を受けました。また、自己点検書では確認できない事項については実地審査が行われました。実地審査は11月16(日)、17(月)、18日(火)の3日間にわたり行われ、学校関係者との面談、追加資料の提出要求や、施設見学、講義視察、在学生・専攻科修了生・教職員の面接等の対応に追われました。

今回の認定継続審査では、5年前の新規審査からの改善事項を重点的にチェックされました。中間審査で指摘された2つの事項は改善が認められました。また、教育活動について特に下記の5項目が、評価されました。

- (1) 環境創造工学プログラムのもとに3コースの一体感の感じられるプログラムを目指しており、特に環境創造工学プロジェクト(PBL)で成果を上げている点。
- (2) 英語教育を活発に進め、TOEIC400点以上を目指すなど、実績を上げている点。
- (3) 技術士会との連携等、地域社会との連携等、地域性を考慮した活動を行っている点。
- (4) 後援会と協力して、学生の学会発表に旅費を出すなど、学生の意欲増進に努めている点。
- (5) 体育祭応援合戦等の伝統行事及び高専ロボコン等の好成績にみられるように、学生のアクティビティを尊重し実績を上げている点。

しかし、審査項目の28項目のうち3つの項目については、「認定基準を満たしているものの、改善が望まれる事項」と判定されましたが、現時点では教育プログラムの認定の継続が認められる見通しです。今後、他高専・大学等の審査結果との調整後、今年の5月上旬には最終的に結果が確定する予定です。

今回の認定継続審査の結果は、学生及び全教職員が、学習・教育目標の達成、専攻科の充実・向上のために日頃から努力した成果であり、教育の改善活動の成果が如実に表れています。

今後とも、本校では技術者教育プログラムの改善を継続して行い、更に充実した教育を行って優れた人材を輩出すべく努力を続けていきますので、よろしくお願いいたします。

最後に、書面をお借りしまして、関係各位に対し、認定継続審査に対する共同作業及び全面的なご協力に感謝いたします。



J A B E E 審査風景

学生相談研修会に学ぶ

学生なんでも相談室 相談員 吉満 真一

学校において授業やクラブ活動を通じて学生と共に過ごしていると、教育の現場においては様々な問題が複雑な形で存在していることを目のあたりにする。学生から相談を受けた場合、まず話を聞き、必要に応じて何らかのアドバイスをする必要があるが、ケースによっては対応に苦慮し、後々まずい対応であったのではないかと反省することもある。最終的に専門的な対応はカウンセラーの先生方にお任せするにしても、初めは担任やクラブ顧問等に相談に訪れるのが一般的であり、初期段階での対応を誤ったものにしない為にも、ある程度の専門知識や心構えを身につけておくことが必要である。学生相談関連の学内講習会や報告会において、様々な事例や症例、病名などを耳にするたびに、もう少し専門的な知識を身につけておきたいと感じていたが、今回、日本学生相談学会が主催する全国学生相談研修会に参加する機会をいただいた。

本研修会は学生支援の一つとしての「学生相談体制の充実」をキーとして、専門のカウンセラーの先生方を講師に、全国の大学、短大、高専の教職員を対象に毎年行われている研修会である。3日間に渡る研修プログラムが組まれており、受講者の希望や専門性にに応じて多くのコースが用意されている。本研修において、最も注目して臨んだ事は様々なケアやサポートが必要となるような症例やそれらに対する具体的な対応等についてである。また、実際に教育現場において他大学、高専の教職員の方がどのような問題に直面し、またどのように対応しているかについても関心の高いところであった。

所属した分科会では、まずそれぞれの教育機関における「相談室づくり」について議論が行われた。「意味のある相談室」として機能させていくためにはどうあるべきなのかという点について、様々な観点からの意見提出・討議がなされたが、相談室（相談員）として、できることとできないことの明確化、『限界設定』が運営していくうえで最も重要になると思われた。例えば個人的な電話番号を教えた場合には、深夜等に電話がかかってきて対応せざるを得ない場合が発生する可能性がある。そのような際、途中で放置せずにどこまで付き合うのか、自分がどこまで介入できるのかを良く考えなければならぬということである。相談者にとって、また相談員にとって良い方向となるような形態をとらねばならない。相談員自身のメンタルヘルスケアも考慮する必要もあり、研修会等で知識を得、情報を共有し、お互いを支える仲間作り・環境作りが重要であると感じた。

また、相談対応に関して「学生にとって良い聞き手になるには」ということで、実習にウェイトをおいた研修

も行われた。学生相談においては「まず聞き役に徹する」「自分の意見を決して押しつけない」ということがよく言われるが、つい自分の意見を述べて、それを相手に押しつけてしまいがちである。学生にとって良い聞き手になるためには何が大切なのかという点に関して、失敗事例の紹介や参加者同士によるロールプレイを重ね、お互いの対応を評価し合うなどしながら、理解を深めた。

また、専門的ケアの必要となる事例等に関しては私も含めて事前質問者が多かったようで、多くの時間を割いて解説をいただいた。最も心配される心の病といえる「うつ病」「統合失調症」さらには「境界（性）人格障害」といったものがあり、それぞれの具体的症状の一端を知ることができた。具体的な症状を知ること、実際の相談の場において、「もしかしたら・・・」と思う節があれば、専門のカウンセラーの先生と連携をとり、少しでも早く適切な対応をとることができる。また、近年、マスコミ等でも良く耳にする「発達障害」がある。これには「学習障害」「注意欠陥多動性障害」「高機能自閉症」「アスペルガー障害」といったものがあるとの事である。病気ではなく、日常生活において何らかの「困り感」を抱えている事が多いため、その「困り感」に焦点をあてた適切な支援が大変有効であるとの事であった。既に平成19年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての小中学校において、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していく方策がとられている。

これから先、学生生活において様々な心の病を抱えたり、また軽度の発達障害を持つ子供達が入学してきた際、私達教職員は正しい知識と理解を持って接していくことが重要となる。その為にも、学生支援の本質をしっかりと共有し、その質を高め維持していくための研鑽は欠かせないものと感じた。



図書館への絵画の寄贈

図書館長 榎園 茂

図書館は学校の表玄関である校門付近に設置されている高専もありますが、本校では、教室と寮との通路の途中に位置しており、学生が登下校時や昼食時に立ち寄りやすい場所に設置されています。しかしながら、近年の若者の活字離れの影響なのか、本校でも毎月の入館者数、貸出冊数とも年を追う毎に減少しているのが実状です。そこで図書館の環境整備あるいはイメージアップにつながるようなことはできないかと考えてきました。

数年前から絵を通して懇意にさせていただいている野間隆先生に、8月頃に「先生の絵を数ヵ月お借りして高専の図書館に展示させていただけないでしょうか。」と相談したところ、ややあって「寄贈しましょうか。」との思いもかけない返事をいただいた。野間先生は以前高専の美術の非常勤講師としてもお願いしたことがある先生で、東光会会員・東光会支部鹿光会会長などをされる傍ら、現在でも毎年南日本美術展などに大作を発表されている著名な画家で、寄贈いただけるとは頭から考えていなかったもので、驚いた次第です。

早速、高専に持ち帰り学生支援係長と相談の上、上原事務部長にいきさつをお話したら、有り難いことであり是非受け入れたいとの返事をいただいた。受け入れに必要な額縁購入費の支出も了承してもらいました。後日赤坂校長に寄贈される絵の写真を持って説明をさせていただいたところ、有明高専図書館には30点もの絵が美術ギャラリーとして展示されている例を話されて、図書館ひいては鹿児島高専の充実に役立つとの賛同をいただきました。

10月29日の午後、業者（高木画荘）により、搬入と展示作業が行われました。野間先生夫妻も来校されて、展示する位置などを指導していただき、31日には展示作業を終えることができました。寄贈していただいた絵は、鹿児島神宮の初午祭を題材にした「鈴かけ馬」（100号）、夕日に染まる桜島をイメージした「桜島好日」（50号）、テーブル上の静物を描いた「卓上」（50号）の3作品です。「鈴かけ馬」は図書館入り口に、他の2作品は第1閲覧室内に展示されています。いずれも東光展などで入選となった大作です。是非一度ご覧下さい。

絵画の展示が図書館の環境整備や学生の情操教育面で多少なりとも役立てば有り難いと思っています。最後にこのようなすばらしい絵を寄贈していただきました野間隆先生に深く感謝したいと思います。

鈴かけ馬



桜島好日



卓上





卒業 送る言葉

電子制御工学科 5 年担任 宮田千加良

卒業生および保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さん、高専生活、いかがでしたでしょうか？楽しかったこと、苦しかったこと、いろいろ胸に秘め、いよいよ社会人ですね。

私は卒業後 9 年間企業にいましたので、進学や就職していく皆さんを見て、その頃が懐かしく思えます。

会社にいたのは皆さんの生まれる少し前までですが、「前向き」ということが大事だったと思います。教員になっても、また求人に来られた企業の方々と話しても、そう思います。進学する方にとっても同様ですので、贈る言葉として、ありふれた言葉ですが「前向きに」という言葉を選びました。

社会でも、企業でも、学校でも、嫌なことは多々あります。嫌だと思うとどんどん嫌になり、面白くもなくなります。勉強でも嫌と思っているとその科目は苦手になっていきます。一方、これはためになる、得意になる、と考える臨むと、頑張ることができ、得意にもなります。楽しく仕事もでき、人間関係も良くなります。ぜひ卒業を機に、嫌なことに会ったら「前向きに」とらえるように心がけてみてください。どうせしないといけないのであれば、楽しくできるよう気持ちを持っていてみてください。

うまくいかないことやどうしようもないこともあります。これらはくよくよ考えず、どうにかなると、わり切り、負担にならないよう考えてください。

ついでに会社について思ったこと、あるいは新入社員時代に言われたことを幾つか述べておきます。

任せられた仕事の納期、満足できる場合は問題ないですが、遅れたり、出来ない場合は分かった時点で早めに連絡すること。こういう問題が発生したので、こう対処しようと思いますがこの程度遅れてしまいます、など。上司は自分が考えている以上に全体を広く見た色々な対応が準備できますので、逆にこの人には仕事は任せられるな、と信頼されることにもつながります。

勉学、これは多分一生続きます。いろんな場面で不明な事が出てくると自分で調べることになります。高専の教科書も役立ちます。高専出身者は、卒研も経験していますし、このあたりを買われているように思います。積極性もあり勤勉であるとよく聞きます。ぜひ、これからもそういう言葉が聴けるよう、手本を示して続けてください。

体調管理も大事です。具合が悪い場合は、忙しくても休めと言われました。更に体調を崩し何日も出勤できなくなるよりは、1日くらいはどうにでもなると言われ、

なるほどと思いました。

体調管理という面でも余暇の利用は大事です。仕事とプライベート、メリハリをつけて気分転換など行い、人生を楽しくエンジョイしてください。旅行や運動もいいです。保養所などもあります。結構良い施設が安く使えます。私も使ってみて、以前からどんどん使えばよかった！と思いました。

景気は悪くなっていますが、気持ちの持ちようで明るい未来にもつながると思います。ぜひ前向きに取り組み、輝く未来を築いてください。



卒業式



高専での5年間を振り返って

機械工学科5年 末吉 和幸

あの日。希望というよりは不安という感情を抱えながら、初めて鹿児島高専の学生として校門をくぐった日から、もう五年という月日が過ぎようとしています。今思い返してみると、この五年間は長いようで短いものだったなと、改めてそう感じます。

一年生の頃から専門的内容を学び、そして自由な校風の中で時間を過ごしてきましたが、僕はその中で様々なことを学び、得ることができました。あの時こうしておけばよかったと後悔することは多々ありますが、この鹿児島高専への入学を後悔したことがないことが、その何よりの証拠だと思います。これからその得たものについて、それぞれに思い返してみようと思います。

まず一つ目は、様々なことを学ぶことができたことです。一般的な知識はもちろんのこと、専門的な知識も多岐にわたって学ぶことができました。さらに先生方からはその講義内容だけではなく、勉強をすることの楽しさも教えてもらいました。自分が興味のある内容を学ぶためには、まず目の前にある基礎的なことを学ばなければなりません。そのために知識を重ねていくことが、この学校に来てようやく楽しいと思えました。

次にもう一つ、人間関係が挙げられます。一年生の時から皆で進級し、そして卒業を迎えることとなりましたが、その中でこれまで助け合って乗り越えてきたことは多く、その経験から生まれる結びつきも財産だと言えます。それはきっと、これから先それぞれの道を歩み始めても変わらずに続いていくものだと思いますし、どんなに迷うことがあったとしても先へ進む糧とすることができるはずです。やはり友人は最高の財産なのだと、今では胸を張って言うことができます。

まだ先は長いと思っていたのに、本当にあっという間に過ぎてしまった五年間。色々な本を読んだり、資格を取ったり、高専祭に情熱を注いだりと、多くのことを経験できた五年間でしたが、そのどれもが深く胸に焼き付いていて、何事にも変えがたい思い出です。これから僕はこの学校を卒業し、社会の中で生きていくこととなりますが、どんなに苦しいことがあったとしても、その思い出や多くの時間を共にした仲間顔を思い出せば、乗り越えていけるような気がします。

最後に一つ言えることは、僕はこの鹿児島高専に入学できて良かったということです。これまで出会った、そしてこれから出会う人に感謝の気持ちを忘れずに、一歩ずつ前へ進んでいきたいと思っています。

出会ったすべてに感謝

電気電子工学科5年 岩元あゆか

入学式でロッキーが流れたことに驚いた。
先生方の変人ぶりに驚いた。

ここに来て思ったことは、今までとは違うということ。義務教育を終えて、自分自身が選んだ道に立っているということ。

最初は5年もあると思うと気が遠くなりそうだった。ちゃんとやっていけるのか不安もあった。

でも実際は、5年間はあっという間だった。むしろ足りないくらい、充実していた。

中学までとは違う何かを求めてここに来て。はじめはあまりにも違いすぎて戸惑った。

しかし・・・。

慣れ、とは怖いもので、気づいた時には高専人としてここに馴染んでいた。

そんな5年間で学んだことは数知れない。

幼かった1、2年時代。友達関係に悩んで喧嘩して。でもだからこそ友達の大切さが身にしみて。

ガキだった3年の時。先生と衝突して、部活でもうまくいなくて行き場を失くして。でも衝突があったから今は理解することができて。

あまりにも早く過ぎた4年生。時間の大切さが身にしみた毎日。つらい時こそ大切なのは笑顔で過ごすことだと気づいて。

・・・そして、気づけば5年目、卒業。後輩たちの相談にのったり、時にはアドヴァイスしたり。いつの間にかそんな風に成長した自分がここにいて。

やりたいことはやってきたつもり。いろいろな経験もできた。親元を離れて寮で生活したり、外国の文化を学んだり、そして何よりも嬉しかったのが、廃れた部活を再生できたこと。入部当初は10人もいなかったし先生も来なかったのに、今では30人以上、先生方もほぼ毎日来る。いろいろなイベントにも参加できる。過ぎゆく日々が部活漬け。

・・・結局はここに戻ってきてしまった。でも後悔なんてかけらもない。

とにかく、わざわざここまで来た甲斐があった。たくさんの先輩方に助けられ、たくさんの仲間へ救われ、たくさんの後輩に支えられ。ここでの出会いはすべて大切な宝、一期一会。

辛いこともあったけど、ここに来て本当によかった。

すべての毎日に、ありがとう。

卒業にあたって

電子制御工学科 5 年 早馬 悟司

5 年前の春、私は鹿児島高専を受験しました。卒業を間近に控えた今、もし中学 3 年の自分から「どの学校が良いか？」と聞かれたら迷わず「鹿児島高専」と答えます。

高専生活で残してきた思い出は数え切れないです。中でも最大のイベントとなったのは 4 年時の高専祭。応援団では優勝を目指し 3 年生のころから準備を始めました。春休みには合宿を行い夜中まで型を考えました。何か意見があったら遠慮なく出し合い、新しいアイデアが出たらみんなでそれを試しました。試行錯誤の連続でしたが納得いくまで練り直し、決して妥協はしませんでした。夏休みが明けてから本番までの 1 ヶ月は毎日応援団のことだけを考えました。トラブルや意見の食い違いもありました。そのような時はとことん話し合って答えを導き出し、その度に団員の絆は深まりました。こうして迎えた本番は一瞬の出来事でしたが、やり遂げた達成感はいまだに味わったことのない素晴らしいものでした。優勝を聞いたときは涙を流して喜びを分かち合いました。

私は高専に入学して最高のクラスメートに出会えたことを心から幸せに思います。これほどまとまりがあって仲の良いクラスは他にはないのではないかと思います。声をかければみんなが集まるクラスで夏にはバーベキューをし、冬にはカニを食べに行き朝までボーリングをしたりしました。いつも笑いの絶えない元気なこのクラスで過ごした毎日が楽しい思い出です。そして困ったときには助け合い、悩んだときには励ましてくれる仲間が存在が心強くその心が温かかったです。

今、私は 5 年間の高専生活を終え卒業しようとしています。ここまで来られたのも周囲の支え無しには決してありえなかったことです。鹿児島高専でのすべての出会いに感謝したいと思います。4 月からは新しい生活が始まりますが、この学校で学んだことや経験したことを活かして頑張っていきたいと思います。

5 年間の高専生活

情報工学科 5 年 飛佐 洋平

15 歳、鹿児島高専に入学。今年でもう 20 歳を迎えています。

今振り返ってみると「5 年間もある」と思っていたこの高専での過ごした日々はあっという間でした。

入学前漠然と希望テレビ局＝情報というあいまいなイメージと情報は他学科に比べて女子が多いらしいといった、不純な動機で入学。

1 年生、僕らのクラスは既におかしかったです。女子が 5 人の男臭いクラスで体育祭のリレーにおいて 1 位を獲得、クラスマッチでもなかなかの好成績といった KY なことを平気で成し遂げていました。僕はそんなクラスに少し鼻が高かったです。

2 年生、このとき 1 年生から続けていたソフトテニス部を退部しました。初心者からで多くの先輩方、顧問の先生方、そしてコーチの安楽さんには本当にお世話になりました。みなさんの記憶に残っているのか少し不安ですが、僕にとっては部活で得られた仲間と共に一生忘れられない思い出ばかりです。顔を見つけたらぜひ声をかけてください。毎年全国に行くような強い部は僕の自慢でした。

3 年生、クラスの象徴がいなくなり、気づいたら周りに年上が増えていました。寮生活も最後でイヤな事もイイ事も学ぶ事もたくさんありました。これは高専に入学したからこそ体験できた貴重な経験でした。時に授業中ほとんどが就寝していたり、時に物が宙を舞っていたりとハチャメチャでしたが、今となってはいい思い出です。

4 年生、ニュージーランドや他学校、別々の道を歩み十数人もの仲間が去って行きました。しかし、3 人の編入生を加え僕らは高専祭を迎えました。夏休み前から応援団、やぐら絵をクラス & 辞めたクラスメイト達全員で一丸となりました。みんなで楽しくをモットーに 1 ～ 4 年まで最後まで笑顔でやりぬきましたが、残念ながら応援団は 5 位という結果でした。しかし、やぐら絵 1 位、そして総合 1 位という結果にみんな感激でした。僕個人としても応援団で幹部を務め、学科 T シャツ作りに一人で奮闘し、それをみんなが着てくれていたのがうれしくてしょうがなかったです。

5 年生、僕は応援団で燃え尽き 4 年のときの成績を落としてしまい希望していた県外の大学進学をのがしました、今となっては勉強しなかったことを本当に後悔していますが、専攻科入学と決まったので今後は後悔しないよう、勉学にも精一杯取り組んでいくつもりです。苦しいことも楽しいこともたくさんあり、4 年から務めていた総務も自分なりにがんばって取り組んできました。高専という他とは違った学校で、たくさんの人と出

会い、経験し、成長することができました。鹿児島高専で学んだことを今後の人生にも生かしてがんばっていきましょうと思っています。お世話になった先生方、支えてくれた両親・家族、そしてなにより出会えた仲間たちに感謝しています。本当にありがとうございました。

卒業にあたって

土木工学科 5年 小原 由莉

長いようで短かった5年間で、今終わろうとしています。この5年間で振り返ってみると、とても中身のつまった日々をおくれたと思います。もともと高専に入学しようと思ったのは、先に入学していた姉2人の姿を見て楽しそうだなと思ったのがきっかけでした。その中の土木という学科を選んだのも、深く考えずに選択したと思います。何を勉強していくところか分からないまま入学しましたが、5年間勉強してきて、今では本当に土木工学科を選択してよかったと思います。

私が高専生活の中で、良くも悪くも一番印象に残っているのは4年生の時です。特に体育祭や工場見学はとてもいい経験になったと思います。この年から片道一時間半ちょっとの自宅から通学を始めました。このためか、勉強面では、授業中というっかり寝てしまい、ノートが真っ白！ということが多かったような気がします。もうちょっと真面目に授業を受ければよかったなと反省しています。クラスの友達とのちょっとした衝突や体調を崩す事も多かった年でしたが、今振り返ってみればとても充実した年だったなとしみじみ思います。

私はもともと人見知りが激しく、高専に入学当初も級友や寮生になかなか馴染めずにいました。現在では仲のいい人も、1年生の前期の頃までは、私と話したことがないという人が多かったと思います。そんな愛想も何もなかった私に分け隔たりなく話し掛けてくれた友達や部活の先輩たち、女子寮の先輩たちのおかげで楽しい高専生活を送ることが出来ました。本当に感謝してもしきれません。

こんな私も4月からは社会人です。お世話になった人達や地元から離れて就職するのは不安でいっぱいですが、高専で学んだことを生かしてこれからも日々成長していきたいです。最後に5年間一緒に過ごしてきた友達、最後の2年間ぐらい殆ど顔を出さなかった弓道部の皆さんや忙しい中お世話をしてくれた先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

専攻科を修了にするにあたって

機械・電子システム工学専攻 2年 深水 嵩洋

鹿児島高専に入学してから7年——。この7年という月日は、僕という存在を作り上げる大きなものになったと思います。そこで得られた友人や恩師等、幅広い人間関係、その繋がりは今後の自分をおおいに支えてくれるものとなると思います。

数多くの出会いがありました。

お互いを切磋琢磨し、高めあうことで技術者として成長することができた仲間たち。

彼らと過ごした時間は、確かに僕の根底に息づいています。

数多くの別れがありました。

学び舎を共にした学友達も、その多くが此処ではない何処か——それぞれの舞台で活躍していることでしょう。

それが嬉しくもありますが、やはり一抹の寂しさは拭えません。

だからこそ、再会の暁には彼らに恥じぬ自分で在りたい……心よりそう思います。

本科生としての五年間で学んだ技術者としての基礎知識。

専攻科生としての二年間で学んだ専門知識。

七年間で学んだ事は数多くありますが、雑多に詰め込んだ知識ではない、本物の教養と呼べる事柄は少なく、学ぶ事に限りはありません。

未だ勉強という道の途中——それでも、この七年で最も深く刻まれた教養を挙げるとすれば、やはり技術者としての心得だと思っています。

特に、鹿児島高専の教育目標である「グローバルに活躍できる技術者」を目指して、専攻科にいる間は、いろいろなところに旅をしました。国内に限らず、海外へも旅行しました。そこで、感じたことは、やはり、その国を理解するには、本を読んだり、人から話を聞くだけでは大して理解できないということです。実際に、その地方や国を訪れることによってそこでの現状というものを理解できると思いました。このことは、就職してからも大切だと思います。「現場主義」、これを大切にしていきたいと思っています。

専攻科を修了するにあたって

電気情報システム工学専攻 西田 秀平

7年間の高専生活も残りわずかとなりました。長い期間でしたが、思い返してみるとあっという間に過ぎ去ったように思います。この高専生活もあとわずかだと思うと、感慨深い気持ちでいっぱいになります。

専攻科では、講義が本科とは異なり少人数で行われます。そのため、教員の各学生へのサポートも本科に比べて充実していると思います。また、プレゼンテーションを行う講義が多いことも特徴の一つです。就職活動、学会発表、学位授与などの重要な行事がありましたが、それぞれ異なる時期にやってくるため各々に力を注ぐだけの時間が十分にあったように感じました。

7年間を振り返ってみると、いろいろな出来事がありました。私が特に印象に残っているのは部活動のことです。高専に入学した当初から、私は吹奏楽部にずっと在籍しています。吹奏楽は中学の頃からやっていたのですが、最初の頃は経験者故に傲慢になっていたこともあり、「何だこんなバンド」と思いながらやっていました。しかし、部が氷河期を過ぎ、再生期を迎えるころには、私はこの部が大好きになっていました。部長や旅行責任者、学内行事でのポスター制作などを担当し、多くのことを学びました。専攻科に入ってから半指導者的なポジションとなり少し寂しさを感じましたが、後輩たちの成長していく様子を見ているとうれしい気持ちになります。

私は専攻科終了後就職し、社会へ出て行くこととなります。期待や不安な気持ちが入り交じっているところですが、高専で学んだことを少しでも生かし、がんばっていかうと思っています。また、吹奏楽も続けていければと思っています。

最後に高専でご指導いただいた先生方、先輩方、ともに学生生活を過ごしてきたクラスメート、部員のみんなにこの場を借りて御礼申し上げます。残りわずかな高専生活ではありますが、悔いの残らないよう十分に楽しんでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

専攻科を修了するにあたって

土木工学専攻2年 村田 友樹

鹿児島工業高等専門学校の土木工学専攻に入学し、早いもので2年が過ぎようとしています。本科の5年間を合わせれば、この鹿児島高専に計7年もいることになり、小学校よりも長くいるよと、本科時代のクラスメイトにからかわれたものです。しかし、これだけ長い期間高専に通っていると、残り少ない学生生活をしまうという気持ちが強く、小・中学校よりも愛着が沸いてくるように思えます。

思えば、僕がこの鹿児島高専に入学したとき、土木に対して非常に悪いイメージを抱いていました。現に、中学生で「土木」という言葉に、憧れを持っている生徒は少ないようです。しかし、僕はこの7年間、講義や実習などを受けてきて、土木に対するイメージが大きく変わりました。土木とは、社会のさまざまなところで活躍し、市民の生活に大きく関わる欠かせない分野であることを学びました。素晴らしい分野である反面、常に危険と隣り合わせの面もありますが、今では土木系の技術や知識を得ることができて良かったと思っています。

土木工学専攻に入学したことで、さまざまな経験をさせて頂きました。学会発表や特別研究などにより、人に伝える力も養えたと思いますし、TOEICにおいて英語力の大切さも改めて理解できました。また、他学科の分野の知識も学ぶことができたので、専攻科に入れて正解だったと思います。

土木の在り方を、講義などを通じて教えてくださった先生方には、心より感謝する次第です。土木の学生たちには、「自分がこの仕事をしたんだ」と胸を張って言える、そんな土木技術者になれるよう頑張っほしいです。また、他学科の在校生にも、高専でしか味わうことのできない学校行事や課外活動を楽しんでもらい、悔いの残らない学生生活を過ごしてほしいと思っています。

高専を離れることは寂しいことですが、ここで得た知識を、今後の自分の人生と社会に役立てることができるように、邁進していこうと思っています。いろいろ教えて頂き、お世話になりました。ここで学んだことは一生忘れません。本当に有難うございました。

－ 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 －

<機械工学科>

東芝プラントシステム株式会社
株式会社IHI
株式会社JAL航空整備東京
株式会社クリエート
株式会社コスモテック
株式会社コマツ
株式会社シマノ
株式会社西中製作所
株式会社ユピテル鹿児島
関西電力株式会社
九州電力株式会社
京セラ株式会社鹿児島川内工場
ソニーセミコンダクター九州株式会社
東海旅客鉄道株式会社
富士通株式会社
本田技研工業株式会社
三菱重工業株式会社神戸造船所
三菱重工業株式会社下関造船所
三菱重工業株式会社高砂製作所
三菱重工業株式会社長崎造船所
三菱重工業株式会社汎用機・特車事業本部
山崎製パン株式会社
三菱重工業株式会社長崎研究所
三菱重工業株式会社広島製作所
株式会社テクモ
豊橋技術科学大学機械システム工学課 (2名)
九州大学工学部機械航空工学科
熊本大学工学部機械システム工学科
鹿児島大学工学部機械工学科 (2名)
熊本大学 (工学部 数理工学科)
佐賀大学 (工学部 機械システム工学科) (2名)
鹿児島高専専攻科 (7名)

<電気電子工学科>

大阪ガス株式会社
株式会社JAL航空整備成田
株式会社ディスコ
関西電力株式会社 (3名)
九州電力株式会社 (3名)
京セラ株式会社
株式会社シマノ
中部電力株式会社 (3名)
東京電力株式会社
トヨタ自動車株式会社
福岡空港ビルディング株式会社
本田技研工業株式会社
三菱重工業株式会社長崎研究所
三菱重工業株式会社長崎造船所
三菱電機システムサービス株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
大陽日酸株式会社
電気通信大学
九州工業大学情報工学部 (2名)
九州工業大学工学部
広島大学工学部
熊本大学工学部
鹿児島大学工学部
鹿児島高専専攻科 (3名)

－ 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 －

<電子制御工学科>

株式会社サトー	
旭化成せんい株式会社	(2名)
アルバック精機株式会社	(2名)
アンドールプロテック株式会社	
大阪シーリング印刷株式会社	
株式会社JAL航空機整備東京	
株式会社ソフト流通センター 西日本支社	
株式会社トヨタ車体研究所	
株式会社日立アドバンストデジタル	
株式会社森精機製作所	
ソニーイーエムシーエス株式会社 一宮テック	(2名)
ソニーイーエムシーエス株式会社 幸田テック	
ソニーイーエムシーエス株式会社 湖西テック	
ダイハツ工業株式会社	
東京ガス株式会社	
日本モレックス株式会社	
パナソニックITS株式会社	
富士通株式会社	
三菱重工業株式会社長崎造船所	(2名)
ミツワ電子株式会社	(2名)
株式会社ソルクシーズ (イー・アイ・ソル)	
名古屋大学 (機械・航空工学科 電子機械工学コース)	
長岡技術科学大学 (工学部 生物機能工学科)	
豊橋技術科学大学 (電気・電子工学系)	
静岡大学 (工学部 電気・電子工学科)	
香川大学 (工学部 信頼性情報システム工学科)	
九州工業大学 (情報工学部 電子情報工学科)	
熊本大学 (工学部 情報電気電子工学科)	
鹿児島高専専攻科 (機械・電子システム工学専攻) (6名)	

<情報工学科>

関西電力 (株)	(2名)
京セラ (株)国分工場	(2名)
京セラ (株)隼人工場	
西テレ情報サイエンス	
西日本旅客鉄道 (株)	(2名)
バンタン電腦情報学院	(2名)
富士ゼロックス (株)	
富士通 (株)	(2名)
(株) ソフト流通センター	
(株) 富士通鹿児島インフォネット	
ケイ・シィ・ティ	
シャープビジネスコンピュータソフトウェア (株)	
豊橋技術科学大学工学部知識情報工学課程	
豊橋技術科学大学工学部情報工学課程	
九州工業大学情報工学部システム創成情報工学科	
九州工業大学情報工学部生命情報工学科	
九州工業大学情報工学部知識情報工学科	
九州工業大学情報工学部電子情報工学科	(2名)
熊本大学工学部情報電気電子工学科	
鹿児島高専専攻科 (電気・情報システム工学専攻) (7名)	

－ 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 －

<土木工学科>

エスケイエンジニアリング株式会社	
パソコン技術管理株式会社	
ライト工業株式会社	
株式会社シーティーアイグラウンドプランニング	
株式会社九建	
九州旅客鉄道株式会社	
九鉄工業株式会社	
五洋建設株式会社	
阪南コーポレーション株式会社	
三菱重工株式会社社長崎造船所	
西日本高速道路エンジニアリング株式会社	
西日本旅客鉄道株式会社	(4名)
大阪ガス株式会社	(2名)
大崎建設株式会社	(2名)
東海旅客鉄道株式会社	(2名)
東京電力株式会社	
日本貨物鉄道株式会社	(2名)
長岡技術科学大学	
香川大学	
宮崎大学	
熊本大学	
鹿児島高専専攻科	(8名)

<機械・電子システム工学専攻>

三菱電機プラントエンジニアリング株式会社
川崎重工業株式会社
アルバック九州株式会社
株式会社アルバック
ソニーセミコンダクタ九州株式会社
ミツワ電子株式会社
アルバック精機株式会社
名古屋大学エコトピア科学研究所
株式会社トヨタ車体研究所
九州大学大学院総合理工学府環境エネルギー工学専攻

<電子情報システム工学専攻>

ソニーイーエムシーエス株式会社湖西テック	
NOK株式会社	
パナソニックセミコンダクターオプトデバイス株式会社	
株式会社エス・イー・シー・ハイテック	
アルバック九州株式会社	
オムロンフィールドエンジニアリング九州株式会社	
パナソニックエレクトロニクスデバイス株式会社	
九州工業大学	(3名)
九州大学大学院	

<土木工学専攻>

株式会社NIPPOコーポレーション
株式会社KDDIテクニカルエンジニアリングサービス
九州旅客鉄道株式会社
東北大学大学院



退職のご挨拶

晴球雨読

一般教育科文系 山下 登

大学の助手を3年した後、鹿児島高専に来て30年が過ぎました。これまでたくさんの人たちとの出会いに支えられ、63歳の定年を迎えることができ感謝しています。退職を前にして、自分のことを振り返り、自分に直接向き合うことはすごく不安なことです。ここでは楽しかった思い出の多いクラブ活動について記します。

最初に担当したのは大学で4年間経験したバドミントン部です。まだ部としての体制が整ってなくて、その基礎作りが課題でやりがいもありましたが、運営方針等について当初は学生とよくケンカしたものです。

ワンダーフォーゲル部では、その第1回のイベントが昭和60年の3泊4日の高専～佐多岬縦走120キロでした。屋久島の宮之浦岳縦走（3泊4日）を2回、えびの高原縦走、五箇荘～椎葉、高専～蘭牟田池、そのほか大隅半島の主要コースはほとんど踏破しました。保護者の方にも現地ですいろいろお世話になりました。昭和62年3月13日の国鉄大隅線廃止の日、遠征の帰路、そのお別れ列車で高須駅（18：25発）から国分駅まで帰ってきたこともあり、また市房山（熊本県）では桜島と阿蘇の噴煙を同時に見るといった珍しい経験もしました。海老谷先生、占部先生との懐かしい思い出です。

テニス部では、平成元年の九州大会で団体戦としては初の優勝に立ち会うことができました。部員との桜島～高専50キロマラソンも楽しい思い出です。

最後は自転車競技部です。一番の思い出は平成7年の九州高校総体団体6位入賞と2回の全国高校総体出場（大久保先生との平成6年の富山大会と、保坂先生との平成7年の鳥取大会）です。平成7年のときは7月にコースの試走に鳥取まで出かけるなど学生もがんばり、チームロードレースで全国16位に入りました。

このようにいろいろな思い出が作れたのも高専ならではのことで、クラブという鏡に写る自分の姿を見ながらあれこれと思案し、自分の感情との折り合いをつけながら、鍛えられて、教師として少しは成長できたかなと思います。それは反面、私のこととして語れば、学生指導という名のもとに知的営為としての研究から遠ざかったという苦い経験であることも確かです。

これからは晴球雨読、そして「誰かのために、何かができる」という思いを胸に、新しい一歩を踏み出すことができればと願っています。いろいろなことがあったが、皆様と同じ時間を過ごすことができたことに感謝し、本校のより一層の発展と、皆様方のご健勝をお祈りして離任の挨拶と致します。

退職のご挨拶

一般教育科理系 丸山 伸夫

思いがけない縁で、平成2年4月に鹿児島高専へ転任し、早くも19年の歳月が流れました。振り返ると、この転任は郷里への単なるUターン以上の重大な意味があったように思えてなりません。かつて全世界に発信された地下鉄サリン事件が起きたのは平成7年3月7日朝の通勤時間帯で、もし私が引き続き地下鉄日比谷線の六本木にあった防衛庁（当時）に通っていたら、相当の高確率である事件の被害者となり、以後の人生は無かったかも知れません。

鹿児島高専在職中の前半は相対的に気楽な教員生活を送らせて頂きました。まだ独立行政法人に移行する前で、専攻科やJABEEも無く、授業以外で気を遣うことはローテーションで回ってくるクラス担任や主事補の役割を果たすときくらいだったように思います。先年定年退職されたH先生と霧島山麓や紫尾山で猪や鹿を追って野山を駆け回る中、衰退しつつある日本の農林業の実態をかいま見たのもこの頃でした。

前半が気楽だった分、後半の一時期は多少ともしんどい思いをしました。JABEEや独法化の波が押し寄せる中で、初代FD委員長に続いて教務主事の役が与えられ、関係者との意見調整や所要データの整理、作文等に汗をかく日々が続く、更に、降ってわいたような「鳥人間コンテスト出場」の朗報もありましたので、教務関係の重圧に加えて、部活顧問の一人として「プロジェクトX」の責任者も演じているような心境でした。

鹿児島高専へ転任していなければ決して遭遇しなかったであろう様々な出来事や貴重な体験が走馬燈のように思い起こされます。そして、私が無事定年を迎えられるのはご縁のあった多くの方々のご支援とご協力があったからこそだったと総括しております。この場をお借りして、現職及び退職された教職員の方々、後援会や同窓会関係の方々、そして学生諸君とその保護者の方々に御礼申し上げます。

退職のご挨拶

土木工学科 平田登基男

昭和62年4月、本校に赴任以来、22年が経ち、この3月31日で本校を退職します。この間、色々な人との出会いと様々な変化がありました。変化では学内はもとより、隼人の街、鹿児島県、日本そして地球規模の変化と挙げればきりがありません。大変化の時代の中に生きてきた感があります。

私は昭和20年8月1日、終戦直前に宮崎の片田舎に生まれました。日本が歴史上初めて国規模で敗戦の憂き目を味わった年です。それから20年間の少年時代は片田舎で過ごしました。前半は貧しい思いを沢山経験しましたが、後半は所得倍増論のおかげ(?)で物が豊かになり、豊かさを実感できるようになりました。東京オリンピックで「東洋の魔女」といわれた女子バレーが初めて金メダルを獲得し、日本中が熱狂した昭和39年もありました。

昭和40年4月に福岡の九大工学部土木工学科に入学しました。入学後、日本列島改造論で代表される高度経済成長期が続き、その時代に大学生活を過ごしましたが、博士課程までの9年間の生活は経済的には比較的恵まれていました。

昭和48年、第1回目のオイルショックを経験し、物価が急激に上がったことを覚えています。その翌年4月、九大の助手として勤務しはじめ、昭和60年7月助教授に昇任、昭和62年4月、本校に教授として赴任しました。

本校での思い出の一つに専攻科創設があります。当時の深井晃校長のもとで専攻科創設をお手伝いし、平成12年4月に専攻科が設置されました。そのことがJABEE認定への道を開き、本校のJABEE認定に繋がったのです。いい仕事をさせてもらったと思っています。もちろん本校教職員の大変な協力があった結果であります。もう一つの思い出は、既に故人となられた碇醇元校長の薦めもあり、平成5年に文部省の長期在外研究員としてイタリアのカリアリ大学に10ヶ月間出張させてもらったことです。そのことがきっかけで、外国人の教授や研究者との交流の輪が大きく広がりました。特に、イタリアのパドバ大学のラファエロ・コス教授とは家族ぐるみの付き合いを今でも続けております。

「一期一会」と言う諺がありますが、人の出会いの大切さを60有余年の長い人生の中で何度となく教えられました。

昭和20年に生まれ、少年期の20年を宮崎で、次の青壮年期の約20年を福岡で、そして壮・熟年期の約20年を鹿児島で過ごしました。次の20年(?)は夫婦共々できるだけ健康で幸せに暮らしたい。それが今の気持ちです。

退職にあたって

情報工学科 山田 一二

いつか教職に就きたいと思いながら、居心地のよかった企業生活に長居して、やっと7年前本校に赴任でき、ワシントン椰子が並ぶ校舎を前に、“南国に来た”と感じた日が昨日のようである。

教員になって、違和感を感じたことが2つあった。1つは、男子学生を「君」呼びすること。約30年間の前職場で、年齢、性別、職位に関係なく、「さん」呼びを通してきた私には、切り替えるのに意外と時を必要とした。しかし今では、「君」どころか、呼び捨てさえすることがある。他の1つは、校外で「先生」と呼ばれること。これはなぜか、未だに気恥ずかしさを感じてしまう。当初は、校内でさえ「先生」と呼ばれても自分に対しての声かけとは気付かずにいたことさえあった。さすがに、今では二つ返事。教師として自覚できるようになった証しかな?

私には本校で好きな場所・時間が3つあった。1つは、試験監督に行く1iの教室。そこには、桜島と霧島連山を同時に眺望できるという飛切りの贅沢がある。2つは、2i工学実験の時間。私にとって2年生は、人生の原点と位置付けた歳。学生から質問などがかからない時はしばしば、眼前の2年生の姿を援用して、はっきりと原点に戻り、そこから現在まで、くさくさ鳥瞰するという稀有な時間を持つことができた。3つは、自分の教員室。辺田小島が少し邪魔しているものの、錦江湾に浮かぶ桜島が窓いっぱい広がっている。着任当初、執務机が、桜島を背にする配置になっていたので、すぐ窓向きに変え、机上のLCDを見れば背景に桜島を拝することができ、桜島を借景とした教員室にした。

私は、着任2年目で4年、その翌年に5年の担任をすることができた。私の勤続年数では、4、5年の担任をする機会に巡り合えない場合がある。それを考えると極めて幸運であった。クラス全員の素晴らしい学生と2年間、密に接することができ、旅立ちを、直に手伝うことを通して、私の高専へのチェンジの目的を1つ叶えることができた。凜とした心延えの第15期生のみんな、ありがとう。

この段に至り、焦っていることがある。赴任してすぐ、桜島を描こうと意気込んで油彩50号のキャンバスを準備したものの、今以て真っ白のまま。時間切れだ、さあどうする、と裏返しに立て掛けた画布が日々語りかけてくる。

とにかく、総じて楽しく、意義深く、濃い高専教員生活であった。鹿児島高専の皆様7年間大変お世話になり、ありがとうございました。

離任のご挨拶

離任のご挨拶

一般教科理系 拜田 稔

退職のご挨拶

技術室 中原 和範

私が鹿児島工業高等専門学校に採用（昭和42年4月）され今日まで無事に努められたのは、先輩諸氏及び皆様のおかげだと感謝申し上げます。高専でのスタートは電気工学科をかわきりに昭和56年4月に電子計算機室（現情報教育システムセンター）に配置換えになりましたが、私は電子計算機のことは全然分からず当時電算室主任（渡辺先生）には大変お世話になりました。

当時の計算機は日立製作所のH I T A C 8250（昭和49年～平成元年2月まで）が設置されており、主記憶容量は96K B、磁気ディスクは15M B×2で入力はカード読取機（読取速度 750枚／分）でカードを読み取り計算処理するものでした。授業時間以外の計算処理は朝・昼休み時間・放課後の3回で、全部の処理が計算されプリントアウトされるまでの時間が非常に長かったのを覚えています。

昭和58年12月には図書館2階に本校初のパソコン教室が開室され、東芝のPASOPIA 16が24台（5インチFDD×2、メモリ256K B）、カラーCRT1台、グリーンCRT23台で、学生2人で1台のパソコンを利用した授業を行っていました。

今日、パソコン教室の3室にはパソコン150台が整備され、授業及び放課後に利用されており、隔世の感があります。

学内LANは平成3年4月より運用が開始されイーサネット接続28台、デジタルホン接続16台でスタートしました。現在は学内で約1,000台近くのパソコンが光ケーブルで接続され利用されています。

平成12年には技術職員が組織化され技術室が出来たことにより、私も20数年ぶりに学生実験に携わる事になり、ここ数年間は学生とのふれあいが広がり楽しい時期を過ごすことが出来ました。長年にわたり多くの方々に大変お世話になり、本当に有り難うございました。

最後に鹿児島高専のますますの発展と皆様方のご健勝・ご多幸を祈念致します。

1年間の教員交流も残りわずかとなりました。鹿児島での生活にもやっと慣れてきたところなのに、また東京へ戻るのは惜しい気がします。鹿児島高専滞在中は教職員の皆様をはじめ、学生さんたちにも大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

鹿児島の人たちは皆さん親切で、言葉の響きもやわらかく、心が安らぎました。引っ越してきたばかりの頃は、居心地が良くて、これでも同じ日本かと思ったほどです。このようなゆったりとした環境に生まれ、素直に成長した学生さんたちと授業を通じて交流できて、とても幸せでした。寮の宿直も楽しみでした。また、押し掛け顧問をさせて頂いた女子バレーボール部の皆さんには温かく迎えて頂き、感謝しています。皆さんのひたむきな練習姿勢には、いつも励まされていました。勉強との両立も大変ですが、これからも頑張ってくださいね。

鹿児島高専は、体育系のクラブの全国レベルの活躍のみならず、ブラスバンドやロボコンなどの文化系の課外活動や学生会活動なども盛んで、人間教育の場がここにあるなあと感じました。

秋の高専祭（文化祭・体育祭）も驚きでした。10月に後期が始まると校内が異様な熱気に包まれ、放課後にはうなり声。何かと思ったら、応援合戦の練習でした。11月の体育祭本番での応援合戦は、西南戦争の頃から伝統的に受け継がれてきているかのような、迫力のある見事な演技でした。観客が多いのにも驚きました。毎日放課後クラスメート同士で協力して描いていた絵は、張り合わせて1枚の大きな横絵になって体育祭のグラウンドの背景に飾られ、これも5学科での競い合いでした。まさに文化祭と体育祭の融合ですね。

11月には4Mの工場見学旅行に連れて行って頂き、九州各地の工場を見て回りました。見学の先方で卒業生が会社の説明や社会人としてのアドバイスなどをしてくれました。これも九州のよさかなと思いました。

鹿児島には私の知らない良さがまだまだたくさんあるのだと思いますが、もうすぐ桜島ともお別れです。將軍家に嫁いでは二度と桜島を見ることのできなかった篤姫は、きっと毎日のようにふるさとを思い出していたことと思います。私も東京へ帰ったら、毎日鹿児島高専の皆さんのことを思い浮かべているでしょう。

皆さんも、ずっと元気でいて下さいね。さようなら。

平成20年度表彰者

平成20年度教育功労者表彰について

この教育功労者は、本校の教育、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた方を表彰するものです。

教育功労者選考委員会委員及び各学科等の長から推薦のあった方について、平成20年7月17日（木）に教育功労者選考委員会を開催し、選考の結果、次の4名の方が平成20年度教育功労者に決定しました。この表彰式が、平成20年8月29日（金）に校長室で行われ、それぞれに表彰状及び記念品が授与されました。

所 属	氏 名
電気電子工学科	樫 根 健 史 講 師
土 木 工 学 科	山 内 正 仁 准教授
技 術 室	中 原 和 範 技術長
機 械 工 学 科	故 中 島 正 弘 教 授



平成20年度永年勤続表彰について

永年勤続表彰は、勤労感謝の日において、在職期間が20年以上の方を表彰するものです。平成20年度永年勤続表彰式については、平成20年11月21日（金）に校長室で行われました。また併せて、平成20年5月22日にご逝去されました故中島正弘教授の退職時（在職期間30年以上）の永年勤続表彰も行われました。表彰者は次の4名の方です。

所 属	氏 名
電子制御工学科	室 屋 光 宏 准教授
土 木 工 学 科	堤 隆 准教授
技 術 室	原 田 正 和 技術専門職員
機 械 工 学 科	故 中 島 正 弘 教 授



平成20年度留生活活動報告 (2)

一般教科文系 あべ松伸二

高専だより59号で報告された前期の留生活活動に引き続き、ここではその後実施された活動をご報告致します。

1) 学内

- ・月ごとの留学生会合、チューター会合
- ・寮留学生パーティ 10/3 (金)
- ・外国人留学生専門委員会 10/28 (火)
- ・高専祭にて留学生コーナー 11/1 (土)

2) 霧島市内

- ・九州沖縄地区留学生交流研修会
10/11 (日)～13日 (月)
- ・霧島ふるさと祭2008時の霧島市国際交流協会
イベント打ち合わせ会議 (国分) 10/21 (火)
- ・霧島ふるさと祭2008時の上記イベント
11/8 (土)～9 (日)
- ・上記イベント反省会 11/18 (火)
- ・国際交流の集い～世界の味ランチ～ (隼人町)
12/14 (日)

3) 霧島市外

- ・笠沙町で交流会 10/4 (土)～6 (月)
- ・鹿児島地域留学生交流推進会議懇談会 (鹿大)
10/30 (木)
- ・ホームステイ (財部町・吉留様)
12/6 (土)～7 (日)
- ・第5回鹿児島高専留学生日本文化勉強会
12/13 (土)
- ①書道体験 (県立伊集院高校)
- ②陶芸教室 (美山陶遊館)

本年度は、新霧島市国際交流協会設立に伴い、霧島市では様々な活動が企画され、実施されました。4名の留学生諸君は支障がない限り、できるだけ多くの活動に参加し、霧島市在住の多くの方々と交流を行いました。友情の輪が広がっていくことは大変素晴らしいものです。また特筆すべきものとして、九州沖縄地区留学生交流研修会があります。今年は3回目で本校が当番校になり、学生支援係を中心に準備が着々と進められてきました。九州地区の8高専から33名の留学生が集い、様々な研修を通して、有意義な交流ができました。



高専祭 (11/1 土) 国際交流コーナーにて



平成20年度九州沖縄地区留学生交流研修会



在校生のみなさんへ

機械工学科22期生 内蘭 洋祐

自分は卒業後、'89年三菱化工機(株)(神奈川県川崎市)に入社、'91年にソニーセミコンダクタ九州(株)(SCK)へ転職、来年で18年目となります。プラントから半導体へと業種が全く異なりますが、バブルに沸く時代の転職劇、昨今と比べ恵まれた時代だったと思います。

現勤務のソニーセミコンダクタ九州(株)は半導体製造業で、その中でも鹿児島TECは基幹工場の1つ。事業所は熊本、長崎、大分の計4ヶ所。福岡に設計事務所を構え、海外へも拠点があります。九州圏内に就職したいという方、半導体に興味がある方、生産技術系をやりたい方にはお勧めです。

ここでは製造設備の設備技術業務に従事し、気がつくとうと18年。自分には居心地のいい会社だったんでしょう。定年までがんばりたいと思ってます。社風は、比較的自由。学歴ではなく実力主義。学生時代は工場というイメージであり人気はありませんでしたが、現在は転職して良かったと思っています。

技術的なアドバイスは若い先輩からあるかと思うので、自分は会社生活をより円滑に過ごす為に培ったノウハウをつづりたいと思います。今後のお役にたてれば幸いです。

・まずはあいさつ：

さんざんさせられたと思いますが、継続することが大事。

・厳しい人の意見を大事に：

否定され非難され大きくなります。己を高めるチャンスと思うことです。

・部署外の人を知る：

機会があれば積極的に会話しましょう。多面的な見方ができます。

・海外は若いうちに：

チャンスがあれば是非。人生観が変わります。

・無駄な仕事はなし：

雑用と思えるものにも意味があります。その時は分かりませんが。

・同級生は大切に：

久しぶり会うと刺激、活力をもらえます。年々疎遠になりがちですが、連絡はとっておきましょう。

・会社で好きな時間、人を見つける：

1日の1/3以上は会社にいることになります。仕事だけでは参ってしまうので会社へ行く楽しみを作りましょう。

それでは有意義な学生生活を！



※写真：高専OBでの集合写真です。いい笑顔です。

感謝の気持ちをもつ

電気工学科20期生 藤井 靖人

卒業して22年ぶりに高専祭・体育祭に行った。22年ぶりに会う同窓生との再会と、何とんでも「応援合戦」が見たくて子供を連れていった。その時に感じた感想と、社会人になって感じたことを述べたいと思います。

先ず体育祭の応援合戦は期待通りのものであった。私も5年間応援団だったので、過去の記憶が蘇ってきて、一緒に応援している気持ちになった。電気工学科の伝統の「エイヤーや鯉の滝登り」が22年前から引き継がれていたことに感慨深いものを感じた。但し課題もある。体育祭の最後の競技の色別対抗リレーが本気の競争になっておらず当時の文化が消えていたことは寂しく思った。在校生の皆さんの今後の奮起に期待します。楽しいのもいいがもっと一所懸命さも必要！

また、社会人になって思うことは、「感謝の気持ちをもつ」ことです。私は徳之島出身で、中学の先生の薦めで高専に入学し、5年間の学生生活でかけがえのない人生の友人を得た。私たちが今日あること、そして存分に学べること、働けることは、ここまで育ててくれた両親や家族、クラスの仲間はもちろん、先生や周囲の多くの人々の支援があるからこそです。決して自分だけでここまでこられたわけではありません。このことを忘れずに、常に周囲へ感謝の気持ちを持ち、お互いに信じあえる仲間となるのが大切です。

私の場合を振り返ってみると、天城中の3年の時の先生に、「夢をもて」「自分の将来を描きいなさい」と言われエンジニアになるために高専進むことを決意した。その時の先生や高専での担任の教授には、今この年になって感謝の気持ちが一杯である。特に両親には感謝している。けして裕福な家ではなかったが、「自分の将来は自分で築け」と小さい頃から言い聞かされており、中3で家を出る際も後押し頂いた。現在、私には中3の高校受

験生がいますが、いざ学費を出す立場になって今頃両親のありがたさに感謝する次第です。今の時代は、現実には厳しく、今日一日を生きることさえ大変かもしれません。しかし、その中でも未来に向かって夢を描けるかどうかで人生が決まってきます。どんな逆境にあっても、どんなに辛くても、常に明るい気持ちで希望を持ち続けながら一生懸命努力を重ねれば人生は開けると思います。今年22年ぶりに同窓会を開催します。やっぱり高専時代に一緒に過ごし、部活で励ましあい、今だから言えますがオーバーザフェンスをした友が一生の財産です。在校生の皆さん、「感謝の気持ちを持ち」いつも明るく元気よく！何事も最後は気力、熱意、考え方が大事ですよ。

航空機の整備士となって

電子制御工学科13期生 永田 裕二

私は、今年の春に鹿児島高専を卒業して、JAL航空機整備成田に入社しました。私の会社では主に、国際線の飛行機を中心に整備作業をおこなっています。飛行機の整備といっても整備の種類は様々あり、運行整備と運行点検整備等があります。私はその中でも運行点検整備の方で整備作業をおこなっています。さすがにあれだけの大きさの飛行機ですから、運行点検整備では整備作業をそれぞれのスキルごとに分けて整備をおこないます。私は、第2運行点検整備課というところに所属しています。通称H/L（ハイドロ&ランディングギア）と呼ばれており、飛行機の足回りやハイドロ関連等の点検・整備をおこないます。ハイドロといってもピンとこないと思いますが、人間に例えると血液みたいなものです。人間は心臓がポンプの役割を果たしていて、体の隅々まで血液が流れていき、人間は生活できます。飛行機もこれといっしょで、ハイドロがポンプによって飛行機全体の主要部にいきわたり、アクチュエータを動かして様々なものが動くというわけです。このハイドロを飛行機に適切な量を入れたり、ハイドロが流れているホース・チューブを交換したり多くの作業を扱っています。私の所属している課は力を必要としてくるので、パワーと気合が大事です。その中でもタイヤを換える作業は多くあり、まだまだ半人前なのでタイヤを換えた後はつなぎ、顔が真っ黒になります。でも鏡で自分の顔を見ると、達成感が沸いてきます。私がこの会社に入ってよかったなと思うことは、まず体を動かせること、尊敬できる先輩がたくさんいること、分からないことが多すぎるので分かったときの喜びが味わえること、いろいろな資格をとらせてもらえること、そして日に日に人間としても成長できているなど実感できることです。辛いことは、シフト制なので

決まった休みがないこと、夜勤がきついこと、飛行機のことを全然分からないので学生時の2倍以上は勉強しないといけないことです。中でも1等航空整備士という国家資格を取得する際は、合格率も低く飛行機のシステム全てを覚えられないといけないので、会社にいる限りは常に勉強です。

最後に、これから就職に向けて頑張っていくみなさん、今授業などを受けていて、この教科はこの先こんなの役に立つのかなって思っているんじゃないかなと思います。私はそうでした。でも、絶対どこかで役に立ちます。私は、あの時ちゃんとやっておけばよかったなと常々後悔しています。こんなこと社会にでないとなかなか分からないですが、今与えられている時間を少しでも自分のものにしていてください。

Que sera, sera（ケセラセラ）

情報工学科4期生 田中しおり

1. はじめに

高専生の皆さん、こんにちは。鹿児島高専情報工学科を卒業して約15年。早いものです。幸田先生に出前講座（ロボットコンサート）に来ていただいたことがきっかけで、今回の原稿を依頼されました。

これまでの社会人経験の紹介と高専の皆さんへのアドバイスについて書いてみたいと思います。今後の参考になると嬉しいです。

2. 初めての就職

私は、平成6年（高専卒業後）から平成11年まで、福岡市にある「九州テクシス株式会社」（現・NTTデータ九州株式会社）に在籍しました。

[会社の特徴]

- ① NTTデータ100%出資により平成2年設立
→ 私が入社したときは、親会社からの出向者以外は若者ばかりでした！高専卒は私が初めてでした。
- ② 「金融分野」「公共分野」を中心にシステム開発
→ 私は、金融系のシステム開発を担当

[仕事の内容]

私の所属していたプロジェクトでは残高照会、入出金明細照会、振込／振替等の銀行取引をリアルタイムに行うシステムのユーザーインターフェース部分を担当しました。具体的な作業は以下のとおり。

- ・ フォーマットの設計（ドキュメント作成）
- ・ プログラミング
- ・ 各種テスト（単体テスト、総合テスト、運用テスト）

[感じたこと]

社内で初めての高専卒ということで、ついていけるか心配でしたが、仕事については問題ありませんでした。研修、経験、努力で大卒の人と同様にやっています！

仕事の内容や量が想像できないのに、自分で作業計画をたてないといけないのが当時は大変に思いました。

納期前の残業の日々は大変！ホワイトカラーでも、体力勝負であることを知りました。

あと、若いだけに世間（一般常識）知らずだったような気がします。

3. 現在の仕事

いくつかの仕事を経て平成15年に鹿屋市役所の職員になりました。

[鹿屋市役所の様子]

- ・ 3～5年で課を異動
- ・ パソコンが1人1台配布（平成15年度）
- ・ 市町村合併に伴う新システム導入（平成18年1月）

[仕事の内容（主なもの）]

- ① 平成15年 税務課
→ 証明発行窓口業務
- ② 平成19年 情報行政課
→ 鹿屋市ホームページ作成業務
情報公開・個人情報保護関係業務

[感じたこと]

意外（？）と忙しいです。仕事の内容からわかるように、いろいろな種類の業務がありますし、（法律に基づいて仕事をするので）根拠となる法律の勉強が必要です。法律の勉強をすることになるとは、思わなかった・・・

4. 高専生へのアドバイス

プログラミング等の技術習得は、就職してからでも間に合います。この分野に向いてないかもと思っていても、5年もたてば立派な（？）技術者になれますよ！

地方公務員については、まだまだ情報系技術者を必要としているので、大丈夫だと思います。

全ての組織的な仕事にイえることですが、仕事を「一人でかかえこまない」ようにしましょう。そのためには、「わからないことは質問して理解する」「自分勝手な判断をしない」「上司に相談・報告する」等してください。一人でかかえると潰れてしまいます・・・

コミュニケーション能力を磨いてください！

5. おわりに

地元に戻ってきてから、何名かの高専OBの方と知り合いました。それぞれに人生を積み重ねてきていて、職業も会社員のほか、学校の先生、税理士、社長、公務員等幅広いです。現在は高専での専門とは違う仕事をしている人も結構いますが、高専での経験があってこそ役立っていることが沢山あったようで、みんな、高専の卒業

生であることを誇りに思っています。

高専生の皆さん、自信を持って社会に出てくださいね。困難なことがあっても、何とかなるし、成せばなります。応援しています！

同窓会に参加しよう

土木工学科5期生（昭和51年卒） 井手之上清治

このたび、めでたく卒業される学生諸君おめでとう。これが社会人としてのスタートラインですからこれから、自分の進むところを信じ真っ直ぐに進んでください。

同窓生の皆さんお元気ですか。私は、土木工学科の南九州同窓会である熊襲会の副会長をしています。紙面をお借りして初代土木教室の主任であった有田達先生が熊襲会の創刊号の巻頭言に寄せられた言葉を紹介します。

1 同窓会は利益社会と異なり、会員の主体性の上に支えられた貴重な集合体であるから、組織は手段でなく純粹目的的事であること。即ち全会員参加の親睦グループであることが望ましい。

2 会発足のためには、会の世話役方当番になった役員の方々は＜損得＞を超越して会の面倒をみてやらねばならない。また、会員はこれに呼応しなければならない。

3 土木社会は、現時においては構造汚職の欠陥があるから、同窓会はこれに巻き込まれてはならない。むしろ、会員相互に戒め合うことが大切である。

4 同窓会は、会員各自が人間として成長するいわば＜故郷（ふるさと）＞である。壁にぶつかったり、活力を失ったときこそ同窓会に出席せよ。

5 同窓会は、できるだけ安い会費で運営し、それだけに会員は会費を滞納せぬよう心掛けねばならない。

6 同窓会は、酒を呑み、新陳代謝旺盛にして常に若くあることが望まれる。

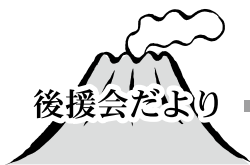
7 同窓会は、会員相互の連絡がよく取れていなければならない。

8 同窓会は、「縦組織」でなく「横組織」である（先輩、後輩は無礼講）。

9 同窓会は、「鹿児島高専同窓会」の母体とならなければならない。

10 同窓会は、将来まで母校の発展を見届けて行かなければならない。

「故郷の山に向かい言うことなし 故郷の山はありがたきかな」啄木の詩ですが、山が先輩になったり、後輩になったりします。鹿児島高専の卒業生と聞いただけで、限らない親しみ、愛情を感じます。皆さん、これからも元気で活躍ください。同窓会で会いましょう。



全国高専体育大会と 高専ロボコン2008全国大会

後援会長 花田 義隆

平成20年度の全国高専体育大会では、テニス部が団体戦で初の全国制覇を決め、また個人戦男子ダブルスで優勝、男子シングルスでベスト4、ソフトテニス部が決勝トーナメント（ノックアウト方式）へ進みベスト4、サッカー部が準優勝、陸上部は男子400mで5位入賞、男子800mは4位入賞、男子1600mリレーで準優勝、1500mで3位と6位入賞など、大変素晴らしい成績を残してくれました。学生諸君の奮闘努力ももちろんのことですが、顧問の先生方の熱い思いと指導がそして学外指導者の方々の熱心な指導の賜と、心から賛辞をお贈りいたします。

一方ロボコン大会とは申しますと、九州大会でAチームが準優勝しBチームは特別賞を受賞して、11月東京の両国国技館で行われた「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2008全国大会」に出場しました。この大会は全国から61校62キャンパスの高等専門学校が参加する全国規模の教育イベントであります。最終的に全国8地区予選を経て選抜された25チームが全国の頂点を目指して、斬新なアイデアとロボット制作技術とロボット操縦の技能を戦わせます。我が鹿児島高専クルーは「篤姫（ひめ）と機械（奇怪）な仲間たち」で全国大会へチャレンジいたしまして、見事にアイデア賞と（株）安川電機特別賞を射止めました。この快挙も、本県南日本新聞でも紹介されましたが、先生方の本当に熱い指導と情熱が、学生の気概とが一体になって成し得たものと感じております。教育を通じスポーツを通じて鹿児島高専の活性化が図られ、全国へ向けて大きな情報発信をしていただきました。これからも後援会として積極的なバックアップ体制を築いていかなければならないと考えておりますので、後援会の皆様の更なるご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。



後援会理事に携わって

後援会副会長 吉満くるみ

息子の入学と共にクラス理事となり、卒業と同時に私も5年間の理事を卒業する事になりました。

1、2年時は、会議に参加し理解する事に一生懸命でした。3年時は、授業参観、クラス懇談会について先生方との話し合いの結果、実行することが出来ました。4、5年時は、副会長という大役を仰せつかり、他の方々の協力の下、自分なりに頑張ってきたと思います。

今年度は、4月の総会で始まりました。今年から後援会から学校主催となった授業参観。クラス懇談会は1～3年生の同日開催となりました。また各支部会は、台風接近により中止となった本校を除き、離島を含む5地区で開催することができました。私も初めて離島支部の奄美へも参加させて頂きましたが、各会場では学校での学習面、生活面、就職状況等、寮内での様子等を知る事が出来ました。そしてOBの方による経験談は、卒業後の話や社会生活状況等聞けて勉強になりました。

これも学校関係者、保護者の方々の協力があったからだと思います。ありがとうございました。来年度もという声がありますので、継続していけるようにしたいと思います。

前年度から、保護者の方々の協力の下行われている校内清掃は、ケガもなく無事終わることができました。学生は文化祭と体育祭と気持ち良く出来たのではないのでしょうか？

このような後援会活動が出来たのも、会員の皆様、学校関係者の協力がなければ、実行出来ない事だと思います。これからも皆様のご意見、ご協力をこれまで以上によろしくお願いいたします。



高専ロボコン全国大会

後援会主催行事に参加して

後援会副会長 折田 斉人

10月18日、文化祭・体育祭前に草払いが行われました。始めのころは少なかったという参加者も今年は、保護者、学生、及び先生方合わせて120人という大人数の参加がありました。工事中の棟や、グラウンド使用中もあり学内全体を一斉にとはいきませんでした。が、学年ごとに別れて、草取り、枝払い、ゴミ拾い等を行いました。みなさんとても一生懸命に取り組んで作業に集中され、あっちこっちに草、枝、ゴミ等の山ができました。収集で学生の協力もあり、てきぱきとかたづけて、すべてが終わった時には、学内が明るくなったような気がしました。

以前、三角主事が高専だよりで『教室がきれいだと勉学に身が入る。学生、教員一体となって教室の美化に取り組むようにしたい』とありました。これに保護者も加わり、学校全体の美化に協力し、学生達が勉学にスポーツに励むことができるような環境造りにお手使いができればいいと思います。そして鹿児島高専が今まで以上に向上していければと思います。

草払いの時、年に一度はかえって大変。せめてもう一度ぐらい。という声も聞きました。また後援会のアンケートでは、もう少し学校に顔を出して、子供達の様子、学校のこと等知りたいとありました。本校へ入学した時から学生となり、親から離れていきますが、私たち親の方は子離れは急にはできません。授業参観や保護者懇談会、及び奉仕作業等、もう少し学生生活に携われることができれば、安心してお互いに自立していけるのではと自分自身思います。

今後とも、学校と一緒に子供達を支えられるよう、後援会の一員として協力していきたいと思います。



5年間をふり返って

機械工学科5年 理事 前田みずほ

こんな近くに、こんなにきれいな桜があったとは・・・と驚いたのは、5年前の入学式の日。満開の桜が息子たちの入学を祝ってくれているようで感動したことを思い出します。あの日からあっという間の5年間。もうすぐ卒業です。

入学当初、息子は5年後には就職をするものと思っていました。しかし、2年過ぎた頃から進学希望に変わり、その希望通り5年生になると編入試験を受け、進学を現実のものとなりました。親としては、最初から普通高校に行くべきだったのではと思い悩みました。しかし、息子が高専で学んでいくうちに、自分なりに考え、悩み、決めたことならと応援することにしました。

卒業して大学生となる息子。成人式も向かえ、大人の階段を上っていくことになります。やはり心配はつきません。めまぐるしく変動する今の世の中、私たちの世代は味わったことのない不況に先々不安をおぼえます。しかし、息子には自分の人生、様々なことを経験し、できる限りの知識を見につけて、たくましく突き進んでほしいと思います。この高専で出会ったかけがえのない友人、そして、これから出会う多くの人たちとの出会いを大切に、悔いのない人生を歩んでほしいと思っています。

私自身も理事を引き受けて5年間、十分なお手伝いもできませんでした。が、様々なことを学ばせていただくよい機会となりました。周りの理事の方々の常に一生懸命な姿勢には感心させられました。子供たちのためという気持ちがあっただけだと思えます。皆さんと知り合うことができたことに感謝します。5年間、本当にありがとうございました。



後援会による奉仕作業

学校へ行ってみませんか

監査役 下吉 靖孝

私、平成十九年度より監査役として後援会の仕事に携わっております。監査役というのは後援会の予算執行が適正に行われているかをチェックする役ですが、当然学校に行く機会も多くなり、先生方と話す機会や後援会や学校が取組んでいることに直接触れる機会も多くなります。

皆様、鹿児島高専って、どんな学校かよくご存知ですか。普通高校を卒業している私にとってはなかなか想像しにくいものです。高校のような、大学のような？授業のカリキュラムは？高専の後援会ってどんな活動を？高専は普通高校と当然違い、一年生から学生の扱いになり、学生一人一人の自主性を重んずる校風です。私は、大学と同じような扱いになるので、保護者としてあまり関わりを持つ必要はないのではと考えていました。

しかし、後援会の監査役になり様々なことにふれることとなります。高専自体、国立から独立法人に変わり、運営の改善を余儀なく求められています。そのような中、高専側と後援会がお互いに手を取り合い情報を共有し、高専をさらに質の高い、透明性のある学校へと協働していることに、いろいろなことに参加する中で気づかれます。

では、後援会が具体的にどのような活動を学校と協働しておこなっているかいくつかあげてみましょう。

まず、高専の学習や生活の様子、後援会の取り組みを保護者の皆様に知っていただこうと、先生方に協力をいただき地区別に支部会を開催しています。県内各地から入学して来ますので、なかなか学校に行くことができない方もおられます。実を言いますと息子が一年生の時私自身奄美大島に勤務しており、島での開催に感謝したことを思い出します。

また、後援会に寄せられた意見を基に、学校側にお願いし授業参観を実現しました。今年で四年目になりますが、高専を知る機会になり、一年生の保護者には特に好評です。

時には学校側の要望にお答えすることもあります。様々な活動の学生の移動や学会への参加等々のため、ワゴン車を購入してほしいということでした。独立法人になり、厳しい予算の中です。学校の発展や学生の教育の向上のため理事会で吟味し協力をしています。

部活動も体育系二十七クラブ、文科系十クラブあります。現在、七十八・三%の加入率で、全国大会にも五クラブ出場しています。その活動にも後援会としてバックアップをしています。まさしく文武両道です。様々な行事が学校、後援会で開催されています。まずは、それらに参加し、高専を知っていただきたいと思うので

す。後援会事務室には、非常勤ですが常務理事さんが勤務していらっしゃる、いつでも明るく迎えてくれます。まずは、学校に行ってみませんか。



保護者懇談会



文化祭（ブラスバンド部コンサート）



全国高専体育大会（テニス競技：北海道旭川）

平成21年度行事予定表

平成21(2009)年4月				平成21(2009)年5月				平成21(2009)年6月				平成21(2009)年7月			
日	期日	行事		期日	行事		期日	行事		期日	行事		期日	行事	
		本 科	専攻科		本 科	専攻科		本 科	専攻科		本 科	専攻科		本 科	専攻科
1	水	総合交代式／開校60周年記念式典／入学式(10時)／入寮式(14時)／オリエンテーション(学年別8日主)		1	金		4	21	1	月		8	39	1	水
2	木	体育大会／学年別オリエンテーション／オリエンテーション／オリエンテーション		2	土			2	火			8	40	2	木
3	金	体育大会／学年別オリエンテーション／オリエンテーション／オリエンテーション		3	日			3	水			41	3	金	短縮授業
4	土	体育大会／学年別オリエンテーション／オリエンテーション／オリエンテーション		4	月			4	木			42	4	土	一日休校入学
5	日			5	火			5	金			43	5	日	
6	月			6	水			6	土			44	6	月	短縮授業
7	火			7	木			7	日			45	7	火	短縮授業
8	水			8	金			8	月			46	8	水	短縮授業
9	木			9	土			9	火			47	9	木	短縮授業
10	金			10	日			10	水			48	10	金	短縮授業
11	土			11	月			11	木			49	11	土	休校
12	日			12	火			12	金			50	12	日	
13	月			13	水			13	土			51	13	月	
14	火			14	木			14	日			52	14	火	
15	水			15	金			15	月			53	15	水	
16	木			16	土			16	火			54	16	木	
17	金			17	日			17	水			55	17	金	
18	土			18	月			18	木			56	18	土	
19	日			19	火			19	金			57	19	日	
20	月			20	水			20	土			58	20	月	
21	火			21	木			21	日			59	21	火	
22	水			22	金			22	月			60	22	水	
23	木			23	土			23	火			61	23	木	
24	金			24	日			24	水			62	24	金	
25	土			25	月			25	木			63	25	土	
26	日			26	火			26	金			64	26	日	
27	月			27	水			27	土			65	27	月	
28	火			28	木			28	日			66	28	火	
29	水			29	金			29	月			67	29	水	
30	木			30	土			30	火			68	30	木	
31	日			31	月							69	31	日	
短期入寮検査				交通安全講習会(1,2,3年)				交通安全講習会(4,5年)				西日本地区高等学校弓道大会(久留米)			
第3回特別説明会				高校総体				西日本地区高等学校空手道大会(大島前松7/12)				公開講座			
TOEIC(R5年生)								二輪車実技講習							

平成 21 年 度 行 事 予 定 表

No.2

平成21(2009)年8月					平成21(2009)年9月					平成21(2009)年10月					平成21(2009)年11月				
曜 日	日 出 席 数	行 事	本 科	専 攻 科	曜 日	日 出 席 数	行 事	本 科	専 攻 科	曜 日	日 出 席 数	行 事	本 科	専 攻 科	曜 日	日 出 席 数	行 事	本 科	専 攻 科
1 土					1 火					1 木	1	短縮授業／全体集会／後学期 授業開始／専攻科研修会			1 89	1 日	短縮授業(体育祭) カブコン九州予選地区大会(中継)		111
2 日					2 水					2 金	1	科目交換会受付／新学科目募集 会発行			1 90	2 月	高等学生代休		
3 月 (13時)	83	特別研究			3 木					3 土					3 火		文化の日		
4 火 仮締切(13時)	84	特別研究			4 金					4 日					4 水				5 112
5 水 前学期末試験	85	特別研究			5 土					5 月					1 91	5 木			6 113
6 木 前学期末試験	86	特別研究／答案返却・解説			6 日					6 火					1 92	6 金			5 114
7 金 前学期末試験／後学期選択科 目受験届提出	87	特別研究／答案返却・解説			7 月					7 水	1	後学期選択科目受験届締切／ 即学部科目再試験届提出			1 93	7 土		後期学力・社会人選抜試験	
8 土 答案返却・解説	88	特別研究			8 火					8 木	2				2 94	8 日			
9 日 閉寮(11時)					9 水					9 金	2	留学生バーチャイ／運営会議			2 95	9 月	1年生工場見学旅行		4 115
10 月 ／通試験開始		夏季休業開始			10 木					10 土					10 火		1年生工場見学旅行		5 116
11 火					11 金		運営会議			11 日					11 水		1年生工場見学旅行		6 117
12 水					12 土					12 月		体育の日			12 木		1年生工場見学旅行		7 118
13 木					13 日					13 火	2				2 96	13 金	1年生工場見学旅行 運営会議		6 119
14 金					14 月					14 水	2				2 97	14 土			
15 土					15 火					15 木	3				3 98	15 日			
16 日					16 水					16 金	3	校務連			3 99	16 月			5 120
17 月 成績入力締切(17時)		成績入力締切(17時)			17 木					17 土		院議者懇談会 プロコン本戦(本更選)			17 火		後期学力・社会人選抜判定会 議		6 121
18 火 全国高等学校体育大会 (九州予選)					18 金		校務連			18 日		プロコン本戦(本更選)			18 水		後期学力・社会人選抜合格 発表		7 122
19 水 全国高等学校体育大会(九州予選)		後学期時間割編成／ 九州予選			19 土					19 月		院議者懇談会 プロコン本戦(本更選)			2 100	19 木			8 123
20 木					20 日					20 火	3	後学期選択科目受験部退属 切			3 101	20 金	後学期中間試験時間割発表 校務連		7 124
21 金 全国高等学校体育大会 (九州予選)					21 月		敬老の日			21 水	3				3 102	21 土			
22 土 全国高等学校体育大会 (九州予選)					22 火		国民の休日			22 木	4				4 103	22 日	院議者懇談の日 プロコン全国大会(福岡県校部)		
23 日 全国高等学校体育大会 (九州予選)					23 水		秋分の日			23 金	4	院議者懇談会 プロコン本戦(本更選)			4 104	23 月	院議者懇談の日 プロコン全国大会(福岡県校部)		
24 月 全国高等学校体育大会 (九州予選)					24 木		親外補習(29日まで)			24 土					24 火		院議者懇談の日 プロコン全国大会(福岡県校部)		7 125
25 火 全国高等学校体育大会 (九州予選)					25 金					25 日					25 水				8 126
26 水 全国高等学校体育大会 (九州予選)					26 土					26 月	3	後学期学力・社会人選抜試験受付(10 日まで)／学位申請論文審査会			3 105	26 木	月曜日の授業／欠履時取入れ 開始		6 127
27 日 全国高等学校体育大会 (九州予選)					27 火					27 水	4	短縮授業／高専祭準備／夜内 一言清掃			4 106	27 金			8 128
28 金 成績会議／全国高等学校体育大会 (九州予選)		成績会議			28 月					28 火	4	短縮授業			4 107	28 土			
29 土					29 火					29 木	5	短縮授業／高専祭準備／夜内 一言清掃(予備日)			5 108	29 日			
30 日					30 水		部屋新発表(10時)			30 金		高専祭準備／バーサル 特別研究			109	30 月			7 129
31 月										31 土	110								
九州沖縄地区高専英語弁論大会(久留米)					地区別学校紹介 後援会支部総会 2年生海外語学研修 学生交流(シンガポール・クアラルンプール)					中学校個別訪問 鹿児島県教育委員会									

平成21年度行事予定表

No.3

平成21(2009)年12月					平成22(2010)年1月					平成22(2010)年2月					平成22(2010)年3月						
曜 日	回 数	行 事		出 席	曜 日	回 数	行 事		出 席	曜 日	回 数	行 事		出 席	曜 日	回 数	行 事		出 席		
		本 科	専攻科				本 科	専攻科				本 科	専攻科				本 科	専攻科			
1	1	火	後学期中間試験 特別研究	130	1	月	金	入学願書受付(10日まで)／再試験結果入力開始(13時)	13	1	月	再試験結果入力開始(13時)	13	1	月						
2	2	水	後学期中間試験／大前期数入 方後(締切15時)	131	2	土		元旦		2	火		特別研究論文提出締切(17時)	13	2	火	卒業研究発表				
3	3	木	後学期中間試験	132	3	日				3	水			14	3	水	成績入力締切(15時)	特別研究中間発表会(1年)			
4	4	金	後学期中間試験	133	4	月		仕事始め		4	木		後学期末試験	15	4	木					
5	5	土			5	火				5	金			14	5	金		1年生成績入力締切(17時)			
6	6	日			6	水		開校(10時)		6	土				6	土					
7	7	月		8	134	7	木	授業開始	11	146	7	日			7	日					
8	8	火		8	135	8	金	運営会議	10	147	8	月	後学期末試験時間発表	14	167	8	月	卒業判定会議(13時30分)			
9	9	水		9	136	9	土			9	火	再試験結果入力締切(17時)	再試験結果入力締切(17時)	14	168	9	火	平成22年度前学期時間割編成			
10	10	木	寮生講話	9	137	10	日			10	水	次年度前学期選択科目受講品 受付(24日まで)	後学期末試験	15	169	10	水				
11	11	金	休講／学生会主催行事・学生 総会／運営会議	138	11	月		成人の日		11	木		徳園記念の日		11	木					
12	12	土			12	火	推薦入学願書受付(18日まで)			11	148	12	金	大前期数入力開始 運営会議		15	170	12	金	連続判定会議(13時30分)／ 開任式(教員)／運営会議	成績会議
13	13	日			13	水	3年生学習到達度試験 (3年生平常授業なし)			11	149	13	土				13	土			
14	14	月		9	139	14	木			12	150	14	日				14	日			
15	15	火		9	140	15	金	校務連		11	151	15	月				15	171	15	月	
16	16	水		10	141	16	土	全国専専英語プレゼンテーション コンテスト			16	火		後学期末試験／成績入力開始	15	172	16	火	卒業式	修了式	
17	17	木		10	142	17	日	全国専専英語プレゼンテーション コンテスト			17	水		特別研究	173	17	水				
18	18	金	校務連	9	143	18	月	志学會ハートライ(寮長選挙)		11	152	18	木	後学期末試験／大前期数入力 原簿切(15時)		174	18	木			
19	19	土			19	火	休講／送別/クラスマッチ／ 選考会議	特別研究		13	19	金		特別研究		175	19	金	校務連		
20	20	日			20	水				12	154	20	土				20	土			
21	21	月	成績入力締切(17時)	10	144	21	木			13	155	21	日	入学試験・検点		21	日	春分の日			
22	22	火	短縮授業	10	145	22	金			12	156	22	月	後学期末試験		22	月	振替休日			
23	23	水	天皇誕生日 閉校(11時)		23	土					23	火	後学期末試験／入試判定会議 年生成績入力締切(17時)	特別研究／答案返却・解説 2	176	22	月				
24	24	木	冬季休業開始		24	日	推薦入試				24	水	後学期末試験／次年度前学期選択科目 募集開始切／答案返却・解説	特別研究	177	23	火	学年末休業開始			
25	25	金			25	月				12	157	25	木	退校願書提出切／答案返却・解説 学力合格者決定通知		25	木				
26	26	土			26	火	推薦入学判定会議			12	158	26	金	答案返却・解説／卒業式／清 掃／HR／警備	修了判定会議(15時30分) ／特別研究	179	26	金			
27	27	日			27	水				13	159	27	土			27	土				
28	28	月	仕事納め		28	木	推薦入学合格発表			14	160	28	日			28	日				
29	29	火			29	金				13	161					29	月				
30	30	水			30	土	学生会リーダー研修									30	火				
31	31	木			31	日										31	水				
学生会長立会費徴収・運営					TOEIC Bridge (1～3年生)					内定者集約日(合格発表)											
TOEIC P (4年生)					全国高等学校体育大会(神戸市立高専)					平成22年度特別研究発表会→提出締切					学生交流(シンガポール・ボリテクカレッジ)						

編 集 後 記

「高専だより」第60号をお届けいたします。
今号は「学生支援GP」を特集しました。現在その他にも「教育GP」や「戦略的大学連携支援事業」への取り組みがなされています。

2008年を表す漢字は「変」でした。日本の首相の交代、変革を訴えたオバマ氏の米国次期大統領決定、株価暴落や円高ドル安、地球温暖化の深刻化などさまざまな「変」に象徴される年でした。本校を取り巻く環境も急激に変化し、じっくりものを考える暇がないほど多忙になってきています。スクールはその語源であるスコレー（暇）と疎遠になってしまった感があります。

3月には校舎の改修工事も終わり、新しい教育・研究環境の中で、また新しい三主事のもとで平成21年度をむかえます。きっと良い「変」をもたらしてくれるものと期待しています。

最後になりましたが、発行に当たりましては、年末年始の忙しい時期に快く原稿執筆をお引き受けいただいた執筆者各位に対して、委員一同厚く御礼を申し上げます。

「高専だより」専門委員会委員

委員長	山下	登	（一般教育科文系）
委 員	嶋根	紀仁	（一般教育科理系）
	塚本	公秀	（機械工学科）
	奥	高洋	（電気電子工学科）
	福添	孝明	（電子制御工学科）
	新徳	健	（情報工学科）
	足田	誠	（土木工学科）

担当事務 小田原正享（入試広報係長）

「鹿児島高専だより」第60号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会
発 行 鹿児島工業高等専門学校
〒899-5193
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1